



神奈川県

政策局政策部
情報公開広聴課

令和4年度

県民ニーズ調査

基本調査…………… 令和4年12月公表

県民の生活と県政についての意識調査

第1回課題調査…………… 令和5年2月公表

テーマ「食・食育」「食の安心・安全」「神奈川の農林水産業」

「肝炎対策」「将来の住まい」

「SDGs(持続可能な開発目標)」

「ともに生きる社会かながわ」

「神奈川の文化芸術」「子どもの貧困対策」

「配偶者等からの暴力」「地域社会との関わり」「治安対策」

第2回課題調査…………… 令和5年3月公表

テーマ「生物多様性」「環境問題」「かながわの水源地域」

「スポーツ」「自転車の利用」「かながわの広報」

「地震対策の取組み」「消防団」「かながわの人権」

「青少年を保護する条例」「子育てにおける体罰の意識」

「がん対策」「依存症に対する意識」

『未病改善』の取組み」「思いやりのある社会」

はじめに

神奈川県では、県民の意識・価値観などの変化や多様化する生活ニーズを的確に把握し、その結果を施策に反映することにより、県民参加の行政を一層推進するため、毎年度「県民ニーズ調査」を実施しています。

県民ニーズ調査は、県民の生活や県政についての意識を継続的に調査している「基本調査」と、時勢に応じたテーマについて調査する「課題調査」があります。本報告書は、令和4年7月から8月にかけて実施した「基本調査」、9月から10月にかけて12テーマについて実施した「第1回課題調査」、及び10月から11月にかけて15テーマについて実施した「第2回課題調査」の結果をまとめたものです。

この報告書が、行政担当者のみならず、県民生活の現状と将来に関心を寄せる方々に広くご活用いただければ幸いです。

おわりに、このたびの調査にご協力いただきました県民の皆様をはじめ、関係の方々に厚くお礼申し上げます。

令和5年3月

神奈川県政策局長

目次

県民ニーズ調査の概要	1
------------	---

基本調査

第Ⅰ部 調査の概要	3
-----------	---

- 1 調査の目的
- 2 調査内容
- 3 調査設計
- 4 回収結果
- 5 標本の抽出方法について
- 6 集計・分析にあたって
- 7 調査結果の誤差
- 8 回答者の属性

第Ⅱ部 調査結果の概要	11
-------------	----

第Ⅲ部 調査結果の詳細	21
-------------	----

- 第1章 暮らし全般について
 - 1 生活総合満足度
 - 2 暮らし向きの変化
 - 3 今後の暮らし向きの見通し
 - 4 地域の住みよさ
 - 5 定住意向
- 第2章 生活意識
- 第3章 暮らしの満足度
 - 1 重要度
 - 2 満足度
- 第4章 県行政への要望

第Ⅳ部 県政への自由意見	91
--------------	----

第Ⅴ部 グラフ（暮らしの満足度、県行政への要望）	95
--------------------------	----

- 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（図表A）
- 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（図表B）
- 県行政への要望－過去との比較（図表C）

第Ⅵ部 調査票と単純集計結果	121
----------------	-----

第1回課題調査

第Ⅰ部 調査の概要	135
1 調査の目的	
2 調査内容	
3 調査設計	
4 回収結果	
5 標本の抽出方法について	
6 集計・分析にあたって	
7 調査結果の誤差	
8 回答者の属性	
第Ⅱ部 調査結果の概要	143
第Ⅲ部 調査結果の詳細	155
第1章 食・食育	157
1 「食育」への関心	
2 健康的な食事内容の心がけ	
3 就寝前の食事を控えているか	
4 朝食を同居の方と食べる頻度	
5 夕食を同居の方と食べる頻度	
6 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
7 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
8 食事のマナーを正しくできていることへの意識	
9 ゆっくりよく噛んで食べているか	
10 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか	
11 歯と口の健康を保つためにかかりつけ医を決めているか	
第2章 食の安心・安全	179
1 食品を購入する際に確認している表示内容	
2 食中毒を予防する上で重要なこと	
3 食品を安全に食べるために必要な知識	
第3章 神奈川の農林水産業	185
1 「地産地消」の取組みの重要度	
2 「かながわブランド」の認知度	
3 県の農業に期待する役割	
第4章 肝炎対策	191
1 ウイルス性肝炎の認知度	
2 「肝炎ウイルス検査」の受検状況	
3 検査結果の把握状況	

第5章 将来の住まい	197
1 将来の住まいに対する不安	
2 将来の住まいに不安を抱く理由	
3 親族との同居意向	
第6章 SDG s (持続可能な開発目標)	203
1 「SDG s」の認知度	
2 SDG sの取組み意向	
3 SDG s達成に向け効果的な後押し	
第7章 ともに生きる社会かながわ	209
1 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度	
2 ともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法	
3 障がい者に配慮した行動をとる人	
4 障がい者への差別・偏見の有無	
5 希望する手話の学習方法	
6 文化芸術活動を楽しむために有効だと思う取組み	
第8章 神奈川の文化芸術	221
1 文化芸術の鑑賞意向	
2 行ってみたいと思う文化施設	
3 実践してみたいと思う文化芸術活動	
4 文化芸術活動をする際に感じる不満や不便	
第9章 子どもの貧困対策	229
1 「子どもの貧困」の認知度	
2 身近で支援を必要とする子どもの有無	
3 地域の支援活動に対する考え方	
第10章 配偶者等からの暴力	235
1 夫婦間での暴力行為における暴力(DV)としての認識	
2 配偶者等からの暴力(DV)について知っていたこと	
第11章 地域社会との関わり	241
1 地域社会との関わりを大切にする意識	
第12章 治安対策	243
1 不安を感じる犯罪	
2 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法	
3 犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思うもの	
第IV部 調査票と単純集計結果	249

第2回課題調査

第I部 調査の概要	267
-----------	-----

- 1 調査の目的
- 2 調査内容
- 3 調査設計
- 4 回収結果
- 5 標本の抽出方法について
- 6 集計・分析にあたって
- 7 調査結果の誤差
- 8 回答者の属性

第Ⅱ部 調査結果の概要 ----- 275

第Ⅲ部 調査結果の詳細 ----- 291

第1章 生物多様性 ----- 293

- 1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度
- 2 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること
- 3 周辺地域の自然環境の変化

第2章 環境問題 ----- 299

- 1 特に力を入れてほしい環境に関する取組み
- 2 環境に関する情報の入手先
- 3 「脱炭素（カーボンニュートラル）」への関心
- 4 「気候変動への適応」への関心

第3章 かながわの水源地域 ----- 307

- 1 「やまなみ五湖」に関する情報収集の手段
- 2 「やまなみグッズ」の購入意向
- 3 現地で体験したいと思うこと

第4章 スポーツ ----- 313

- 1 体力への自信の有無
- 2 1年間のスポーツ実施日数
- 3 スポーツ推進に係る取組みの認知度
- 4 「かながわパラスポーツ」の認知度

第5章 自転車の利用 ----- 321

- 1 自転車損害賠償責任保険等の加入義務の認知度
- 2 自転車の利用状況
- 3 自転車損害賠償責任保険等の加入状況
- 4 自転車を利用する目的
- 5 今後の自転車の利用意向

第6章 かながわの広報 ----- 331

- 1 県の広報の達成度
- 2 県の広報媒体の認知度

3	県政情報の入手先	
第7章	地震対策の取組み	337
1	大きな地震に備えた対策	
2	「津波」に対する知識や理解	
3	津波に対して実施が望まれる制度	
第8章	消防団	343
1	消防団の認知度	
2	消防団への入団意向	
3	消防団に入団する人が少ない理由	
第9章	かながわの人権	349
1	基本的人権が尊重されている社会か	
2	普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題	
3	人権課題を解消するために力を入れるべき取組み	
第10章	青少年を保護する条例	355
1	「青少年保護育成条例」の認知度	
2	「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度	
第11章	子育てにおける体罰の意識	359
1	子育てにおいて体罰が起きていることへの課題	
2	体罰などが子どもに与える影響	
3	子どものしつけで困った時の相談先	
第12章	がん対策	365
1	コロナ禍における「がん検診」の受診	
2	がん検診を受けようと思う場所	
3	がん検診を受ける人が少ない理由	
第13章	依存症に対する意識	371
1	依存症に対する意識に関する認知状況	
2	依存症に関する相談場所として知っているもの	
3	相談できる場所を知ったきっかけ	
4	依存症の回復に必要と思うもの	
第14章	「未病改善」の取組み	379
1	「未病（ME－BYO）」の認知度	
2	「未病改善」の取組みの実践	
3	「未病改善」の取組みに必要だと思うもの	
4	「フレイル」の認知度	
第15章	思いやりのある社会	387
1	「ヘルプマーク」の認知度	
第IV部	調査票と単純集計結果	389

第2回課題調査

第I部 調査の概要

1 調査の目的

県政の直面する重要な課題や県民生活に関するテーマにおける県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

2 調査内容

- (1) 生物多様性
- (2) 環境問題
- (3) かながわの水源地域
- (4) スポーツ
- (5) 自転車の利用
- (6) かながわの広報
- (7) 地震対策の取組み
- (8) 消防団
- (9) かながわの人権
- (10) 青少年を保護する条例
- (11) 子育てにおける体罰の意識
- (12) がん対策
- (13) 依存症に対する意識
- (14) 「未病改善」の取組み
- (15) 思いやりのある社会

3 調査設計

- (1) 調査地域 神奈川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満18歳以上の男女
- (3) 標本数 3,000標本
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法 ア 郵送による調査票の配布
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (6) 調査期間 令和4年10月28日（金）～11月21日（月）
- (7) 調査委託機関 株式会社 C C Nグループ

4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標本数	3,000標本
有効回収数	1,277標本 〔 郵送回答 : 800件 インターネット回答 : 477件 〕
有効回収率	42.6%

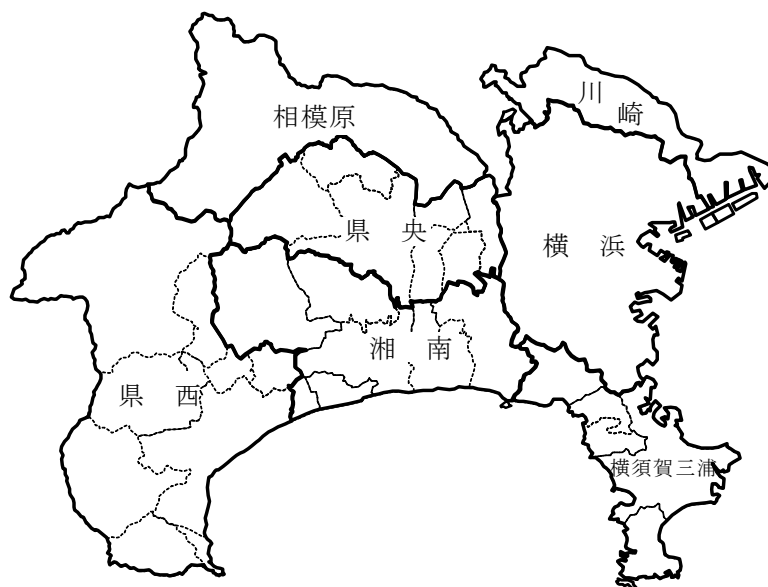
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,200	477	39.8%
川崎	川崎市	460	174	37.8%
相模原	相模原市	220	90	40.9%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	260	115	44.2%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	300	135	45.0%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	440	219	49.8%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	120	47	39.2%
無 回 答			20	
全 体		3,000	1,277	42.6%

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（令和2年1月1日現在の推計値）により、3,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,182,266人 60地点 1,200標本	-	-	3,182,266人 60地点 1,200標本
川 崎	1,270,952人 23地点 460標本	-	-	1,270,952人 23地点 460標本
相模原	614,463人 11地点 220標本	-	-	614,463人 11地点 220標本
横須賀三浦	-	572,482人 12地点 240標本	26,022人 1地点 20標本	598,504人 13地点 260標本
県 央	-	685,576人 14地点 280標本	36,096人 1地点 20標本	721,672人 15地点 300標本
湘 南	-	1,015,378人 20地点 400標本	90,993人 2地点 40標本	1,106,371人 22地点 440標本
県 西	-	198,375人 4地点 80標本	92,782人 2地点 40標本	291,157人 6地点 120標本
人口計	5,067,681人	2,471,811人	245,893人	7,785,385人
地点数計	94地点	50地点	6地点	150地点
標本数計	1,880標本	1,000標本	120標本	3,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（令和2年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものである。

6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している）。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。
- (7) 今後の精査により、数値等は変動することがある。

7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上の式により、回答者数 (n)、および回答比率 (P) ごとに信頼度95%のときの標本誤差 (%) を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率 (P) \ 回答者数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,277	± 2.37	± 3.17	± 3.63	± 3.88	± 3.96
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数 (n) が 1,277 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±3.88%以内（真の値は、63.88%～56.12%）である」とみることができる。

8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1, 277) (%)

横浜	37.4
川崎	13.6
相模原	7.0
横須賀三浦	9.0
県央	10.6
湘南	17.1
県西	3.7

(無回答 1.6)

(2) 性別 (n=1, 277) (%)

男性	45.9
女性	51.5

(無回答 2.6)

(3) 年齢 (n=1, 277) (%)

18～29 歳	5.5
30～39 歳	11.8
40～49 歳	20.2
50～59 歳	24.0
60～69 歳	17.8
70～74 歳	8.8
75 歳以上	8.4

(無回答 3.5)

(4) 子どもの状況 (複数回答) (n=1, 277) (%)

小学校入学前	8.4
小学校在学中	9.0
中学校在学中	7.8
高校在学中	7.0
短大、専門学校等在学中	0.9
大学、大学院等在学中	7.1
学校教育終了[未婚]	20.0
学校教育終了[既婚]	22.1
その他	2.4
子どもはいない	34.3

(無回答 4.4)

(5) 家族形態 (n=1, 277) (%)

一人暮らし (単身世帯)	16.0
夫婦のみ (1 世代世帯)	28.4
親と子の世帯 (2 世代世帯)	43.1
祖父母と親と子の世帯 (3 世代世帯)	4.2
その他の世帯	4.4

(無回答 4.0)

(6) 職業区分 (n=1, 277) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	6.3
	家族従業者	0.6
勤め・内職	勤め (フルタイム)	43.0
	勤め (パートタイム)	14.1
	内職	0.1
主婦・主夫 (勤めていない)	14.6	
学生	1.3	
無職	13.5	
その他	1.0	

(無回答 5.5)

(6-1) 有職者の職業内容 (n=819) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	0.1
	商工サービス業	5.0
	自由業	5.6
勤め・内職	経営・管理職	8.4
	専門・技術職	23.6
	事務職	23.2
	教育職	4.5
	技能・労務職	9.6
	販売・サービス職	17.7

(無回答 2.2)

第2回課題調査

第Ⅱ部 調査結果の概要

調査結果の概要

【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率(%)の合計が100%を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「Number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。
例：問17で「伝えている」と「どちらかといえば伝えている」を合わせたものを《伝えている》と表現している。
また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

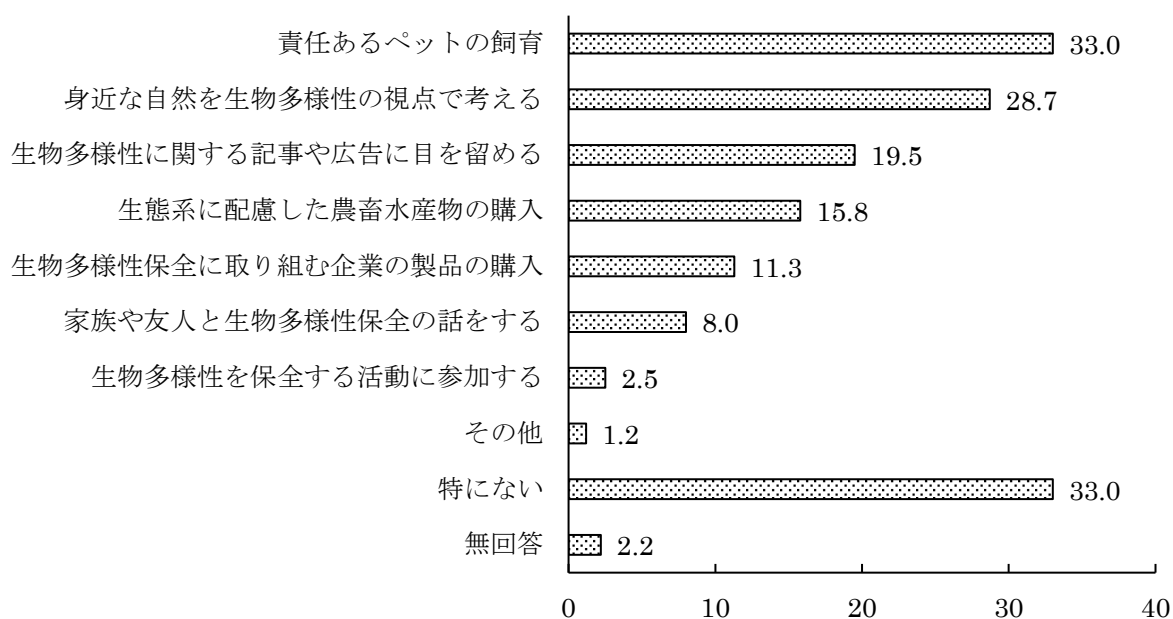
1 生物多様性（問1～問3）

県では、生物多様性の保全に取り組んでいます。今回、生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることなどについて調査しました。

▼生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること（問2）

生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることを複数回答で尋ねたところ、「責任あるペットの飼育」が33.0%で最も多く、次いで「身近な自然を生物多様性の視点で考える」が28.7%であった。[図表1]

図表1 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること
(複数回答) (n=1,277) (%)



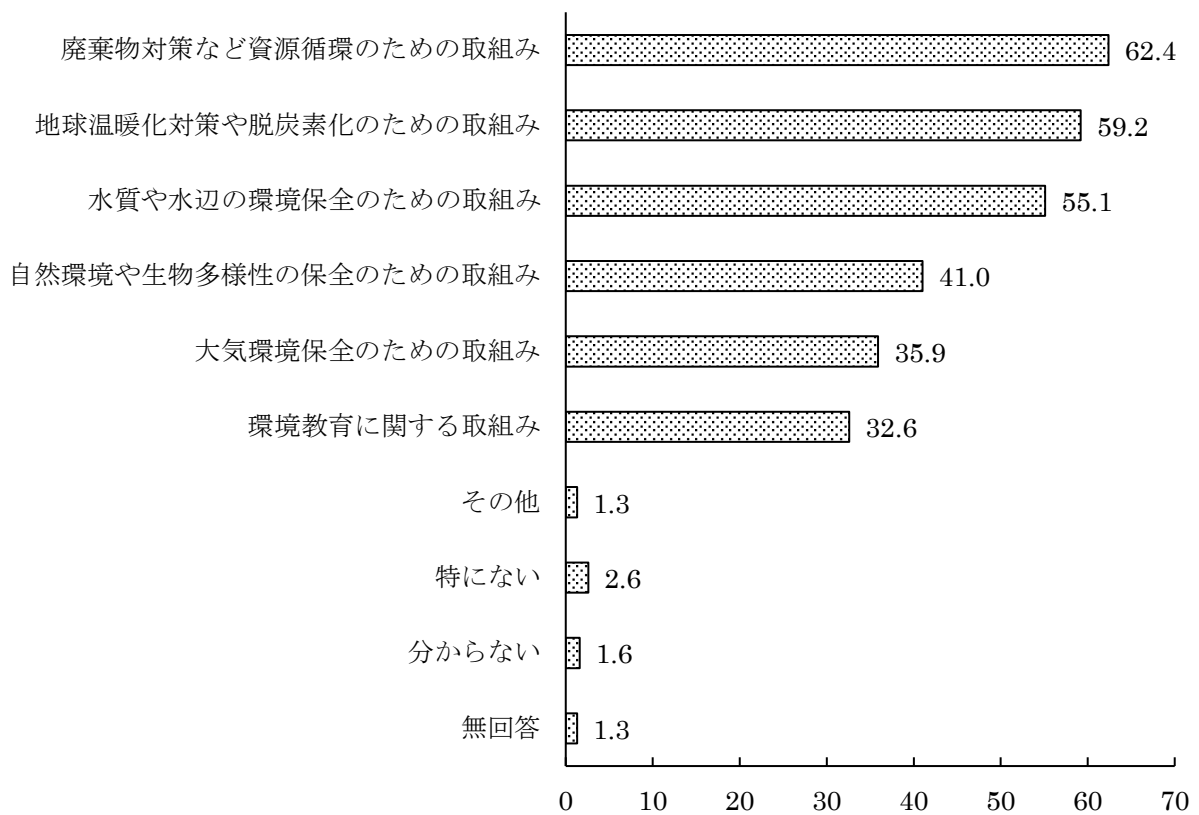
2 環境問題（問4～問7）

県では、「神奈川県環境基本計画」に基づき、環境施策を推進しています。今回、県に特に力を入れてほしい環境に関する取組みなどについて調査しました。

▼特に力を入れてほしい環境に関する取組み（問4）

特に力を入れてほしい環境に関する取組みを複数回答で尋ねたところ、「廃棄物対策など資源循環のための取組み」が62.4%で最も多く、次いで「地球温暖化対策や脱炭素化のための取組み」が59.2%であった。〔図表2〕

図表2 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）（n=1,277）（%）



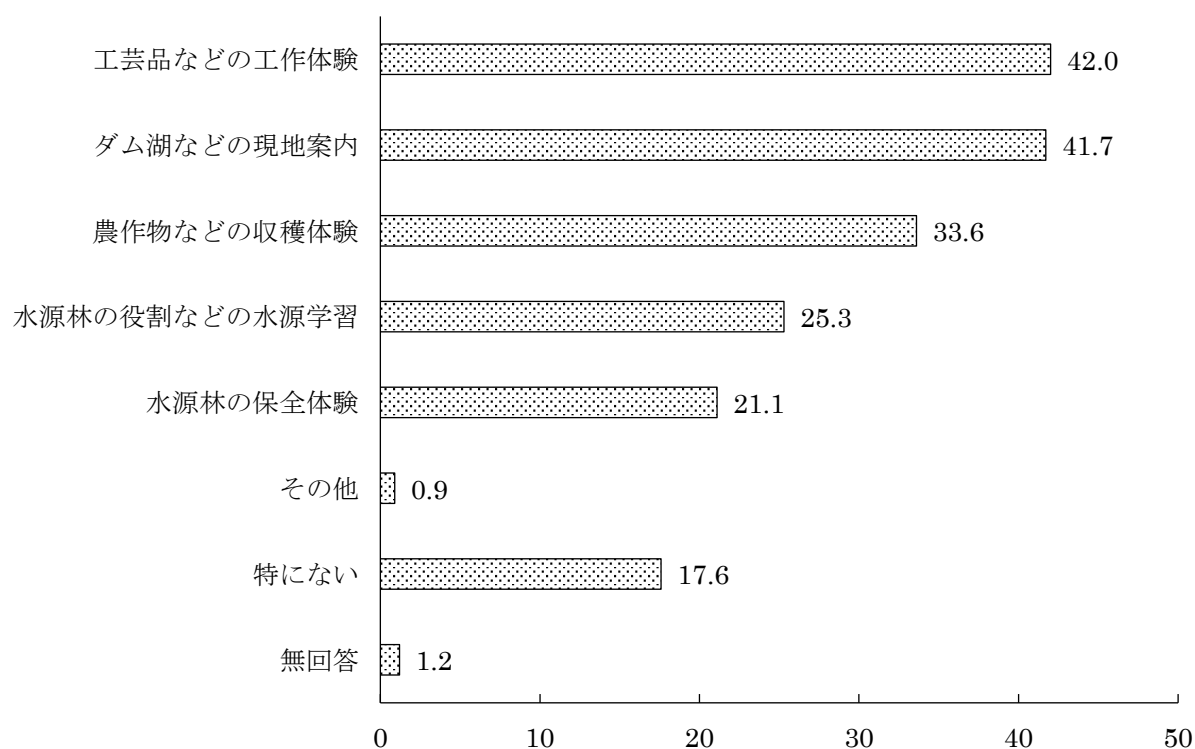
3 かながわの水源地域（問8～問10）

県では、豊かな水を育む水源地域を取り巻く環境を良好な状態で維持していくため、交流を通じた水源地域の活性化に取り組んでいます。今回、水源地域の魅力を発信する様々な活動をしている人と現地で交流する場合、体験したいと思うことなどについて調査しました。

▼現地で体験したいと思うこと（問10）

現地で体験したいと思うことを複数回答で尋ねたところ、「工芸品などの工作体験」が42.0%で最も多く、次いで「ダム湖などの現地案内」が41.7%であった。〔図表3〕

図表3 現地で体験したいと思うこと（複数回答）（n=1,277）（%）



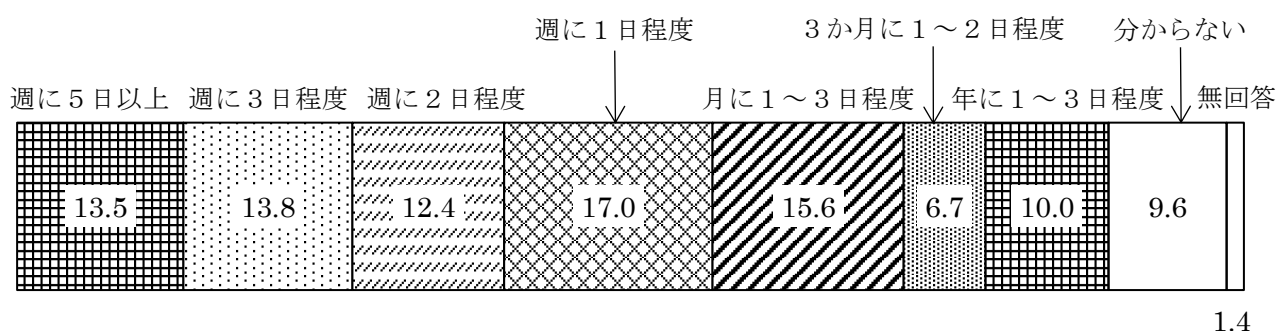
4 スポーツ（問 11～問 14）

県では、「神奈川県スポーツ推進条例」に基づき、神奈川県スポーツ推進計画「エンジョイ・スポーツ！かながわプラン」を策定し、様々なスポーツ施策に取り組んでいます。今回、1年間のスポーツ実施日数などについて調査しました。

▼1年間のスポーツ実施日数（問 12）

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「週に1日程度」が17.0%で最も多く、次いで「月に1～3日程度」が15.6%であった。[図表4]

図表4 1年間のスポーツ実施日数（n=1,277）（%）



5 自転車の利用（問 15～問 16）

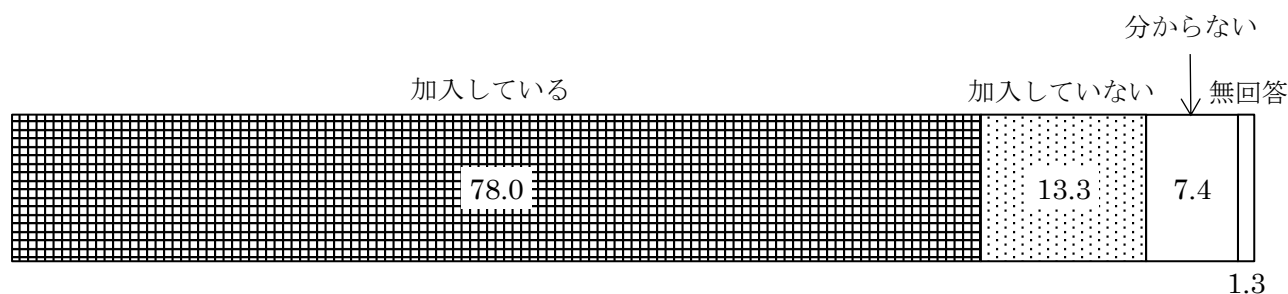
県では、自転車利用者が加害者となる重大事故の発生や全国的に自転車が関係する交通事故で高額な賠償が命じられる判決が出ている状況から、自転車の安全で適正な利用の促進と自転車損害賠償責任保険等の加入義務化を柱とした「神奈川県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」を平成31年4月に施行しました。今回、自転車損害賠償責任保険等の加入状況などについて調査しました。

▼自転車損害賠償責任保険等の加入状況（問 16-1）

自転車の利用状況（問 16）で「利用している」と回答した377人に、自転車損害賠償責任保険等に加入しているか尋ねたところ、「加入している」が78.0%であった。

一方、「加入していない」が13.3%であった。[図表5]

図表5 自転車損害賠償責任保険等の加入状況（n=377）（%）



6 かながわの広報（問17～問19）

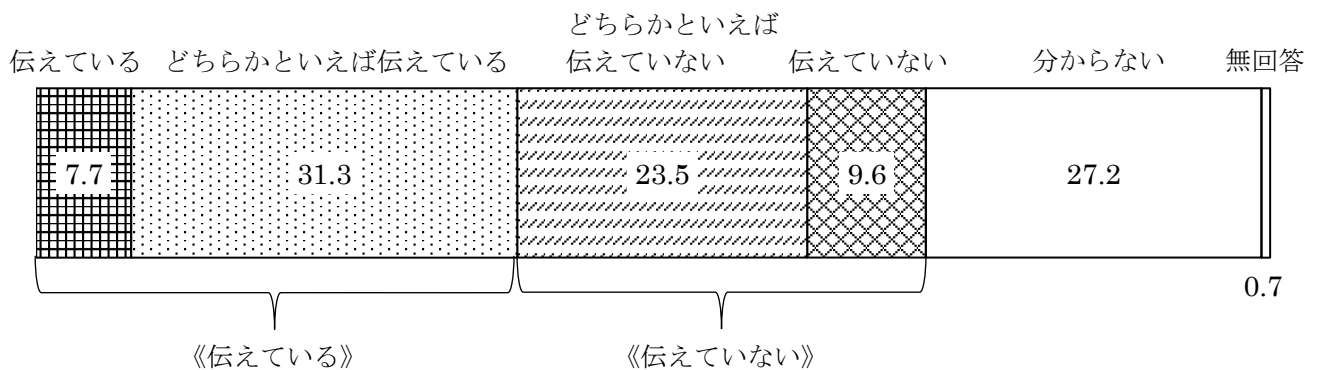
県では、「県のたより」などの広報紙や県広報テレビ・ラジオ番組、ホームページ、ソーシャルメディアなどを通じて、様々な県政情報をお伝えしています。今回は、県の広報の達成度などについて調査しました。

▼県の広報の達成度（問17）

県が県政情報を十分に伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えている」（7.7%）と「どちらかといえば伝えている」（31.3%）を合わせた《伝えている》は39.0%であった。

一方、「伝えていない」（9.6%）と「どちらかといえば伝えていない」（23.5%）を合わせた《伝えていない》は33.1%であった。〔図表6〕

図表6 県の広報の達成度（n=1,277）（%）



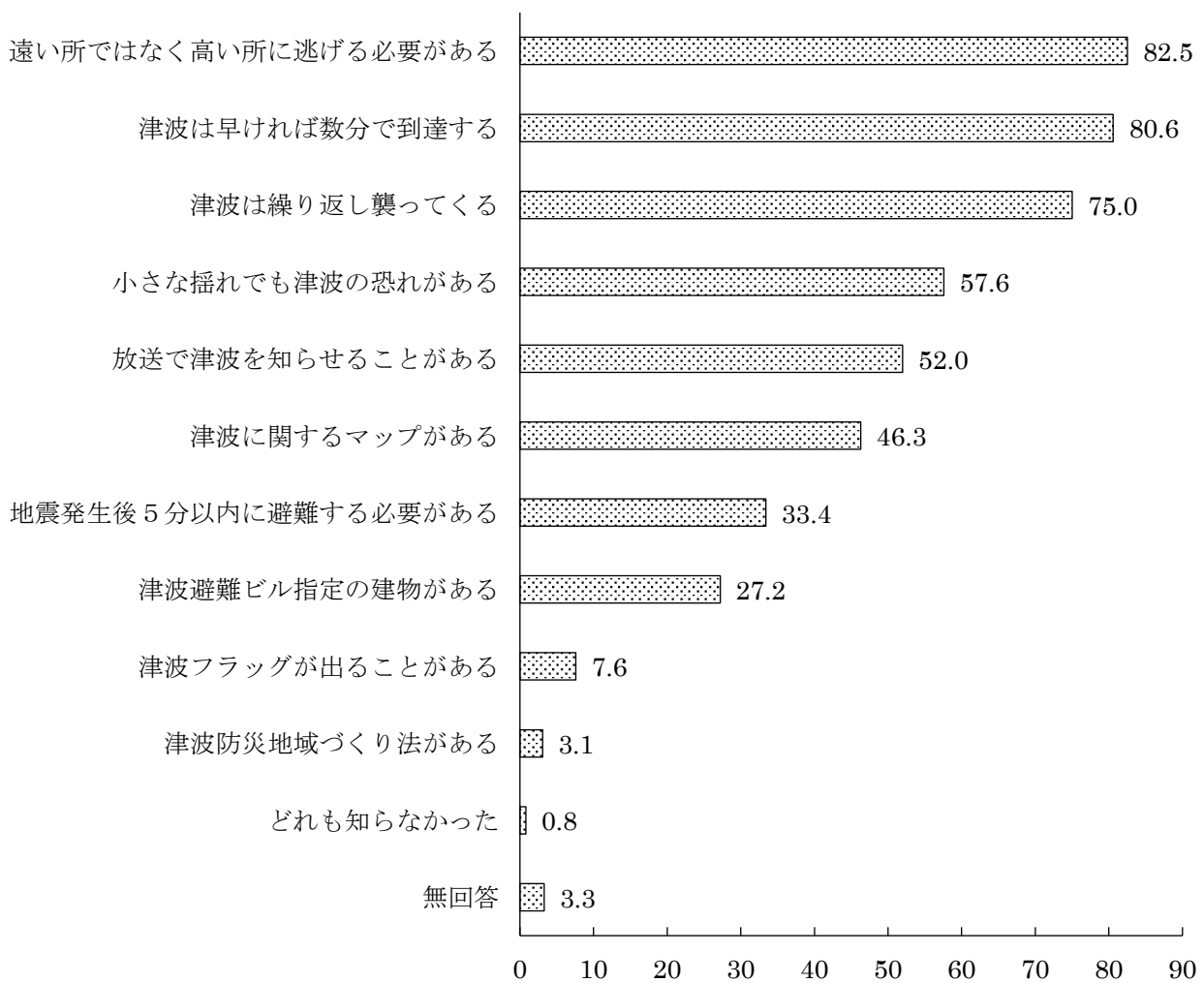
7 地震対策の取組み（問 20～問 22）

県では、「県民のいのちを守る」ことを最優先としたアクションプランである「神奈川県地震防災戦略」を策定するなど、防災・減災対策の取組みを推進しています。今回、「津波」に対する知識や理解などについて調査しました。

▼津波に対する知識や理解（問 21）

津波に対する知識や理解について複数回答で尋ねたところ、「遠い所ではなく高い所に逃げる必要がある」が 82.5%で最も多く、次いで「津波は早ければ数分で到達する」が 80.6%であった。〔図表 7〕

図表 7 津波に対する知識や理解（複数回答）（n=1,277）（%）



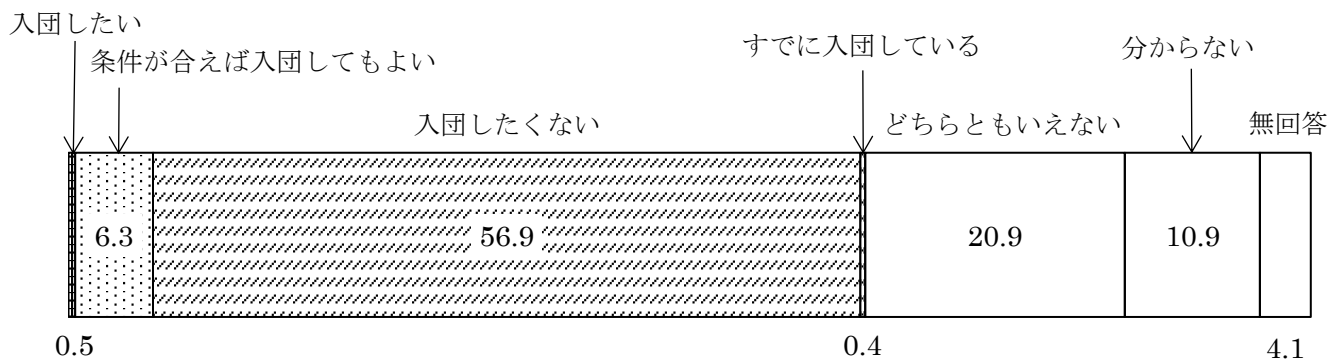
8 消防団（問 23～問 25）

県では、地域の安全・安心を支える地域防災の要である消防団の充実強化のための取組みを進めています。今回、消防団への入団意向などについて調査しました。

▼消防団への入団意向（問 24）

消防団に入団したいと思うか尋ねたところ、「入団したくない」が 56.9%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が 20.9%であった。[図表 8]

図表 8 消防団への入団意向（n=1,277）（%）



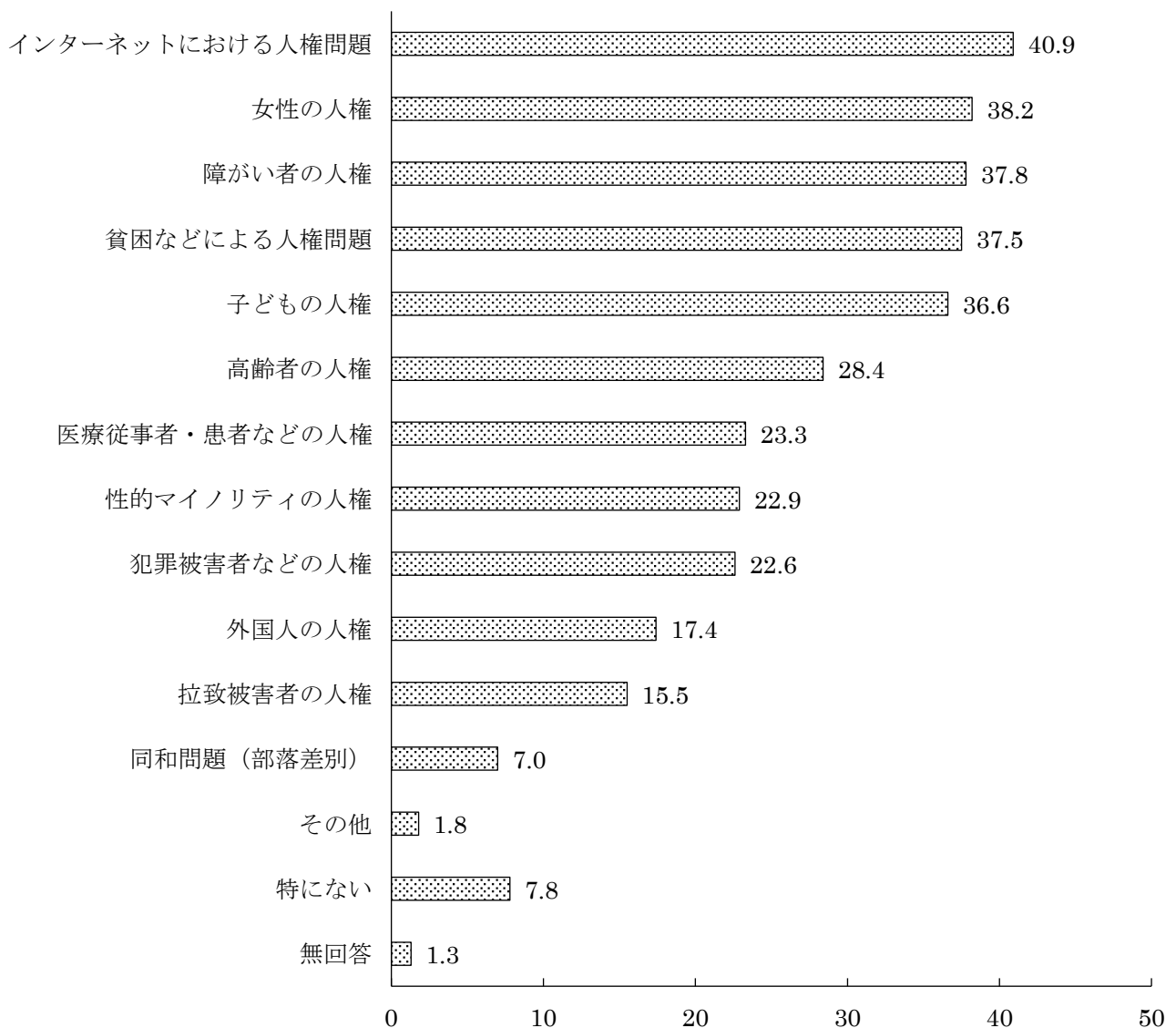
9 かながわの人権（問 26～問 28）

県では、「かながわ人権施策推進指針」に基づき、人権がすべての人に保障される地域社会の実現を目指して、取組みを進めています。今回、普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題などについて調査しました。

▼普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（問 27）

普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題を複数回答で尋ねたところ、「インターネットにおける人権問題」が40.9%で最も多く、次いで「女性の人権」が38.2%であった。[図表 9]

図表 9 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（複数回答）（n=1,277）（%）



10 青少年を保護する条例（問 29～問 30）

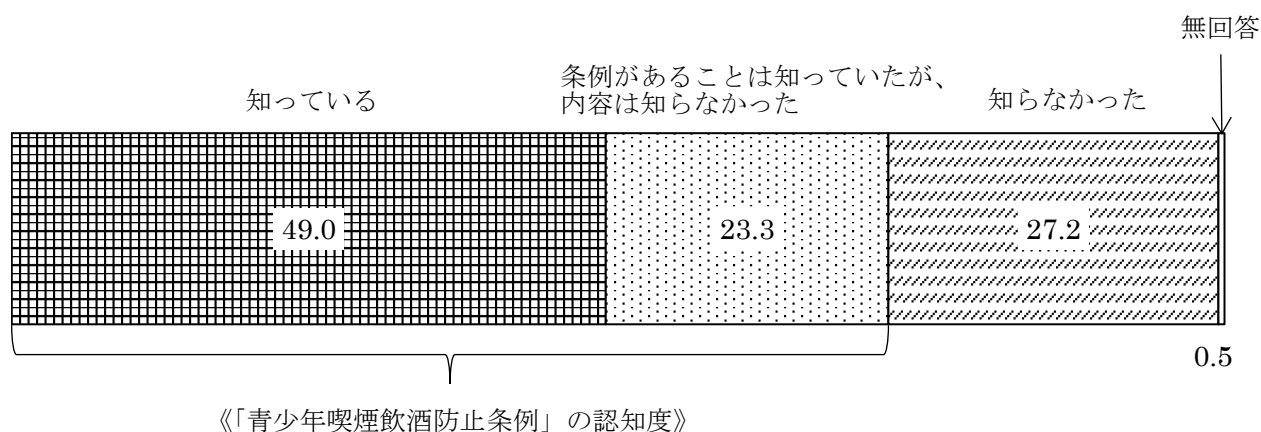
県では、青少年の喫煙及び飲酒を防止する社会環境の整備に向けて「神奈川県青少年喫煙飲酒防止条例」を制定し、青少年（20歳未満の者）の喫煙及び飲酒に関し、県、保護者、事業者及び県民の責務を明らかにするとともに、青少年の喫煙及び飲酒を防止するための社会環境の整備に取り組んでいます。今回、「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度などについて調査しました。

▼「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度（問 30）

「青少年喫煙飲酒防止条例」の内容を知っているか尋ねたところ、「知っている」（49.0％）と「条例があることは知っていたが、内容は知らなかった」（23.3％）を合わせた《「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度》は72.3％であった。

一方、「知らなかった」が27.2％であった。〔図表 10〕

図表 10 「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度（n=1,277）（％）



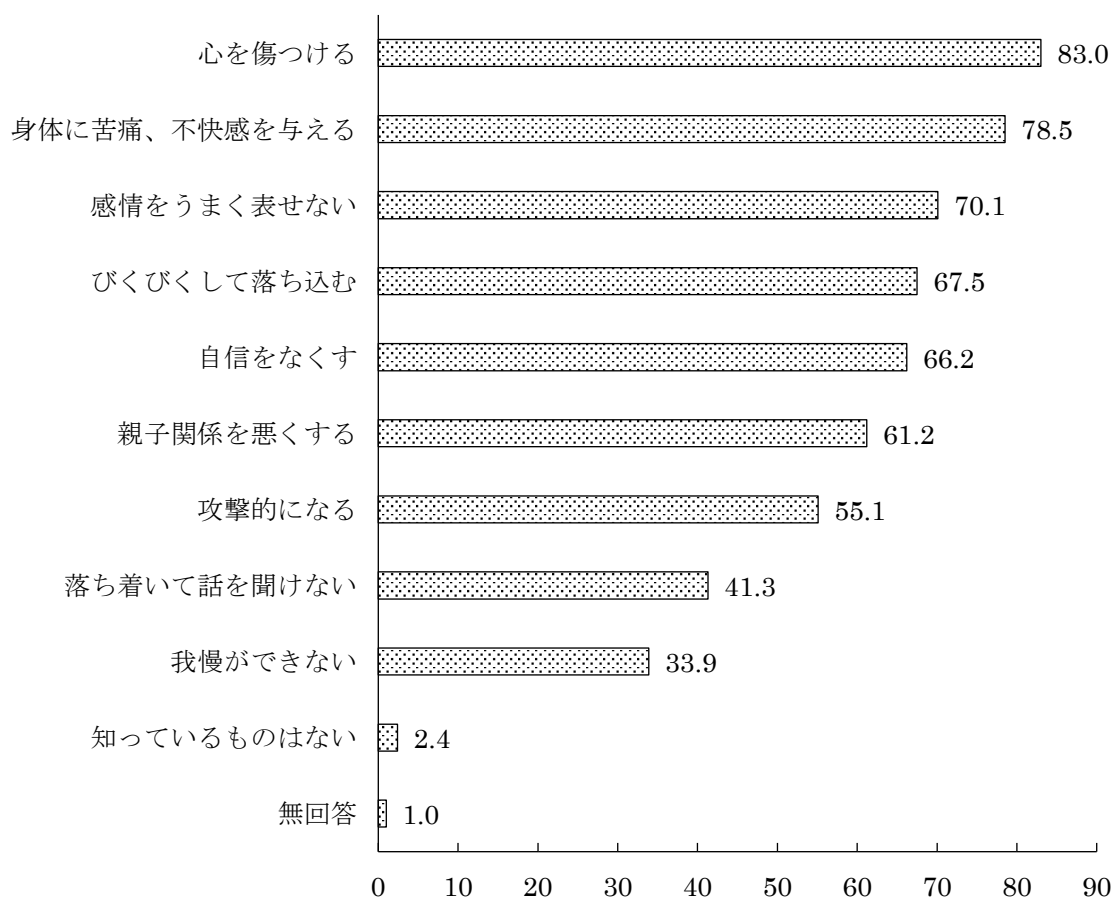
11 子育てにおける体罰の意識（問 31～問 33）

県では、令和元年6月に改正された児童虐待防止法等に盛り込まれた体罰禁止について、様々な方法により普及啓発を行い、子どもから大人まで幅広くこの認識を広げることで、虐待の未然防止に取り組んでいます。今回、体罰などが子どもに与える影響などについて調査しました。

▼体罰などが子どもに与える影響（問 32）

体罰などが子どもに与える影響について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「心を傷つける」が83.0%で最も多く、次いで「身体に苦痛、不快感を与える」が78.5%であった。〔図表 11〕

図表 11 体罰などが子どもに与える影響（複数回答）（n=1,277）（%）



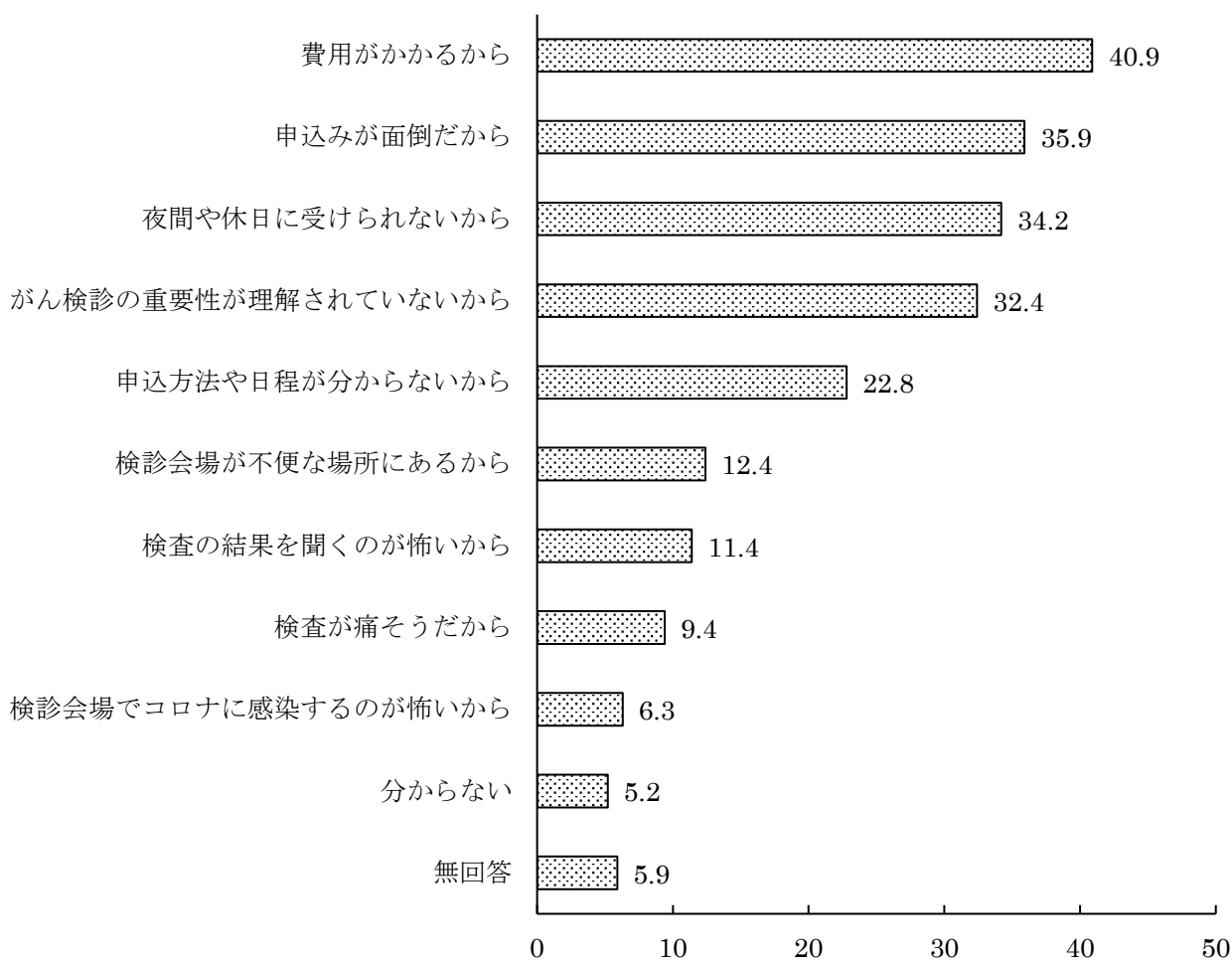
12 がん対策（問 34～問 35）

県では、昭和 53 年から死因の第 1 位になっている「がん」で亡くなる人を減らすために、がんの早期発見、早期治療につながるがん検診の受診率向上に取り組んでいます。今回、がん検診を受ける人が少ない理由などについて調査しました。

▼がん検診を受ける人が少ない理由（問 35）

がん検診を受ける人が少ない理由を複数回答（3 つまで選択可）で尋ねたところ、「費用がかかるから」が 40.9%で最も多く、次いで「申込みが面倒だから」が 35.9%であった。[図表 12]

図表 12 がん検診を受ける人が少ない理由（複数回答）（n=1,277）（%）



13 依存症に対する意識（問 36～問 38）

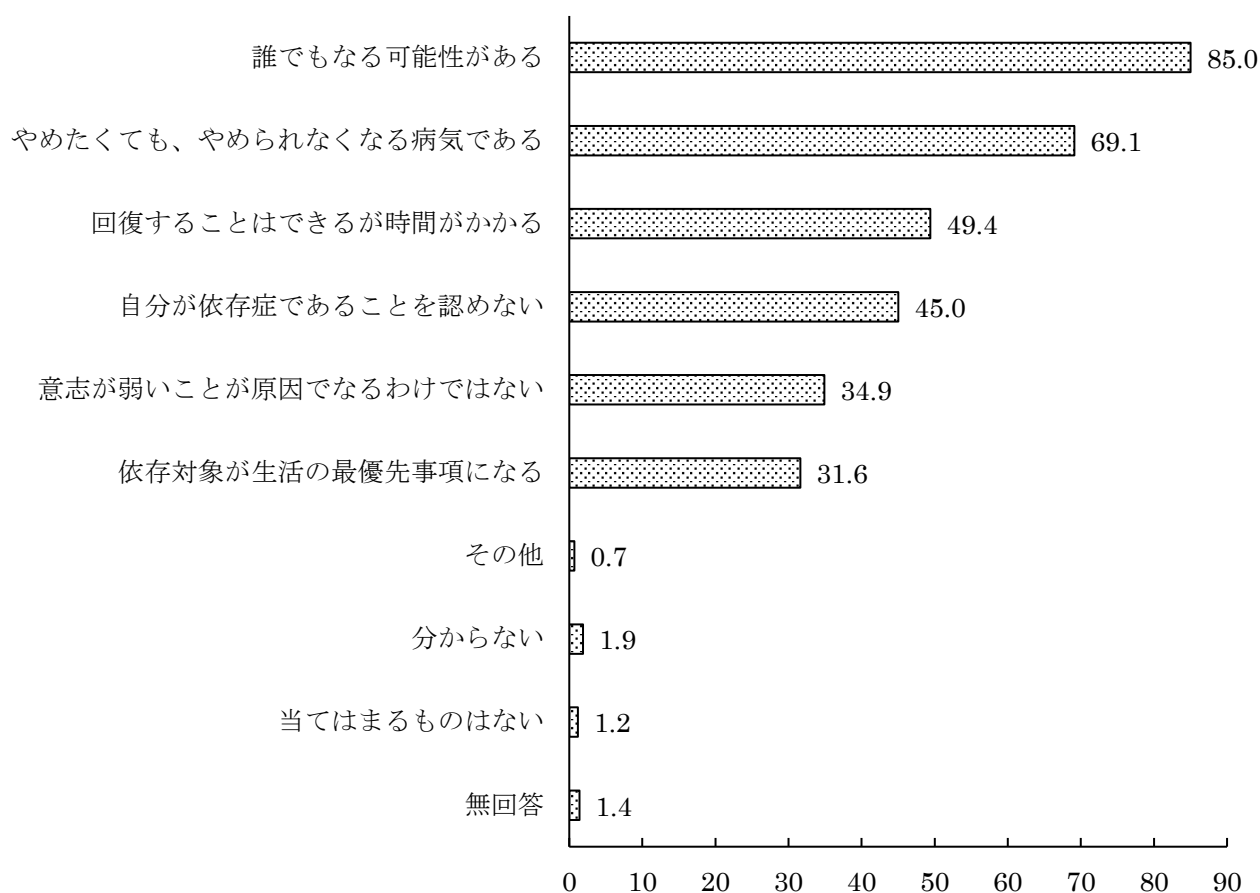
県では、アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存症治療や回復支援及び相談体制の強化、普及啓発、医療連携体制の構築を図り、依存症対策を総合的に推進しています。今回、依存症に対する意識に関する認知状況などについて調査しました。

▼依存症に対する意識に関する認知状況（問 36）

依存症について、あてはまると思うことを複数回答で尋ねたところ、「誰でもなる可能性がある」が 85.0%で最も多く、次いで「やめたくても、やめられなくなる病気である」が 69.1%であった。

[図表 13]

図表 13 依存症に対する意識に関する認知状況（複数回答）（n=1,277）（%）



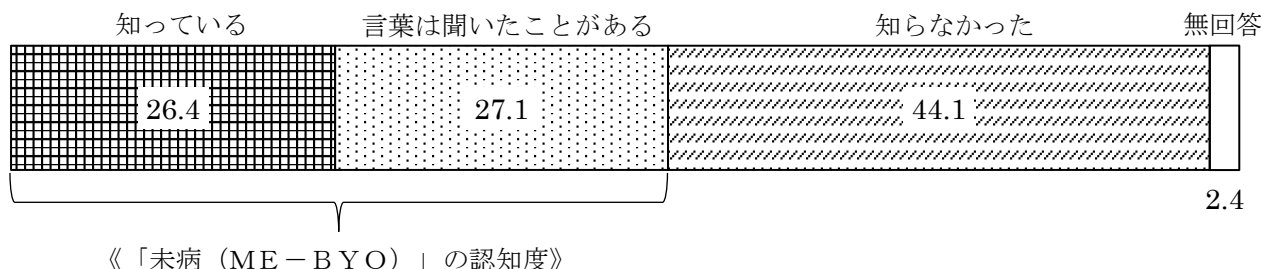
14 「未病改善」の取組み（問 39～問 42）

県では、「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。「未病」とは、健康と病気を2つの明確に分けられる概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものとして捉え、このすべての変化の過程を表す概念です。今回、「未病（ME-BYO）」の認知度などについて調査しました。

▼「未病（ME-BYO）」の認知度（問 39）

「未病（ME-BYO）」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」（26.4%）と「言葉は聞いたことがある」（27.1%）を合わせた《「未病（ME-BYO）」の認知度》は53.5%であった。一方、「知らなかった」が44.1%であった。[図表 14]

図表 14 「未病（ME-BYO）」の認知度（n=1,277）（%）



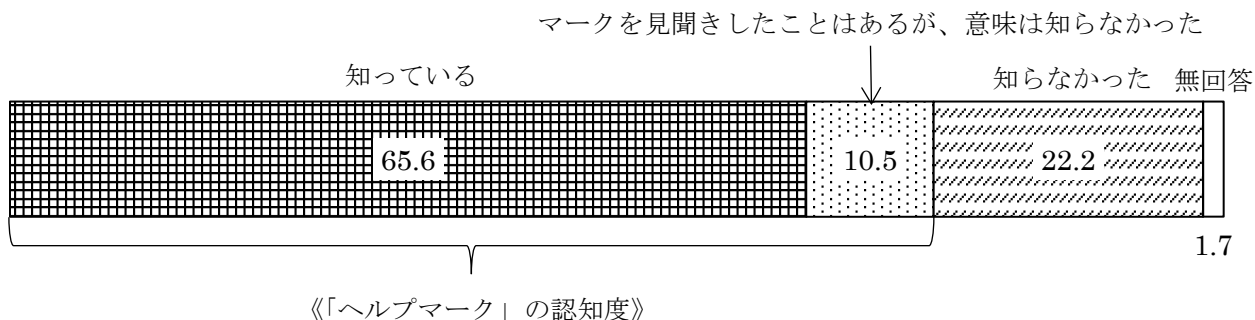
15 思いやりのある社会（問 43）

県では、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方が援助を得やすくなるようにしたマークである「ヘルプマーク」の普及・啓発を進めています。今回、「ヘルプマーク」の認知度について調査しました。

▼「ヘルプマーク」の認知度（問 43）

「ヘルプマーク」を知っているか尋ねたところ、「知っている」（65.6%）と「マークを見聞きしたことはあるが、意味は知らなかった」（10.5%）を合わせた《「ヘルプマーク」の認知度》は76.1%であった。一方、「知らなかった」が22.2%であった。[図表 15]

図表 15 「ヘルプマーク」の認知度（n=1,277）（%）



第Ⅲ部 調査結果の詳細

【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。

第1章 生物多様性【問1～問3】

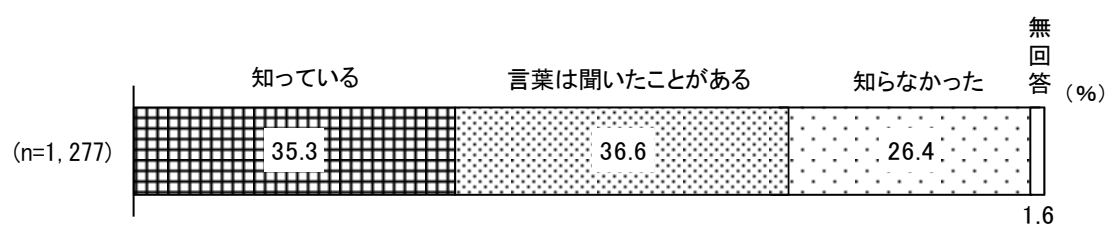
1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度【問1】

【全体の状況】

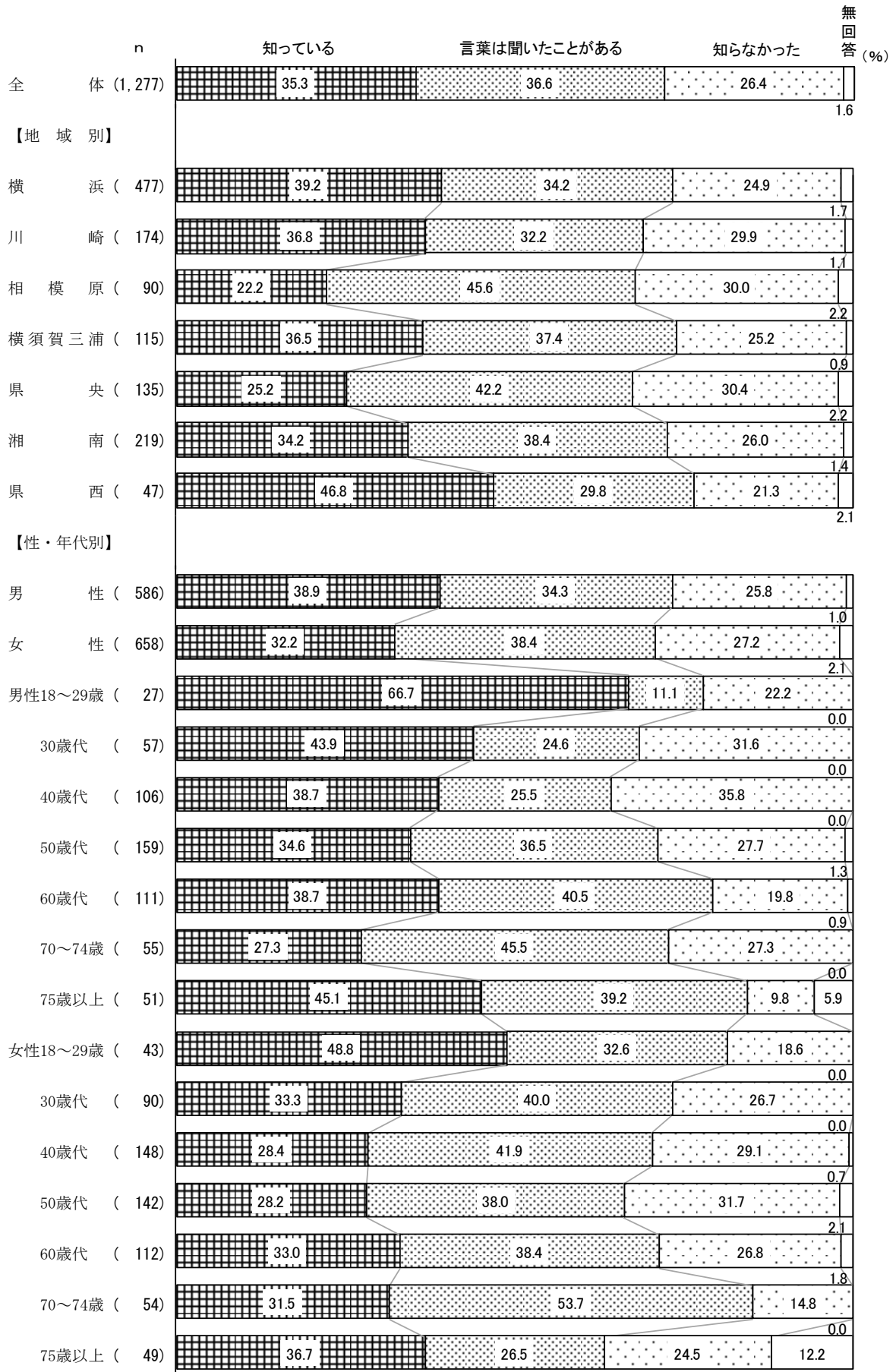
「生物多様性」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が35.3%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が36.6%であった。

一方、「知らなかった」が26.4%であった。(図表1-1-1)

図表1-1-1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度



図表1-1-2 「生物多様性」の言葉の意味の認知度—地域別、性・年代別

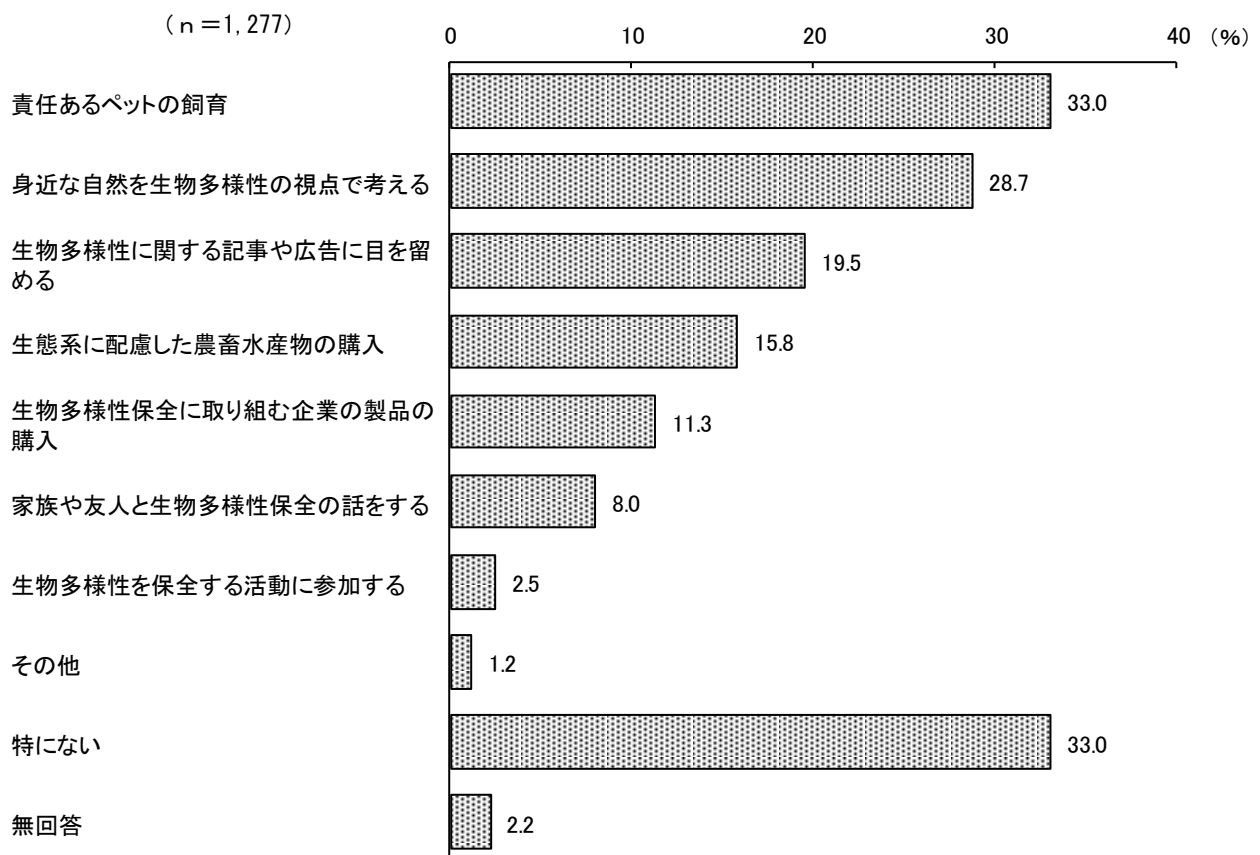


2 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること【問2】

【全体の状況】

生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることを複数回答で尋ねたところ、「責任あるペットの飼育」が33.0%で最も多く、次いで「身近な自然を生物多様性の視点で考える」が28.7%であった。(図表 1-2-1)

図表1-2-1 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること（複数回答）



図表1-2-2 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

	n	責任あるペットの飼育	身近な自然を生物多様性の視点で考える	生物多様性に関する記事や広告に目を留める	生態系に配慮した農畜水産物の購入	生物多様性保全に取り組む企業の製品の購入	家族や友人と生物多様性保全の話を	生物多様性を保全する活動に参加する	その他	特にな	無回答
全 体	1,277	33.0	28.7	19.5	15.8	11.3	8.0	2.5	1.2	33.0	2.2
【地 域 別】											
横 浜	477	26.4	28.1	19.5	15.1	12.2	8.6	1.9	1.7	37.1	2.1
川 崎	174	37.9	26.4	21.3	14.9	13.2	8.6	2.3	0.0	32.8	1.1
相 模 原	90	41.1	27.8	18.9	16.7	6.7	4.4	1.1	2.2	32.2	1.1
横 須 賀 三 浦	115	47.8	30.4	15.7	23.5	12.2	10.4	1.7	1.7	23.5	0.9
県 央	135	28.9	25.2	15.6	16.3	9.6	5.9	3.0	0.7	37.8	4.4
湘 南	219	33.8	33.3	21.5	13.7	10.5	8.7	4.1	0.9	27.9	2.7
県 西	47	38.3	27.7	25.5	17.0	10.6	2.1	0.0	0.0	29.8	2.1
【性・年代別】											
男 性	586	26.6	30.5	18.9	11.9	8.5	7.0	2.9	1.0	37.5	0.9
女 性	658	38.1	27.4	20.2	19.5	13.7	9.1	1.8	1.4	29.0	3.2
男性18～29歳	27	22.2	29.6	22.2	7.4	7.4	3.7	0.0	0.0	44.4	0.0
30歳代	57	21.1	21.1	12.3	5.3	7.0	5.3	3.5	1.8	50.9	0.0
40歳代	106	30.2	28.3	10.4	10.4	9.4	9.4	3.8	1.9	42.5	0.0
50歳代	159	25.8	26.4	17.0	13.8	6.9	3.1	3.8	1.3	37.1	0.0
60歳代	111	26.1	35.1	21.6	10.8	9.0	9.9	2.7	0.0	36.0	0.9
70～74歳	55	27.3	36.4	25.5	18.2	10.9	5.5	1.8	0.0	36.4	0.0
75歳以上	51	29.4	47.1	31.4	11.8	9.8	11.8	2.0	2.0	19.6	7.8
女性18～29歳	43	30.2	20.9	20.9	11.6	14.0	7.0	2.3	0.0	41.9	0.0
30歳代	90	40.0	21.1	13.3	13.3	11.1	12.2	0.0	1.1	37.8	0.0
40歳代	148	39.2	30.4	16.2	12.8	10.8	10.1	1.4	1.4	27.0	0.0
50歳代	142	45.1	26.8	21.1	21.1	10.6	8.5	2.8	0.7	29.6	2.8
60歳代	112	36.6	27.7	20.5	27.7	19.6	8.0	1.8	2.7	25.9	1.8
70～74歳	54	29.6	35.2	25.9	31.5	16.7	7.4	3.7	3.7	25.9	5.6
75歳以上	49	34.7	28.6	36.7	24.5	18.4	8.2	2.0	0.0	20.4	18.4

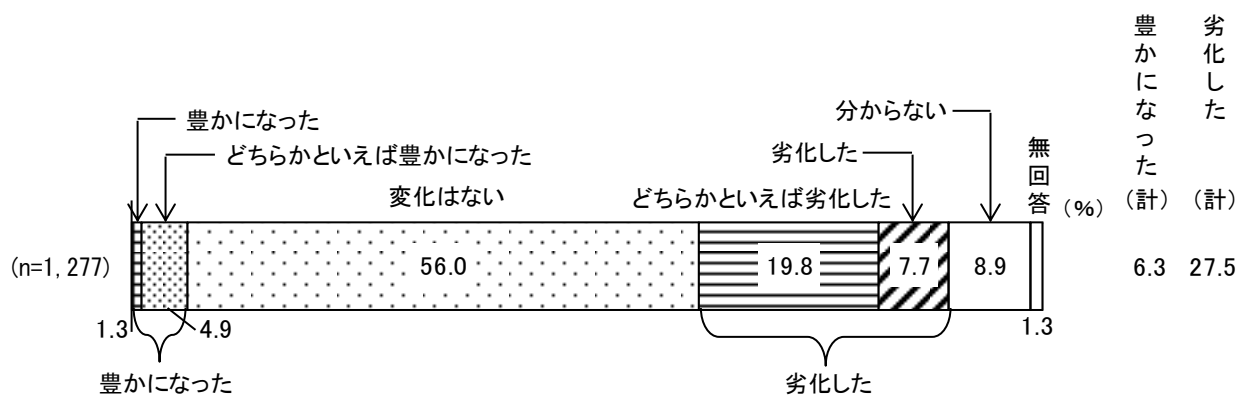
3 周辺地域の自然環境の変化【問3】

【全体の状況】

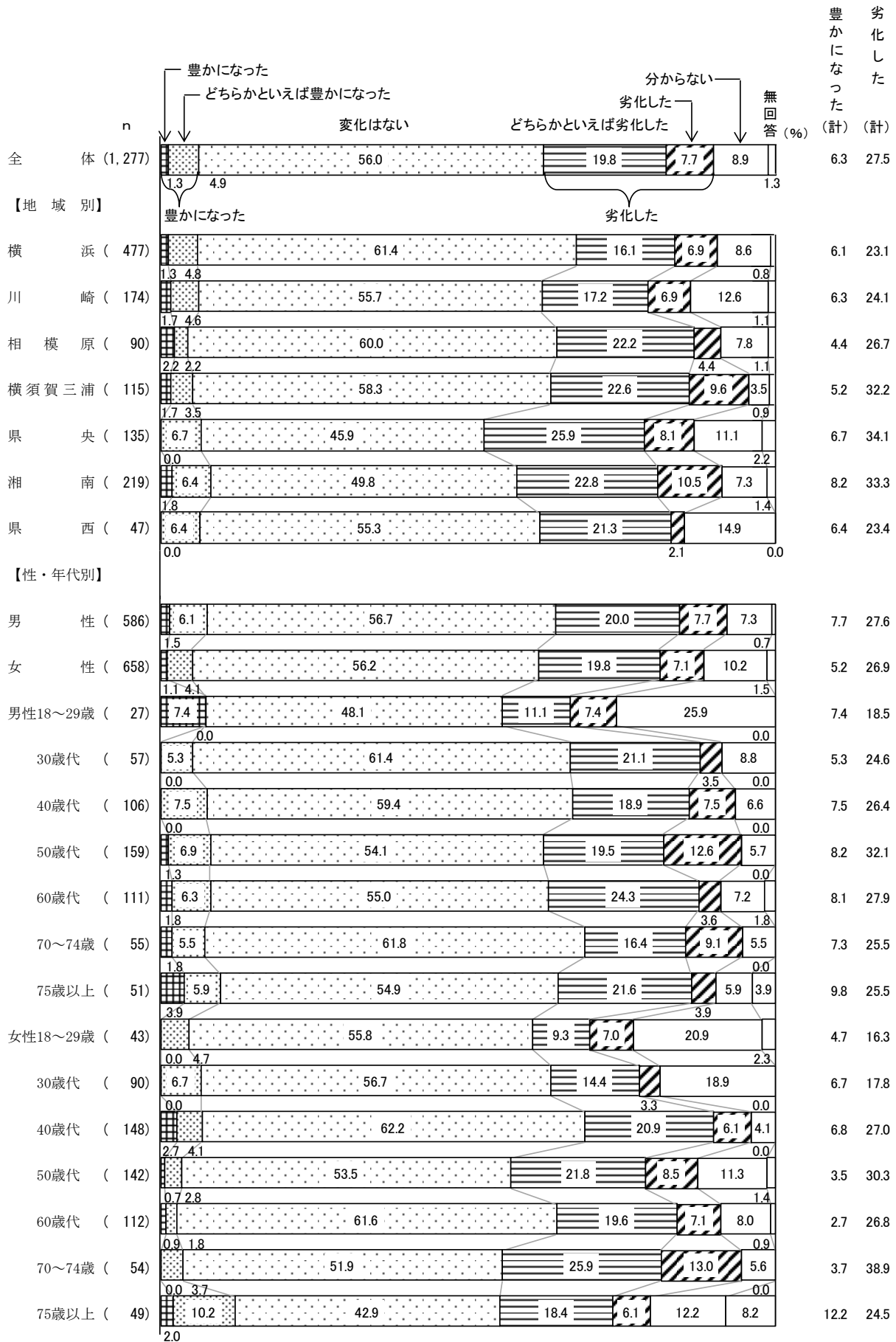
周辺地域の自然環境の変化について尋ねたところ、「豊かになった」(1.3%)と「どちらかといえば豊かになった」(4.9%)を合わせた《豊かになった》は6.3%であった。

一方、「劣化した」(7.7%)と「どちらかといえば劣化した」(19.8%)を合わせた《劣化した》は27.5%であった。(図表1-3-1)

図表1-3-1 周辺地域の自然環境の変化



図表1-3-2 周辺地域の自然環境の変化—地域別、性・年代別



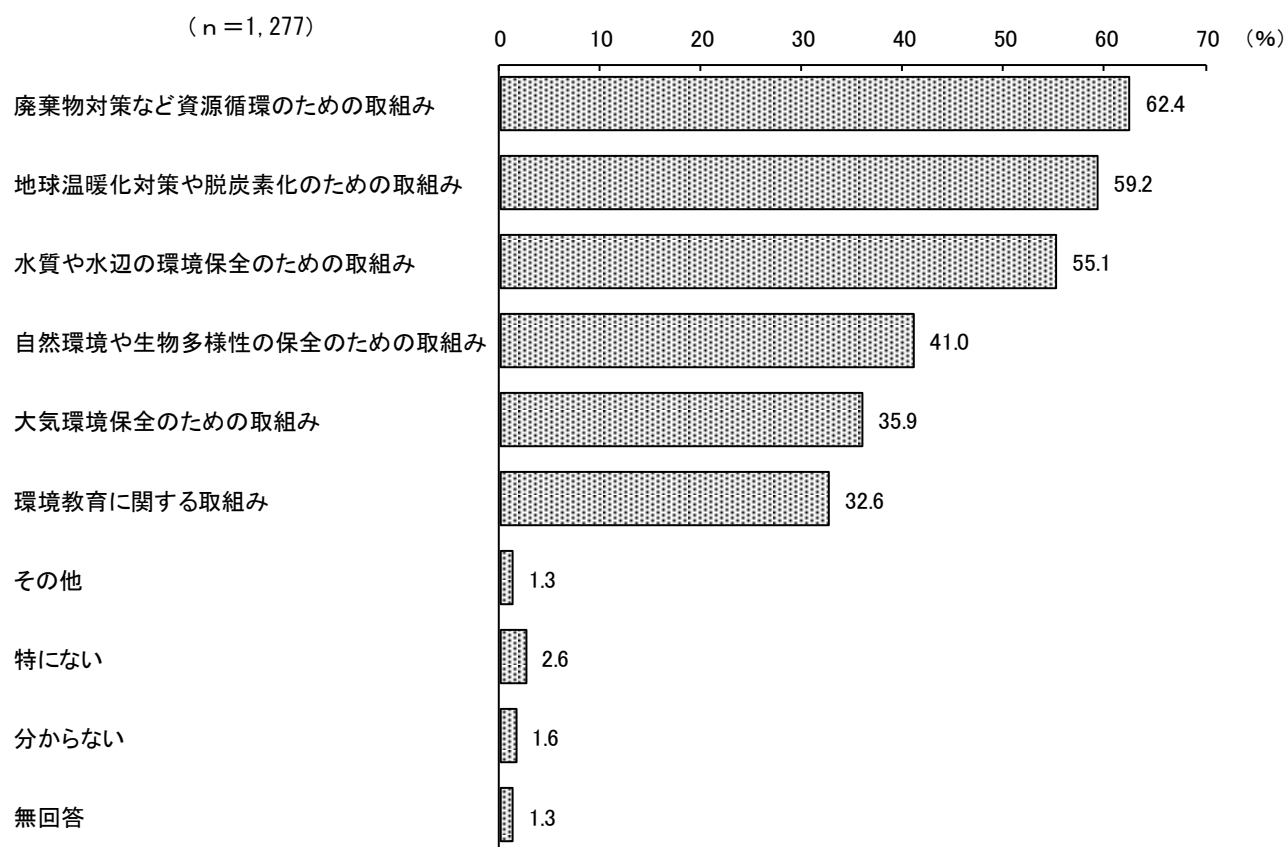
第2章 環境問題【問4～問7】

1 特に力を入れてほしい環境に関する取組み【問4】

【全体の状況】

特に力を入れてほしい環境に関する取組みを複数回答で尋ねたところ、「廃棄物対策など資源循環のための取組み」が62.4%で最も多く、次いで「地球温暖化対策や脱炭素化のための取組み」が59.2%であった。（図表2-1-1）

図表2-1-1 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）



図表2-1-2 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

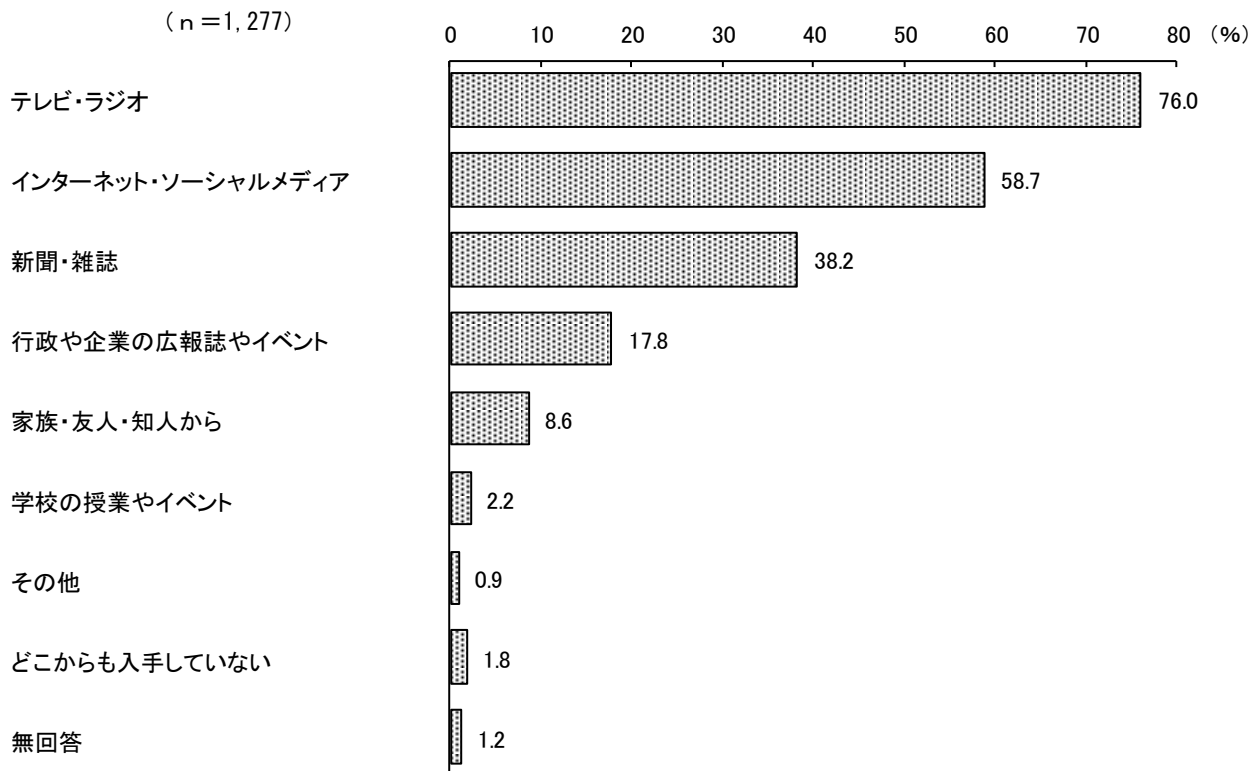
	n	み 廃棄物対策など資源循環のための取組	組 地球温暖化対策や脱炭素化のための取組	水質や水辺の環境保全のための取組	取 自然環境や生物多様性の保全のための取組	大気環境保全のための取組	環境教育に関する取組	その他	特にな	分らない	無回答
全 体	1,277	62.4	59.2	55.1	41.0	35.9	32.6	1.3	2.6	1.6	1.3
【地 域 別】											
横 浜	477	61.6	59.7	56.0	37.1	37.7	32.9	1.0	2.1	1.7	0.8
川 崎	174	62.6	52.3	56.3	46.6	39.7	35.1	1.1	2.9	1.1	2.3
相 模 原	90	48.9	60.0	47.8	43.3	38.9	32.2	1.1	7.8	2.2	1.1
横 須 賀 三 浦	115	68.7	64.3	56.5	49.6	36.5	40.0	1.7	2.6	0.9	0.9
県 央	135	66.7	60.7	47.4	31.9	25.2	25.9	0.7	0.0	3.7	1.5
湘 南	219	63.9	61.6	58.4	45.7	36.1	32.0	2.3	2.3	0.9	0.9
県 西	47	57.4	53.2	57.4	44.7	31.9	25.5	2.1	4.3	0.0	0.0
【性・年代別】											
男 性	586	62.8	55.1	55.8	38.9	33.1	29.0	1.7	2.7	1.4	0.7
女 性	658	62.5	62.8	54.4	43.3	38.8	35.9	1.1	2.0	1.8	1.5
男性18～29歳	27	48.1	33.3	40.7	22.2	25.9	22.2	0.0	3.7	3.7	0.0
30歳代	57	63.2	47.4	66.7	36.8	33.3	35.1	0.0	0.0	1.8	0.0
40歳代	106	57.5	48.1	55.7	34.0	29.2	35.8	0.9	2.8	0.9	0.0
50歳代	159	63.5	54.7	53.5	44.7	31.4	31.4	4.4	3.8	1.3	0.0
60歳代	111	66.7	60.4	54.1	37.8	30.6	18.9	0.9	3.6	1.8	0.9
70～74歳	55	61.8	65.5	56.4	34.5	34.5	27.3	1.8	1.8	0.0	1.8
75歳以上	51	68.6	66.7	58.8	47.1	49.0	27.5	0.0	2.0	0.0	3.9
女性18～29歳	43	51.2	65.1	58.1	44.2	44.2	34.9	0.0	0.0	2.3	0.0
30歳代	90	54.4	53.3	50.0	38.9	27.8	44.4	1.1	4.4	1.1	0.0
40歳代	148	59.5	52.7	57.4	40.5	37.8	31.8	0.0	2.7	4.1	0.0
50歳代	142	62.0	63.4	50.0	46.5	37.3	36.6	2.8	2.1	2.1	2.1
60歳代	112	69.6	74.1	57.1	43.8	46.4	33.9	0.0	0.0	0.0	0.9
70～74歳	54	63.0	75.9	66.7	50.0	48.1	46.3	3.7	3.7	0.0	0.0
75歳以上	49	77.6	69.4	49.0	46.9	38.8	26.5	0.0	0.0	0.0	8.2

2 環境に関する情報の入手先【問5】

【全体の状況】

環境に関する情報の入手先を複数回答で尋ねたところ、「テレビ・ラジオ」が76.0%で最も多く、次いで「インターネット・ソーシャルメディア」が58.7%であった。(図表2-2-1)

図表2-2-1 環境に関する情報の入手先（複数回答）



図表2-2-2 環境に関する情報の入手先（複数回答）—地域別、性・年代別

		(%)								
	n	テレビ・ラジオ	インターネット・ソーシャルメディア	新聞・雑誌	行政や企業の広報誌やイベント	家族・友人・知人から	学校の授業やイベント	その他	どこからも入手していない	無回答
全 体	1,277	76.0	58.7	38.2	17.8	8.6	2.2	0.9	1.8	1.2
【地 域 別】										
横 浜	477	73.4	63.7	35.0	15.9	7.3	2.1	0.4	1.7	1.0
川 崎	174	75.9	64.9	34.5	17.8	8.6	3.4	1.1	1.7	1.1
相 模 原	90	75.6	63.3	33.3	18.9	10.0	2.2	0.0	2.2	1.1
横 須 賀 三 浦	115	68.7	66.1	42.6	23.5	16.5	4.3	1.7	2.6	0.9
県 央	135	79.3	44.4	43.0	20.7	9.6	0.7	0.7	1.5	1.5
湘 南	219	81.7	49.8	41.6	16.9	6.8	1.8	1.4	1.4	1.4
県 西	47	83.0	44.7	44.7	14.9	0.0	0.0	2.1	4.3	0.0
【性・年代別】										
男 性	586	73.0	60.9	41.0	16.9	5.1	1.5	0.9	1.9	0.9
女 性	658	78.6	57.3	35.6	18.4	11.6	2.9	0.9	1.7	1.4
男性18～29歳	27	48.1	85.2	22.2	14.8	3.7	7.4	0.0	0.0	0.0
30歳代	57	54.4	89.5	12.3	17.5	7.0	0.0	1.8	1.8	0.0
40歳代	106	70.8	79.2	21.7	14.2	7.5	4.7	1.9	0.9	0.0
50歳代	159	68.6	62.9	39.0	17.0	6.9	0.6	0.6	4.4	0.6
60歳代	111	82.9	55.9	52.3	11.7	1.8	0.0	0.0	1.8	1.8
70～74歳	55	87.3	40.0	67.3	21.8	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0
75歳以上	51	86.3	13.7	70.6	27.5	3.9	0.0	2.0	0.0	3.9
女性18～29歳	43	65.1	76.7	7.0	9.3	7.0	18.6	2.3	0.0	0.0
30歳代	90	70.0	81.1	12.2	18.9	8.9	4.4	1.1	4.4	0.0
40歳代	148	72.3	75.7	26.4	14.9	9.5	2.0	2.7	1.4	0.0
50歳代	142	74.6	60.6	33.8	16.2	14.8	2.1	0.0	2.8	1.4
60歳代	112	89.3	47.3	54.5	21.4	5.4	0.9	0.0	0.0	0.9
70～74歳	54	96.3	25.9	68.5	24.1	14.8	0.0	0.0	0.0	0.0
75歳以上	49	89.8	10.2	55.1	32.7	22.4	0.0	0.0	0.0	8.2

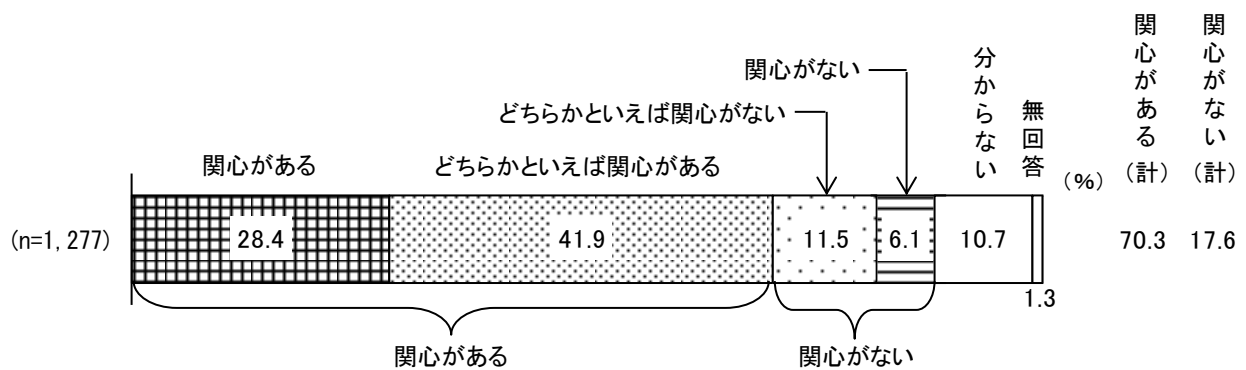
3 「脱炭素（カーボンニュートラル）」への関心【問6】

【全体の状況】

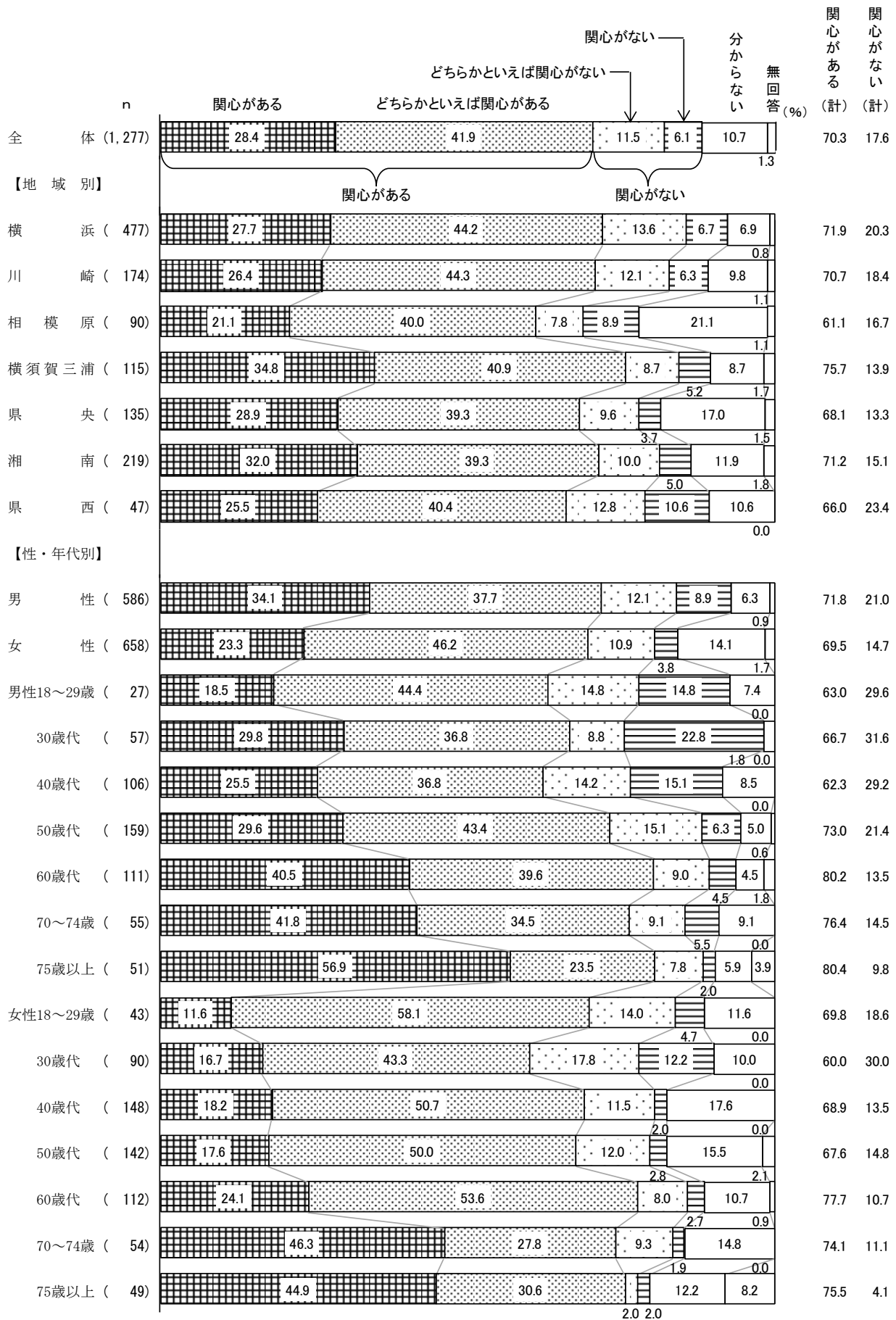
「脱炭素（カーボンニュートラル）」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(28.4%)と「どちらかといえば関心がある」(41.9%)を合わせた《関心がある》は70.3%であった。

一方、「関心がない」(6.1%)と「どちらかといえば関心がない」(11.5%)を合わせた《関心がない》は17.6%であった。(図表 2-3-1)

図表2-3-1 「脱炭素（カーボンニュートラル）」への関心



図表2-3-2 「脱炭素（カーボンニュートラル）」への関心—地域別、性・年代別



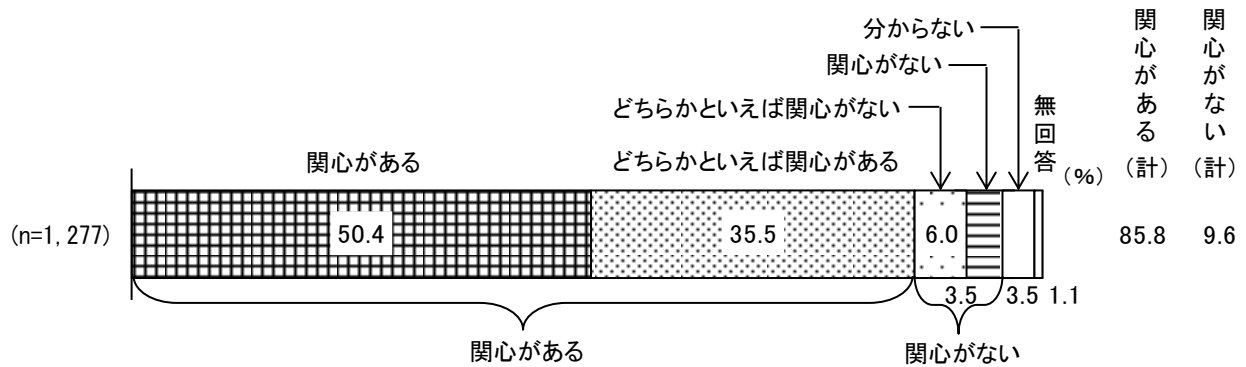
4 「気候変動への適応」への関心【問7】

【全体の状況】

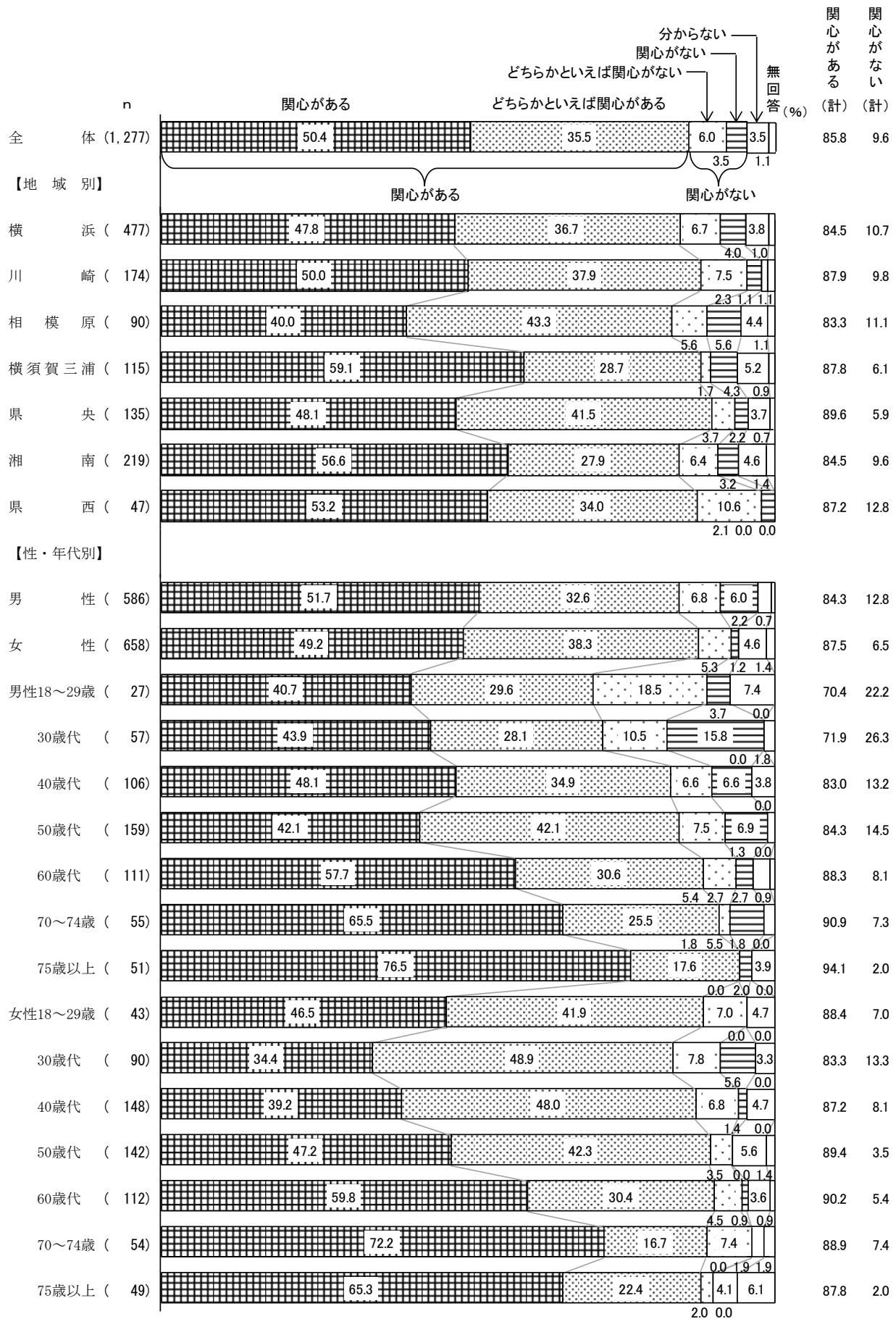
「気候変動への適応」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(50.4%)と「どちらかといえば関心がある」(35.5%)を合わせた《関心がある》は85.8%であった。

一方、「関心がない」(3.5%)と「どちらかといえば関心がない」(6.0%)を合わせた《関心がない》は9.6%であった。(図表2-4-1)

図表2-4-1 「気候変動への適応」への関心



図表2-4-2 「気候変動への適応」への関心—地域別、性・年代別



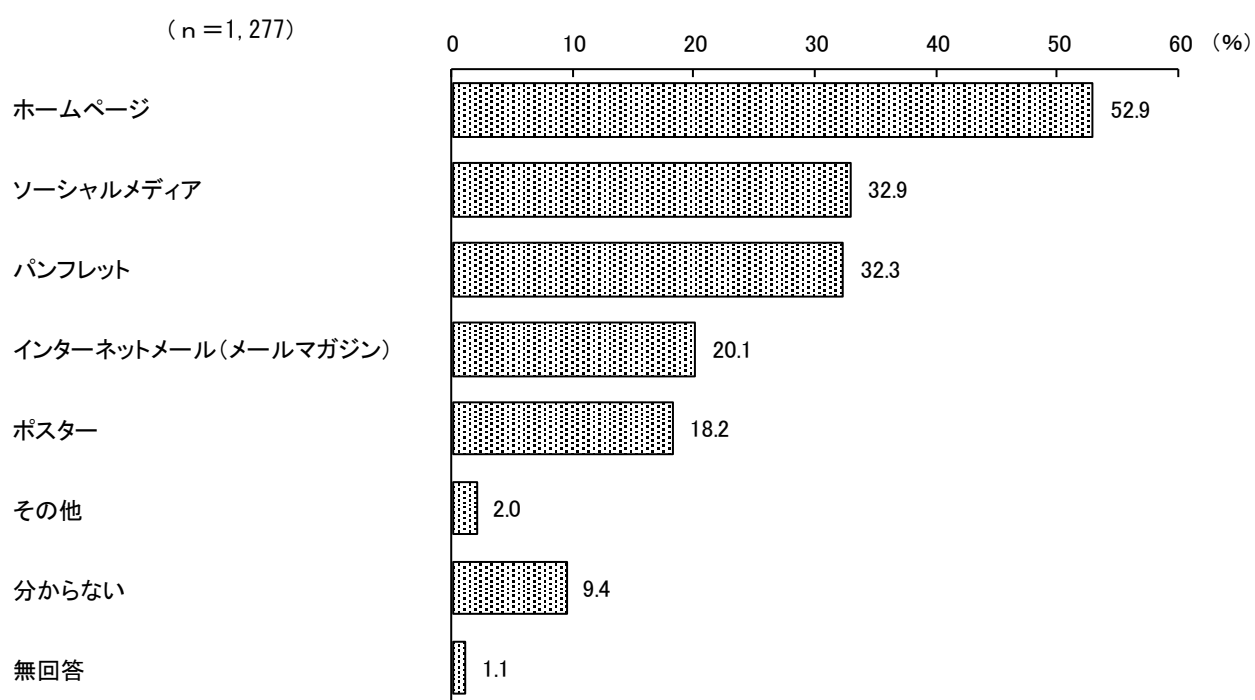
第3章 かながわの水源地域【問8～問10】

1 「やまなみ五湖」に関する情報収集の手段【問8】

【全体の状況】

「やまなみ五湖」に関する情報収集の手段について複数回答で尋ねたところ、「ホームページ」が52.9%で最も多く、次いで「ソーシャルメディア」が32.9%であった。(図表3-1-1)

図表3-1-1 「やまなみ五湖」に関する情報収集の手段（複数回答）



図表3-1-2 「やまなみ五湖」に関する情報収集の手段（複数回答）－地域別、性・年代別

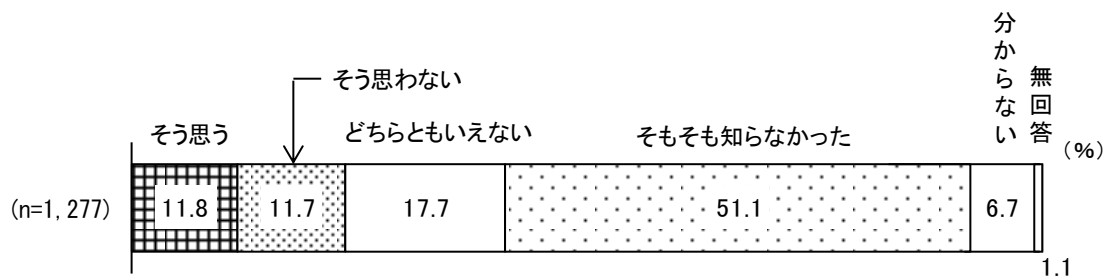
		(%)							
	n	ホームページ	ソーシャルメディア	パンフレット	インターネットメール（メールマガジン）	ポスター	その他	分からない	無回答
全体	1,277	52.9	32.9	32.3	20.1	18.2	2.0	9.4	1.1
【地域別】									
横浜	477	60.2	36.1	24.3	17.2	15.3	2.1	9.6	1.0
川崎	174	50.0	40.8	23.6	23.0	17.8	2.3	12.1	1.1
相模原	90	41.1	35.6	43.3	17.8	23.3	1.1	11.1	1.1
横須賀三浦	115	57.4	37.4	33.9	28.7	13.9	3.5	5.2	0.9
県央	135	45.2	29.6	44.4	20.0	22.2	0.7	6.7	1.5
湘南	219	48.9	21.9	39.3	22.4	21.9	1.8	8.7	0.9
県西	47	53.2	23.4	44.7	12.8	21.3	0.0	14.9	0.0
【性・年代別】									
男性	586	53.6	28.7	30.2	22.0	15.4	2.0	10.4	0.5
女性	658	53.3	37.1	33.6	18.5	21.1	1.8	8.2	1.5
男性18～29歳	27	55.6	40.7	11.1	7.4	7.4	0.0	25.9	0.0
30歳代	57	49.1	50.9	10.5	14.0	14.0	1.8	19.3	0.0
40歳代	106	66.0	36.8	17.9	17.9	7.5	1.9	10.4	0.0
50歳代	159	61.6	32.7	21.4	30.2	14.5	1.3	8.8	0.0
60歳代	111	54.1	17.1	40.5	23.4	14.4	1.8	6.3	0.9
70～74歳	55	38.2	10.9	50.9	27.3	21.8	3.6	12.7	0.0
75歳以上	51	33.3	17.6	60.8	19.6	25.5	5.9	7.8	3.9
女性18～29歳	43	55.8	69.8	14.0	7.0	14.0	4.7	7.0	0.0
30歳代	90	57.8	58.9	17.8	10.0	11.1	0.0	13.3	0.0
40歳代	148	65.5	46.6	20.9	20.9	12.8	2.0	7.4	0.0
50歳代	142	59.2	40.1	29.6	26.1	23.9	2.1	5.6	1.4
60歳代	112	52.7	17.0	50.0	23.2	25.0	0.9	7.1	0.0
70～74歳	54	31.5	14.8	51.9	18.5	33.3	3.7	9.3	1.9
75歳以上	49	22.4	10.2	69.4	8.2	36.7	2.0	10.2	10.2

2 「やまなみグッズ」の購入意向【問9】

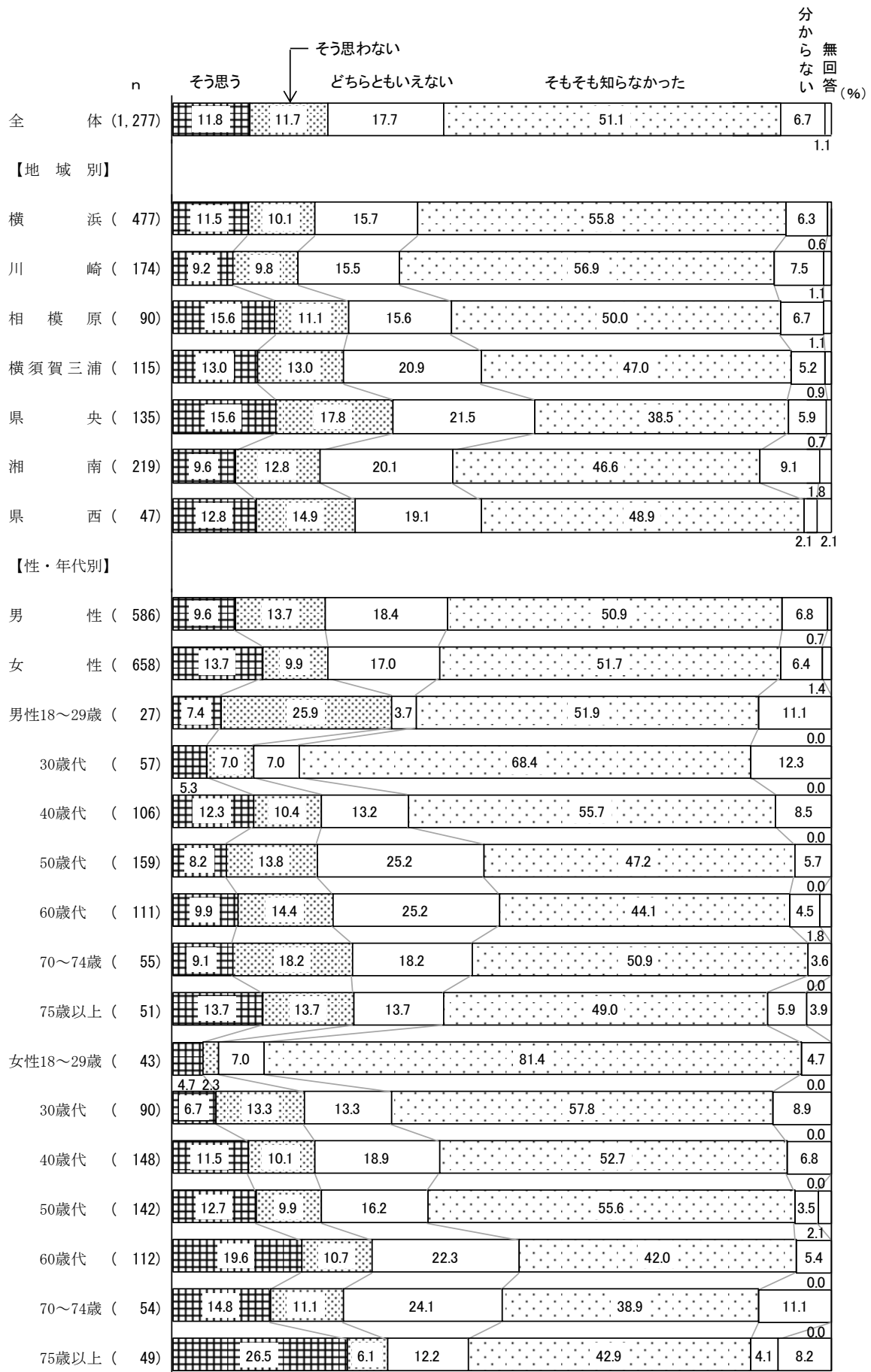
【全体の状況】

「やまなみグッズ」の購入意向を尋ねたところ、「そもそも知らなかった」が51.1%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が17.7%であった。(図表3-2-1)

図表3-2-1 「やまなみグッズ」の購入意向



図表3-2-2 「やまなみグッズ」の購入意向—地域別、性・年代別

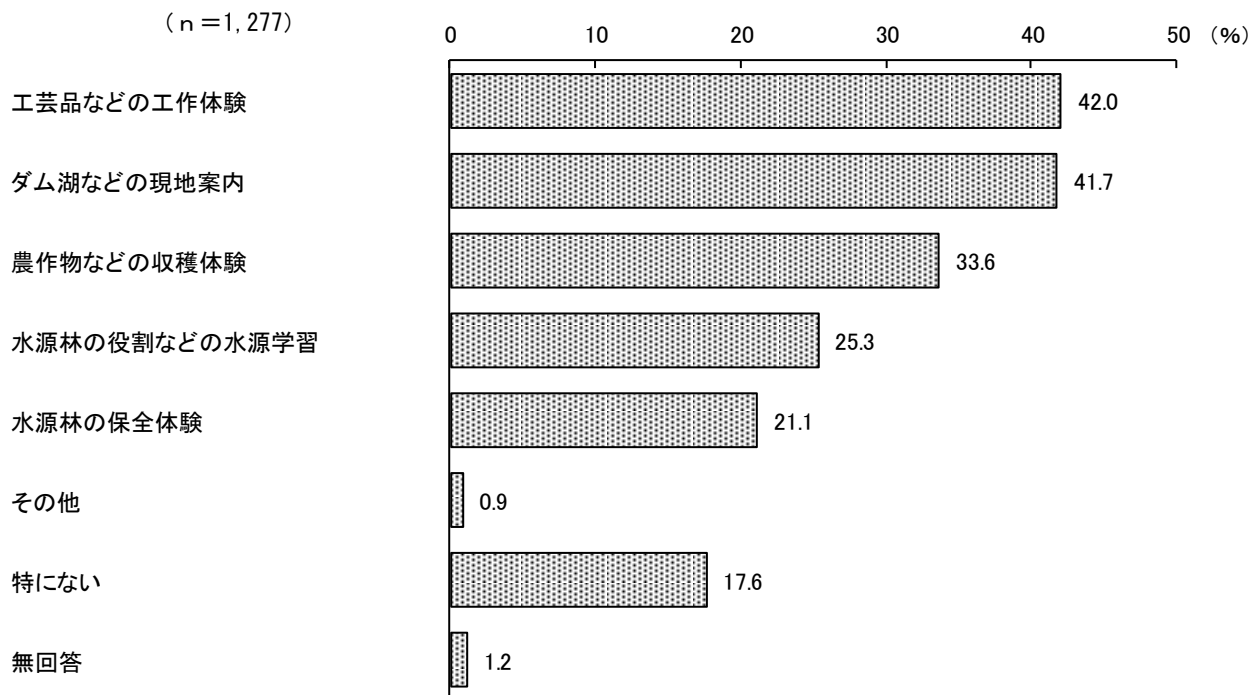


3 現地で体験したいと思うこと【問10】

【全体の状況】

現地で体験したいと思うことを複数回答で尋ねたところ、「工芸品などの工作体験」が42.0%で最も多く、次いで「ダム湖などの現地案内」が41.7%であった。(図表3-3-1)

図表3-3-1 現地で体験したいと思うこと（複数回答）



図表3-3-2 現地で体験したいと思うこと（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)									
	n	工芸品などの工作体験	ダム湖などの現地案内	農作物などの収穫体験	水源林の役割などの水源学習	水源林の保全体験	その他	特にない	無回答
全体	1,277	42.0	41.7	33.6	25.3	21.1	0.9	17.6	1.2
【地域別】									
横浜	477	43.2	41.5	34.8	26.2	20.3	1.0	17.0	1.0
川崎	174	46.0	42.5	42.0	20.1	24.1	1.1	13.2	1.7
相模原	90	50.0	32.2	40.0	23.3	21.1	0.0	17.8	1.1
横須賀三浦	115	46.1	40.9	33.0	27.8	25.2	1.7	14.8	0.0
県央	135	37.8	38.5	30.4	24.4	14.1	0.0	24.4	1.5
湘南	219	37.0	47.0	21.9	28.3	21.5	0.9	21.0	1.4
県西	47	27.7	51.1	38.3	17.0	21.3	0.0	10.6	2.1
【性・年代別】									
男性	586	29.2	42.7	25.4	27.5	22.2	0.5	23.4	1.4
女性	658	53.8	41.5	41.0	23.3	19.8	1.2	12.2	1.1
男性18～29歳	27	33.3	40.7	37.0	14.8	3.7	0.0	14.8	0.0
30歳代	57	40.4	43.9	35.1	28.1	26.3	1.8	21.1	0.0
40歳代	106	38.7	40.6	37.7	23.6	24.5	0.9	20.8	0.9
50歳代	159	32.7	44.0	22.6	28.9	23.3	0.6	23.3	0.6
60歳代	111	20.7	48.6	15.3	27.9	20.7	0.0	24.3	0.9
70～74歳	55	21.8	29.1	16.4	27.3	20.0	0.0	34.5	3.6
75歳以上	51	11.8	47.1	21.6	41.2	29.4	0.0	19.6	5.9
女性18～29歳	43	76.7	39.5	51.2	11.6	18.6	0.0	7.0	2.3
30歳代	90	68.9	38.9	56.7	23.3	16.7	0.0	7.8	0.0
40歳代	148	54.7	45.3	48.6	23.6	23.0	1.4	8.8	0.0
50歳代	142	58.5	42.3	35.9	23.9	23.9	3.5	9.9	0.7
60歳代	112	41.1	42.0	35.7	22.3	19.6	0.0	16.1	1.8
70～74歳	54	44.4	44.4	33.3	22.2	14.8	1.9	22.2	0.0
75歳以上	49	34.7	38.8	26.5	32.7	12.2	0.0	14.3	6.1

第4章 スポーツ【問11～問14】

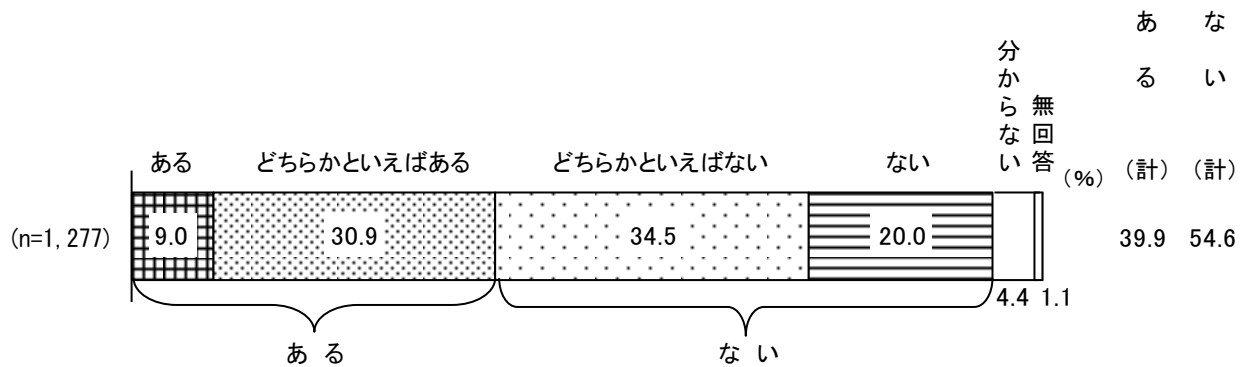
1 体力への自信の有無【問11】

【全体の状況】

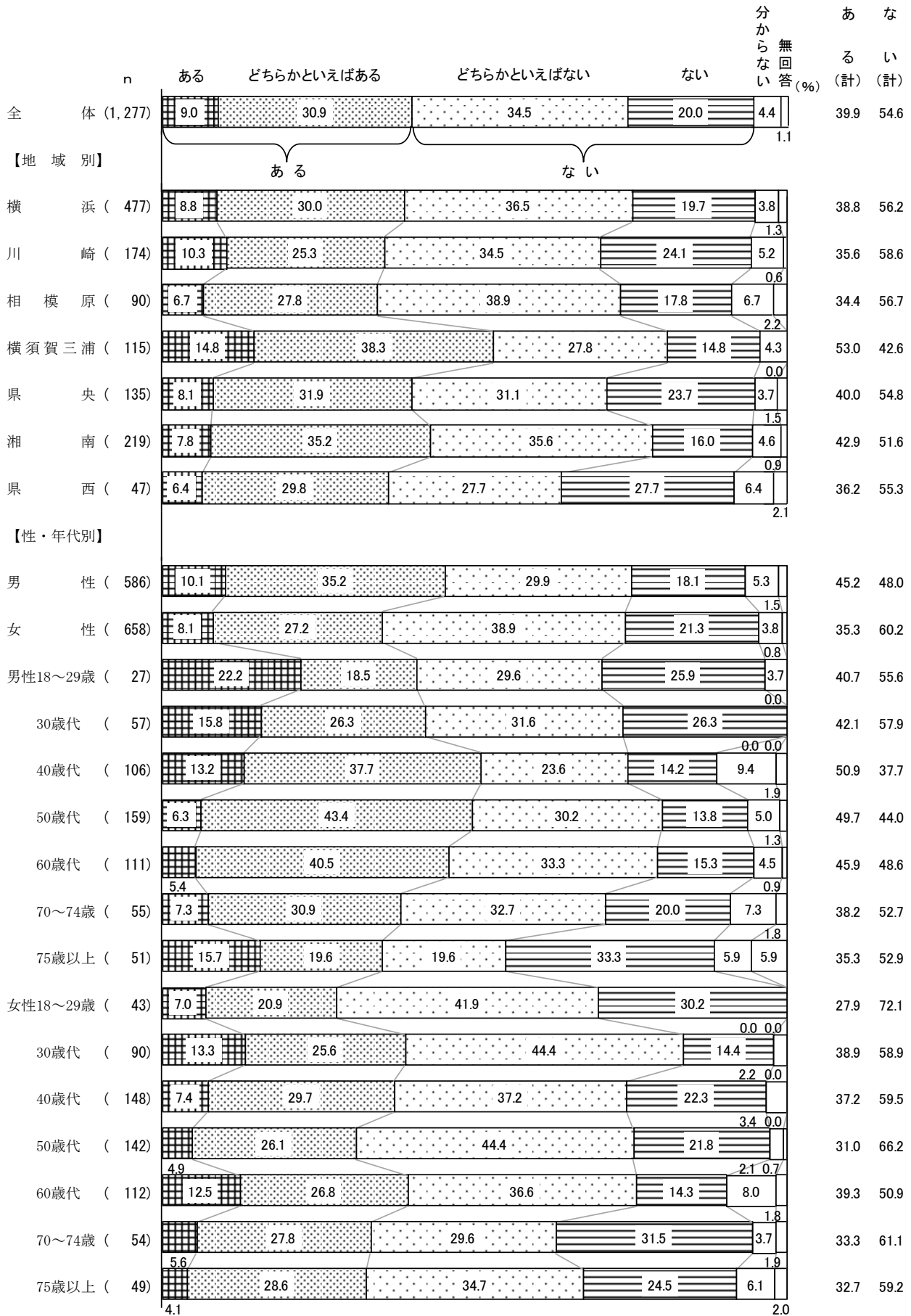
体力に自信があるか尋ねたところ、「ある」(9.0%)と「どちらかといえばある」(30.9%)を合わせた《ある》は39.9%であった。

一方、「ない」(20.0%)と「どちらかといえばない」(34.5%)を合わせた《ない》は54.6%であった。(図表4-1-1)

図表4-1-1 体力への自信の有無



図表4-1-2 体力への自信の有無—地域別、性・年代別

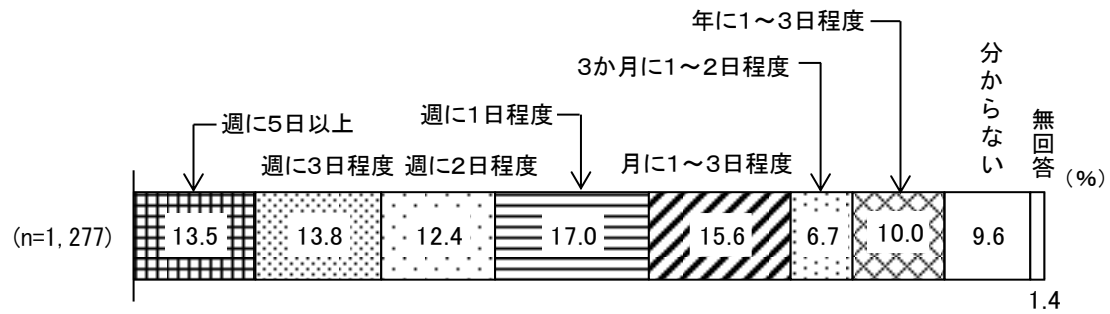


2 1年間のスポーツ実施日数【問12】

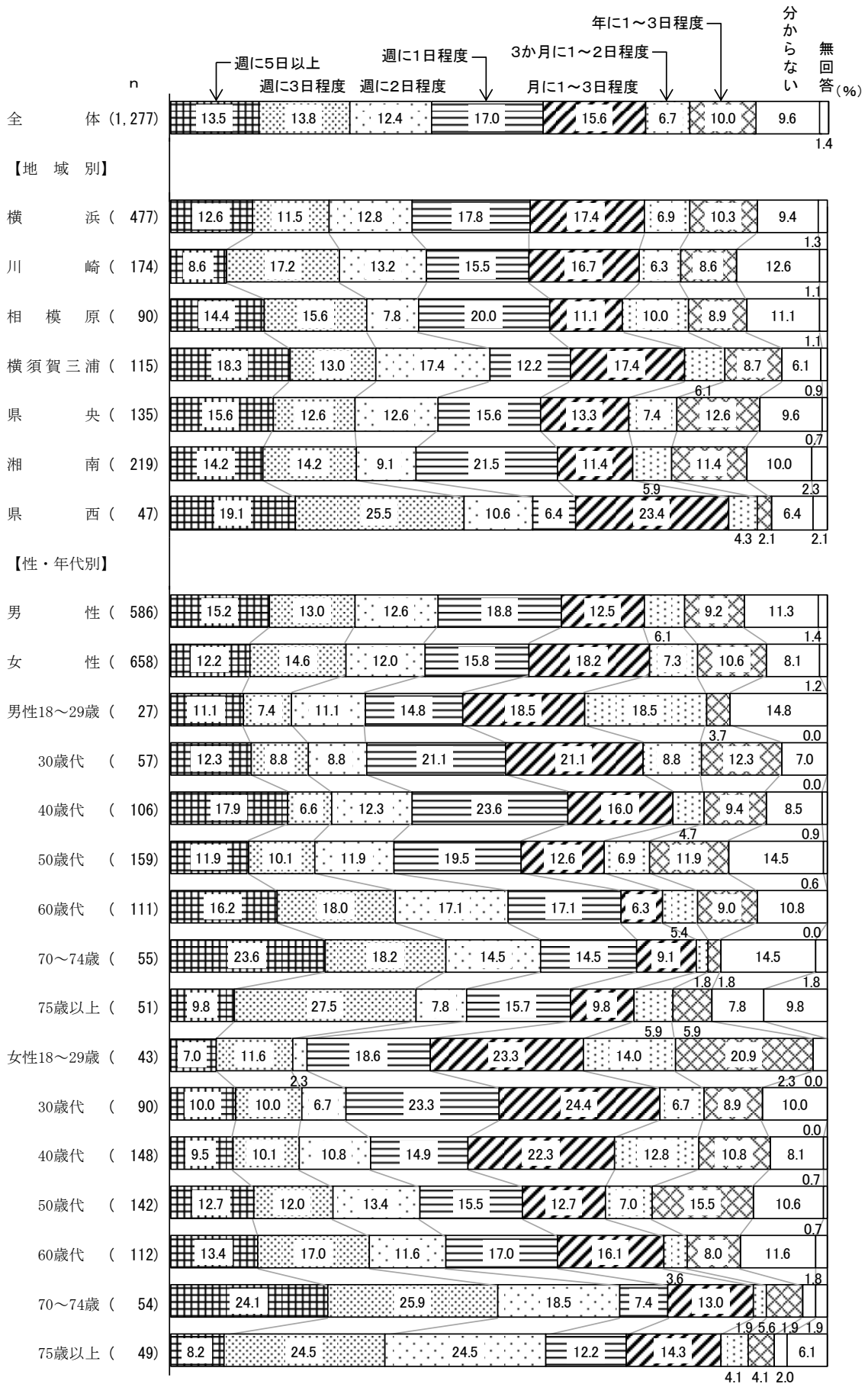
【全体の状況】

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「週に1日程度」が17.0%で最も多く、次いで「月に1～3日程度」が15.6%であった。（図表4-2-1）

図表4-2-1 1年間のスポーツ実施日数



図表4-2-2 1年間のスポーツ実施日数—地域別、性・年代別



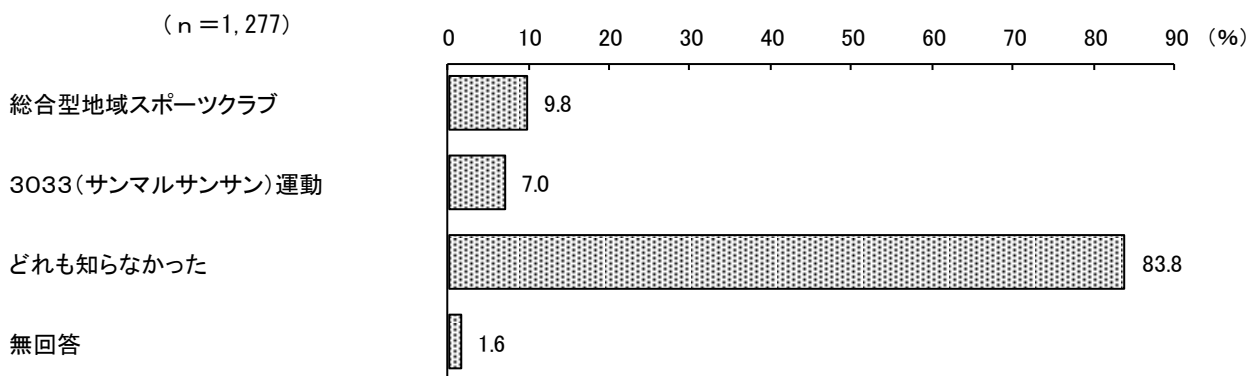
3 スポーツ推進に係る取組みの認知度【問13】

【全体の状況】

スポーツ推進に係る取組みについて、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「総合型地域スポーツクラブ」が9.8%、「3033（サンマルサンサン）運動」が7.0%であった。

一方、「どれも知らなかった」が83.8%であった。（図表4-3-1）

図表4-3-1 スポーツ推進に係る取組みの認知度（複数回答）



図表4-3-2 スポーツ推進に係る取組みの認知度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	総合型地域スポーツクラブ	3033（サンマルサンサン）運動	どれも知らなかった	無回答
全 体	1,277	9.8	7.0	83.8	1.6
【地 域 別】					
横 浜	477	9.6	4.6	85.3	1.9
川 崎	174	11.5	6.3	82.8	1.1
相 模 原	90	7.8	4.4	87.8	1.1
横 須 賀 三 浦	115	9.6	8.7	84.3	0.9
県 央	135	11.9	14.1	76.3	1.5
湘 南	219	11.0	7.3	83.1	1.8
県 西	47	2.1	10.6	87.2	2.1
【性・年代別】					
男 性	586	8.2	5.8	86.0	1.5
女 性	658	11.7	7.9	81.8	1.5
男性18～29歳	27	7.4	3.7	92.6	0.0
30歳代	57	8.8	7.0	84.2	1.8
40歳代	106	9.4	2.8	85.8	1.9
50歳代	159	6.9	5.7	88.1	0.6
60歳代	111	8.1	7.2	85.6	0.9
70～74歳	55	7.3	10.9	81.8	1.8
75歳以上	51	13.7	5.9	78.4	5.9
女性18～29歳	43	14.0	14.0	74.4	2.3
30歳代	90	6.7	4.4	88.9	0.0
40歳代	148	10.8	3.4	85.8	0.7
50歳代	142	8.5	6.3	86.6	0.7
60歳代	112	11.6	8.9	82.1	0.9
70～74歳	54	16.7	7.4	74.1	3.7
75歳以上	49	22.4	24.5	59.2	8.2

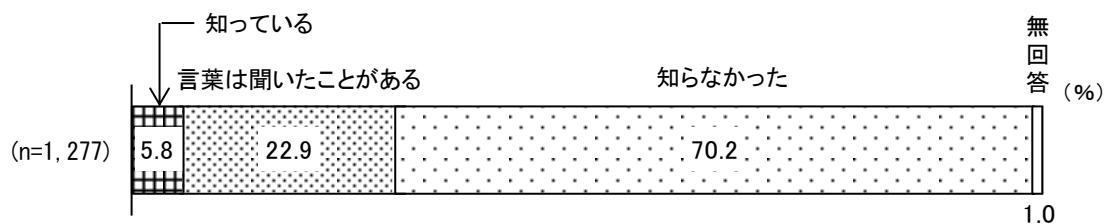
4 「かながわパラスポーツ」の認知度【問14】

【全体の状況】

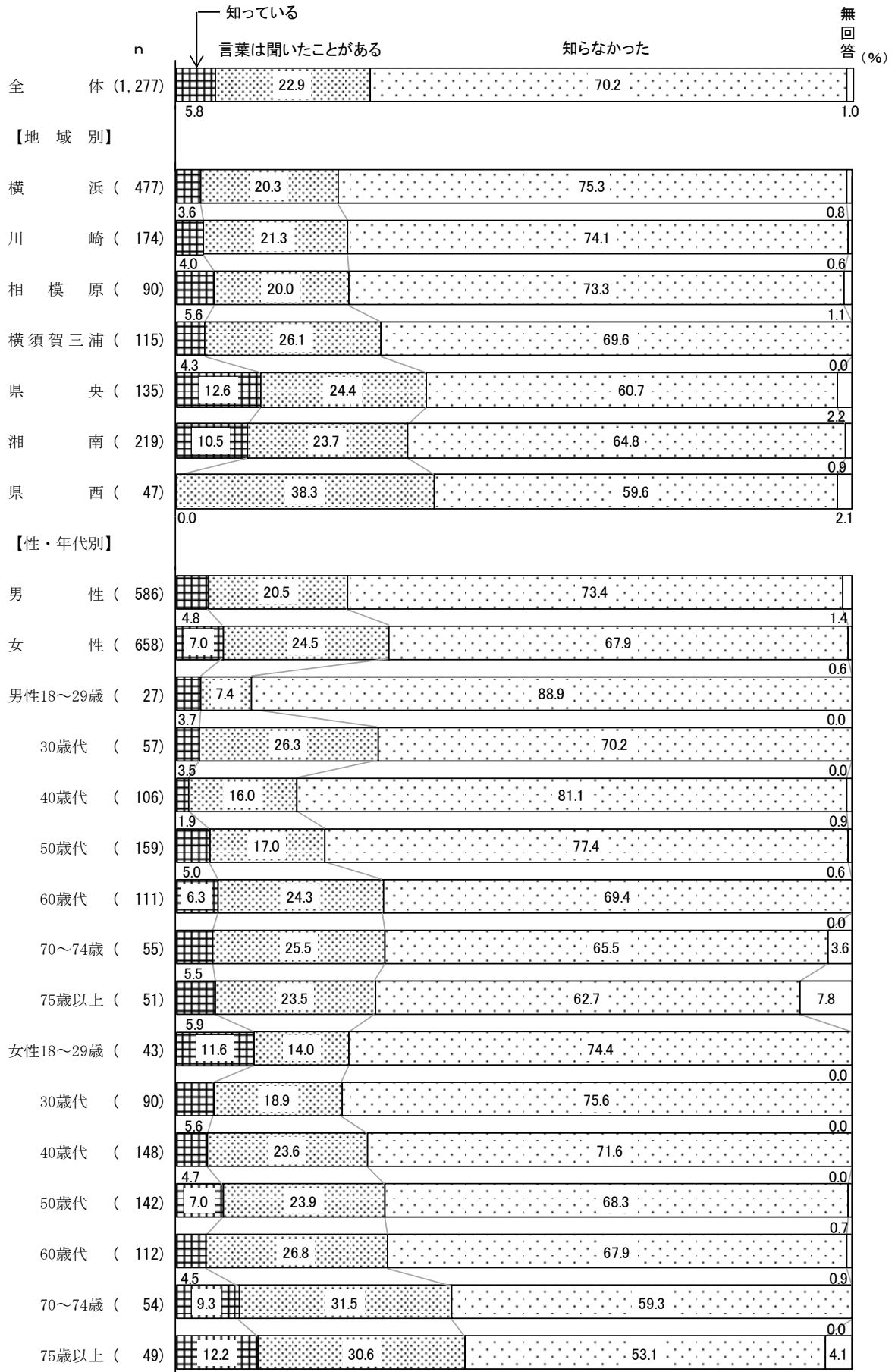
「かながわパラスポーツ」について知っているか尋ねたところ、「知っている」が5.8%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が22.9%であった。

一方、「知らなかった」が70.2%であった。(図表4-4-1)

図表4-4-1 「かながわパラスポーツ」の認知度



図表4-4-2 「かながわパラスポーツ」の認知度—地域別、性・年代別



第5章 自転車の利用【問15～問16】

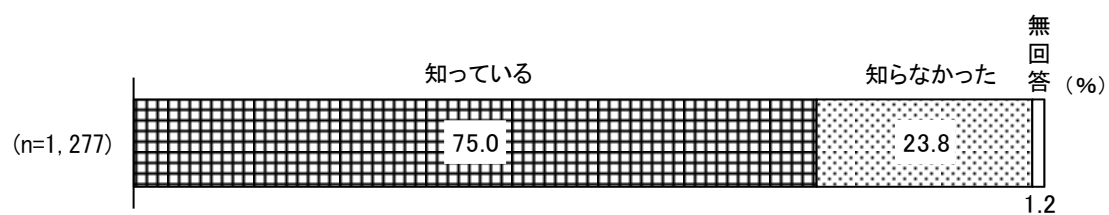
1 自転車損害賠償責任保険等の加入義務の認知度【問15】

【全体の状況】

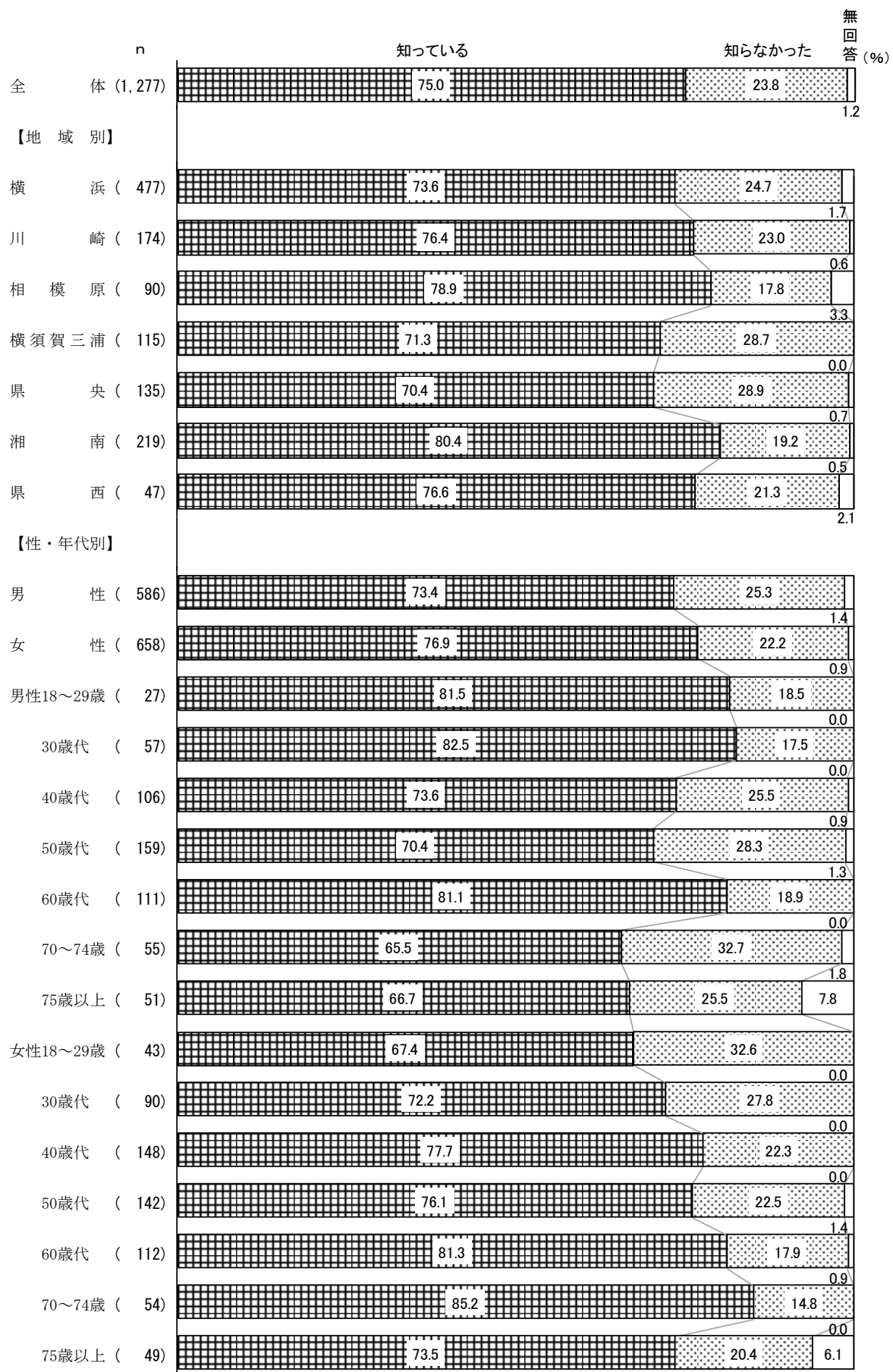
県の条例で、自転車を利用される方全てに自転車損害賠償責任保険等の加入義務があることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が75.0%であった。

一方、「知らなかった」が23.8%であった。(図表5-1-1)

図表5-1-1 自転車損害賠償責任保険等の加入義務の認知度



図表5-1-2 自転車損害賠償責任保険等の加入義務の認知度—地域別、性・年代別



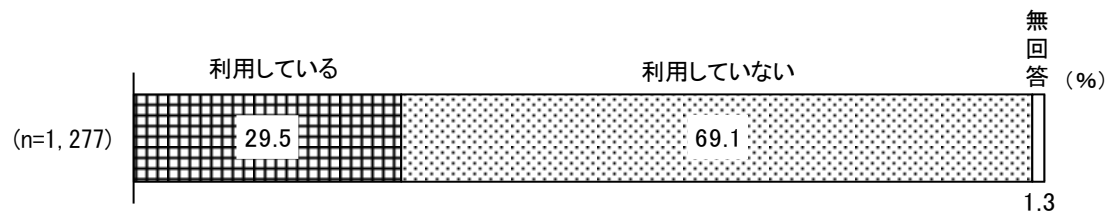
2 自転車の利用状況【問16】

【全体の状況】

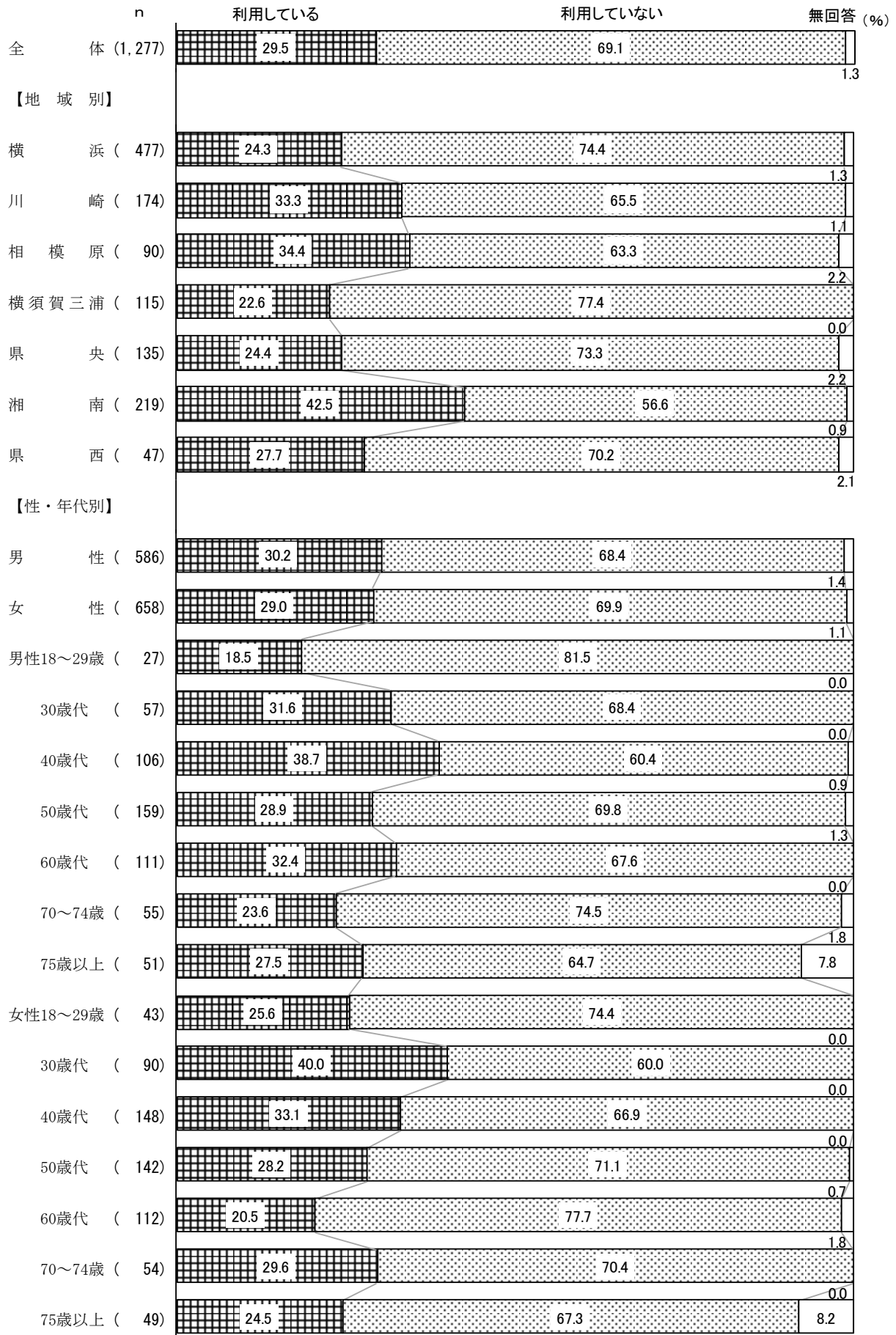
通勤や通学、その他日常生活で自転車を利用しているか尋ねたところ、「利用している」が29.5%であった。

一方、「利用していない」が69.1%であった。(図表5-2-1)

図表5-2-1 自転車の利用状況



図表5-2-2 自転車の利用状況—地域別、性・年代別



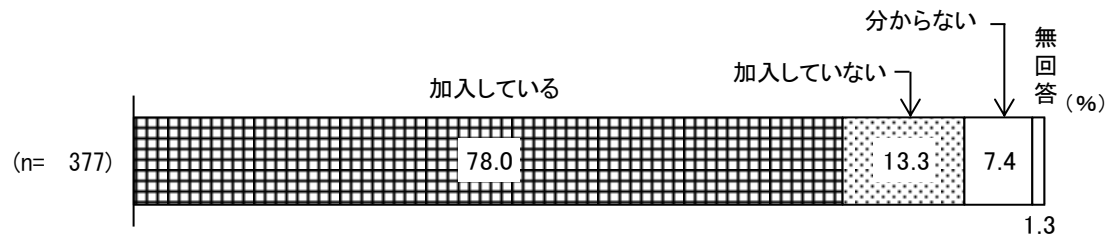
3 自転車損害賠償責任保険等の加入状況【問16-1】

【全体の状況】

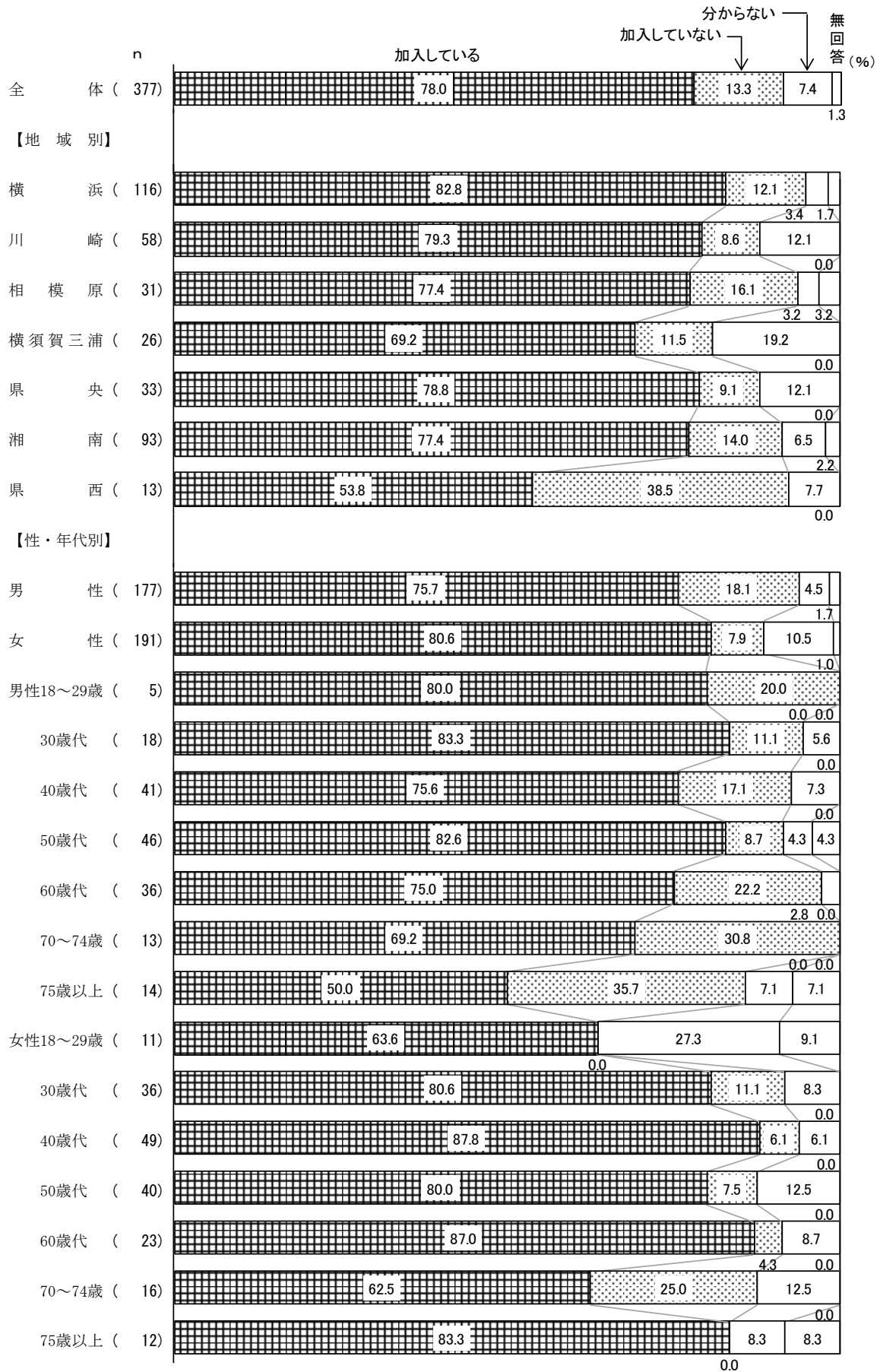
自転車の利用状況（問16）で、「利用している」と回答した377人に、自転車損害賠償責任保険等に加入しているか尋ねたところ、「加入している」が78.0%であった。

一方、「加入していない」が13.3%であった。（図表5-3-1）

図表5-3-1 自転車損害賠償責任保険等の加入状況



図表5-3-2 自転車損害賠償責任保険等の加入状況—地域別、性・年代別

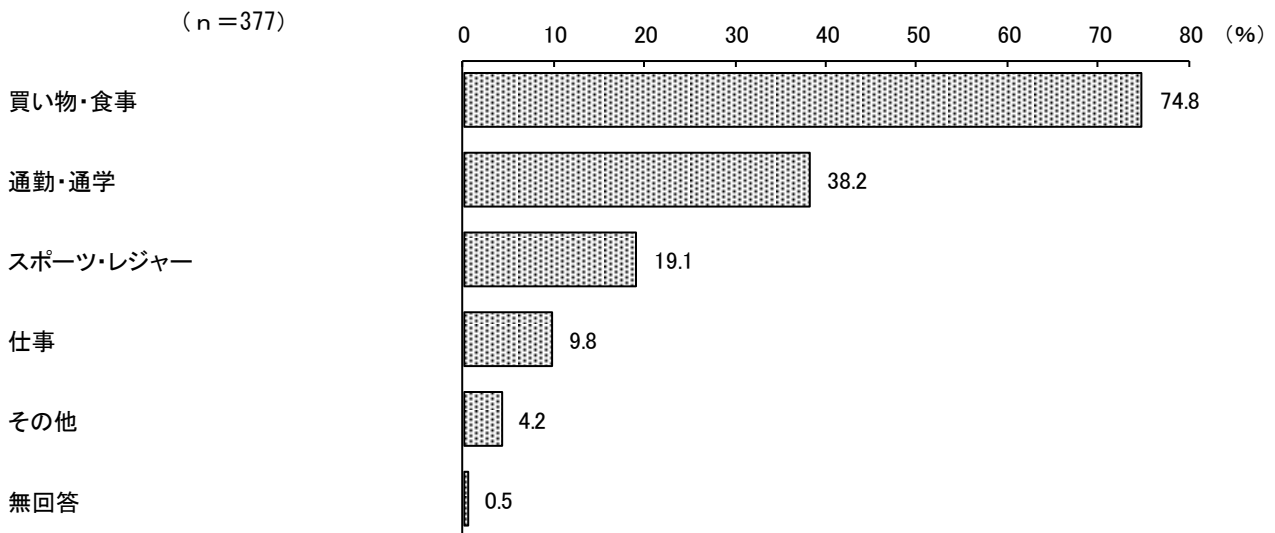


4 自転車を利用する目的【問16-2】

【全体の状況】

自転車の利用状況（問16）で、「利用している」と回答した377人に、自転車を利用する目的を複数回答で尋ねたところ、「買い物・食事」が74.8%で最も多く、次いで「通勤・通学」が38.2%であった。（図表5-4-1）

図表5-4-1 自転車を利用する目的（複数回答）



図表5-4-2 自転車を利用する目的（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	買い物・食事	通勤・通学	スポーツ・レジャー	仕事	その他	無回答
全 体	377	74.8	38.2	19.1	9.8	4.2	0.5
【地 域 別】							
横 浜	116	72.4	37.1	24.1	8.6	1.7	0.0
川 崎	58	86.2	39.7	15.5	12.1	5.2	0.0
相 模 原	31	77.4	45.2	12.9	12.9	3.2	0.0
横 須 賀 三 浦	26	53.8	46.2	26.9	3.8	3.8	0.0
県 央	33	78.8	33.3	9.1	15.2	12.1	0.0
湘 南	93	77.4	33.3	19.4	8.6	4.3	2.2
県 西	13	61.5	53.8	7.7	7.7	7.7	0.0
【性・年代別】							
男 性	177	68.4	36.7	24.3	7.3	4.0	0.0
女 性	191	81.7	39.8	14.1	12.0	4.7	0.5
男性18～29歳	5	80.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	18	61.1	55.6	11.1	11.1	0.0	0.0
40歳代	41	58.5	41.5	22.0	7.3	0.0	0.0
50歳代	46	60.9	50.0	30.4	10.9	4.3	0.0
60歳代	36	75.0	27.8	19.4	5.6	2.8	0.0
70～74歳	13	84.6	15.4	23.1	0.0	15.4	0.0
75歳以上	14	85.7	0.0	35.7	7.1	14.3	0.0
女性18～29歳	11	63.6	72.7	18.2	27.3	0.0	0.0
30歳代	36	66.7	69.4	13.9	2.8	2.8	0.0
40歳代	49	83.7	44.9	16.3	14.3	4.1	0.0
50歳代	40	85.0	32.5	5.0	20.0	0.0	2.5
60歳代	23	91.3	30.4	17.4	13.0	13.0	0.0
70～74歳	16	93.8	6.3	25.0	0.0	6.3	0.0
75歳以上	12	83.3	0.0	16.7	8.3	16.7	0.0

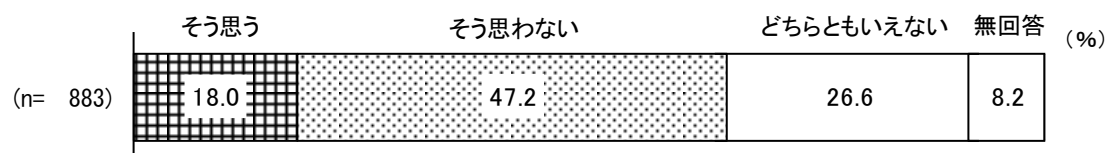
5 今後の自転車の利用意向【問16-3】

【全体の状況】

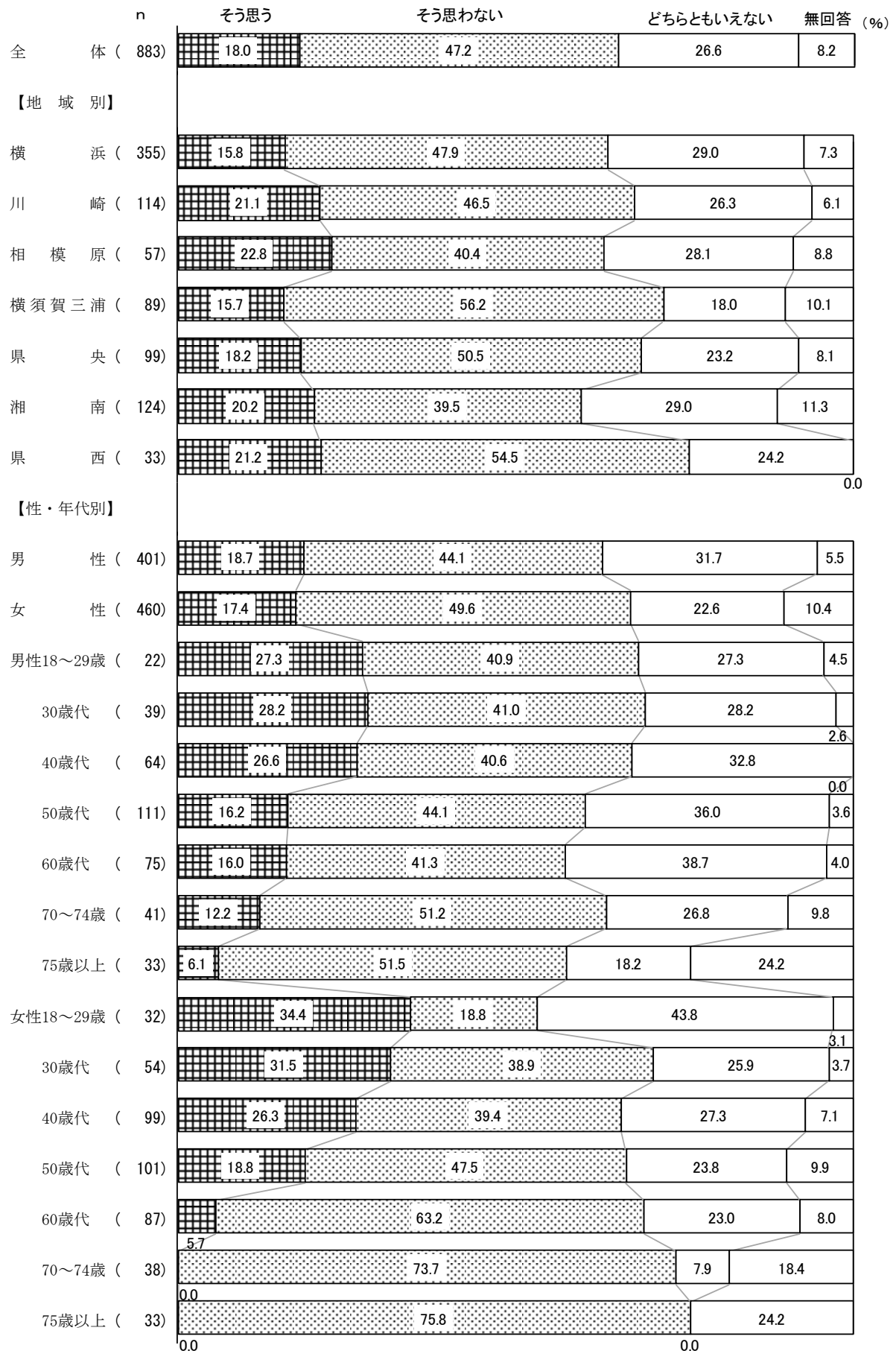
自転車の利用状況（問16）で、「利用していない」と回答した883人に、今後の自転車の利用意向を尋ねたところ、「そう思う」が18.0%であった。

一方、「そう思わない」が47.2%であった。（図表5-5-1）

図表5-5-1 今後の自転車の利用意向



図表5-5-2 今後の自転車利用意向—地域別、性・年代別



第6章 かながわの広報【問17～問19】

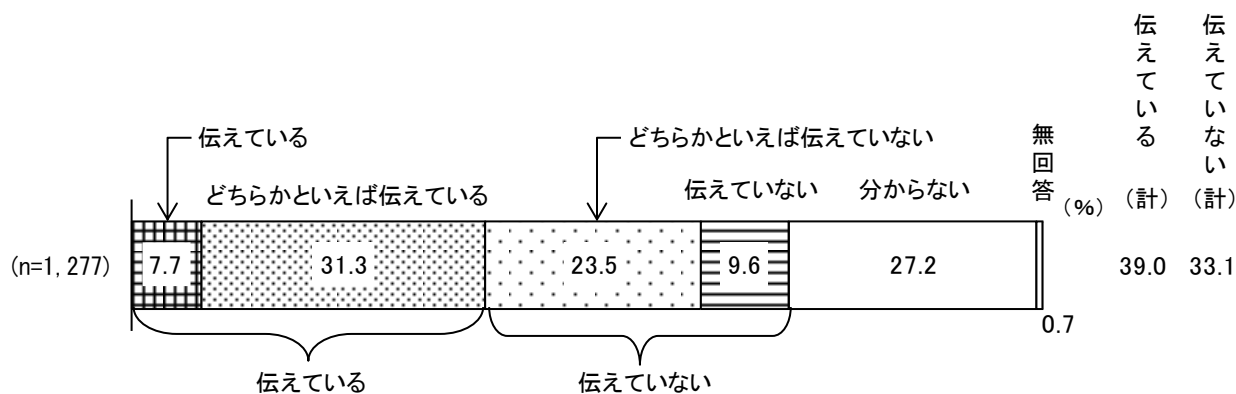
1 県の広報の達成度【問17】

【全体の状況】

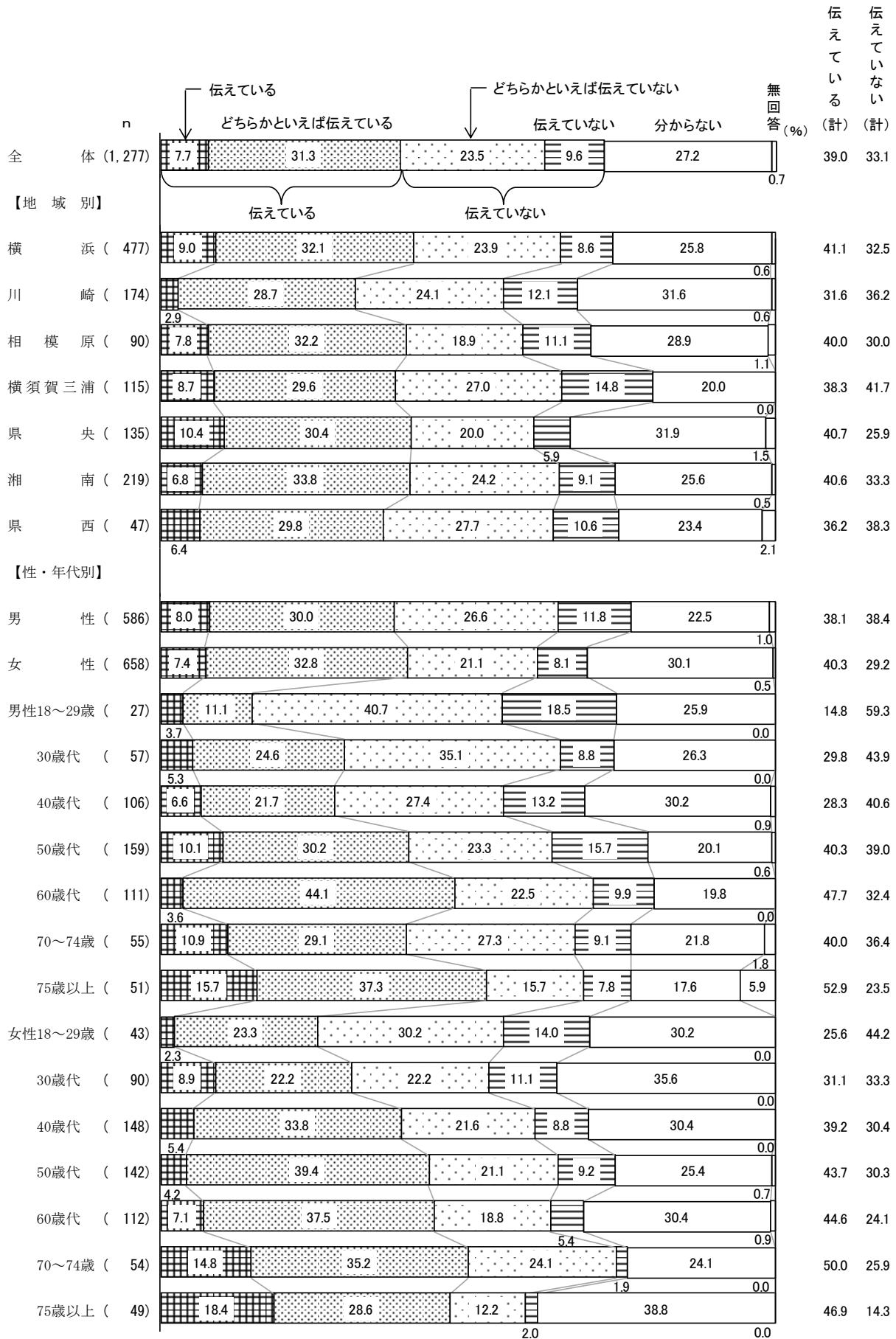
県が県政情報を十分に伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えている」(7.7%)と「どちらかといえば伝えている」(31.3%)を合わせた《伝えている》は39.0%であった。

一方、「伝えていない」(9.6%)と「どちらかといえば伝えていない」(23.5%)を合わせた《伝えていない》は33.1%であった。(図表6-1-1)

図表6-1-1 県の広報の達成度



図表6-1-2 県の広報の達成度—地域別、性・年代別



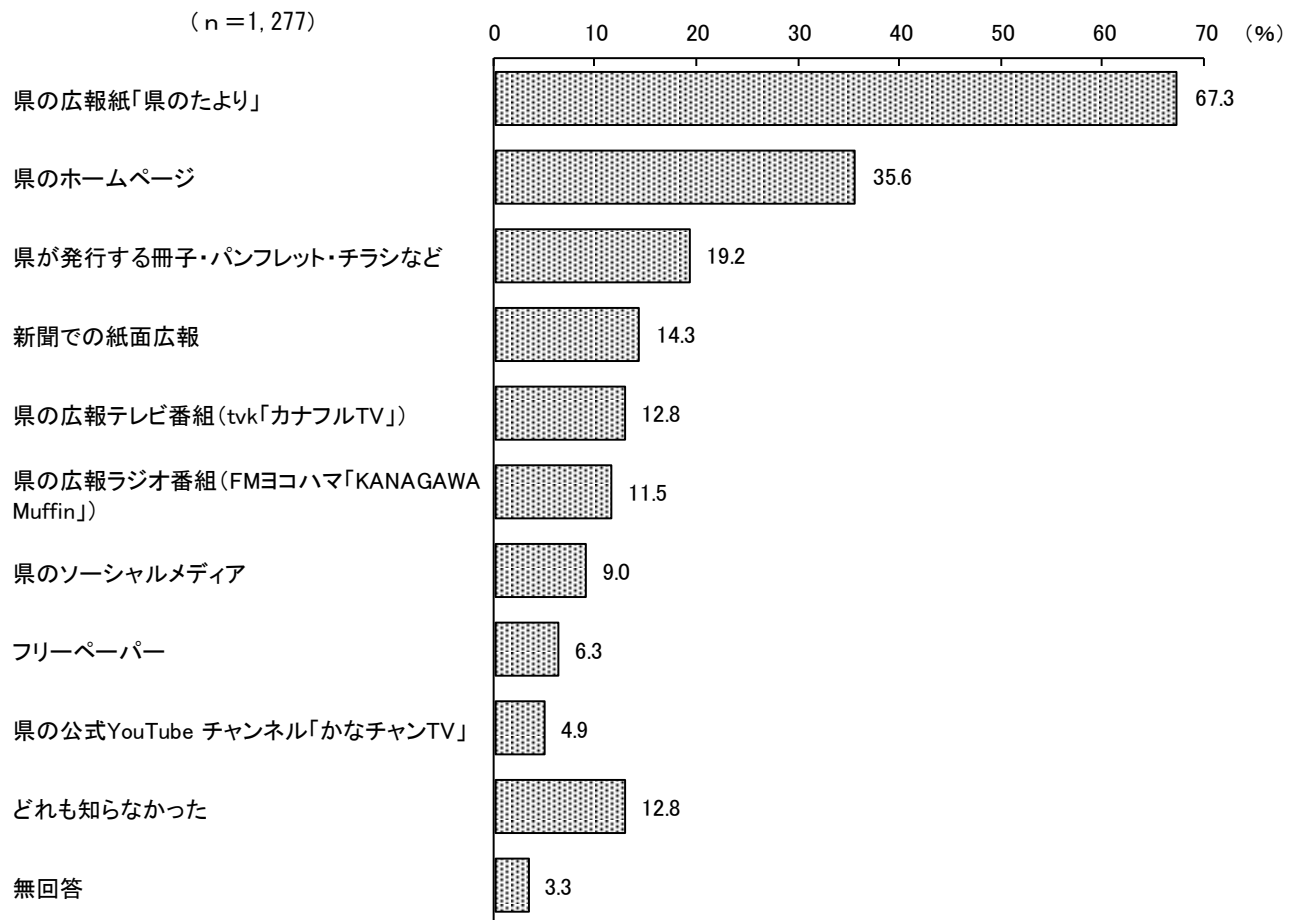
2 県の広報媒体の認知度【問18】

【全体の状況】

県が県政情報を伝えている広報媒体について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が67.3%で最も多く、次いで「県のホームページ」が35.6%であった。

(図表 6-2-1)

図表6-2-1 県の広報媒体の認知度（複数回答）



図表6-2-2 県の広報媒体の認知度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

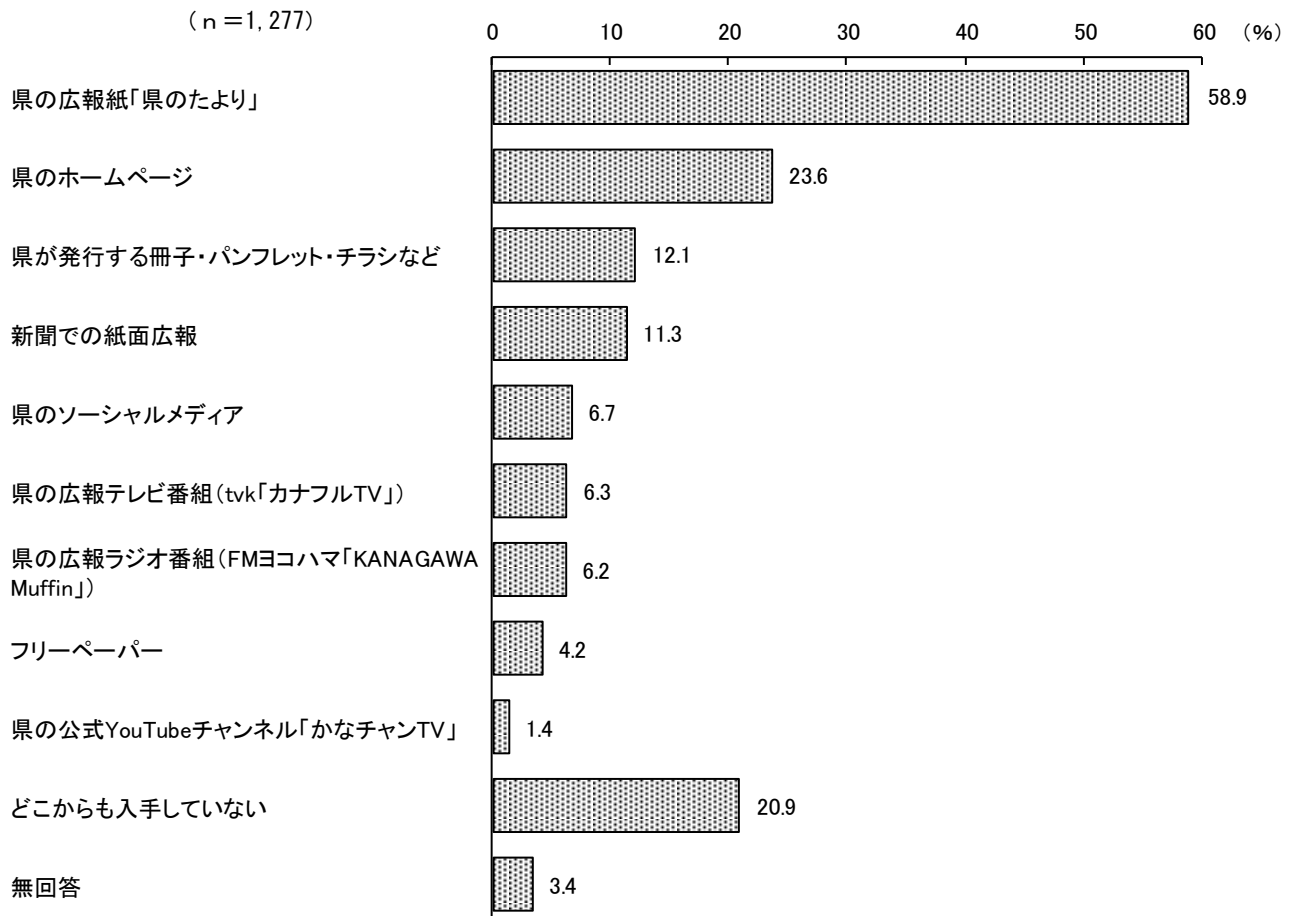
	n	県の広報紙「県のたより」	県のホームページ	県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	新聞での紙面広報	県の広報テレビ番組（tvk「カナフルTV」）	県の広報ラジオ番組（FMヨコハマ「KANAGAWA Muffin」）	県のソーシャルメディア	フリーペーパー	県の公式YouTubeチャンネル「かなちゃんTV」	どれも知らなかった	無回答
全体	1,277	67.3	35.6	19.2	14.3	12.8	11.5	9.0	6.3	4.9	12.8	3.3
【地域別】												
横浜	477	70.0	37.9	20.5	13.6	12.4	9.2	10.1	6.7	4.8	11.5	3.4
川崎	174	56.3	35.1	19.0	11.5	10.3	5.2	12.1	10.9	6.3	18.4	3.4
相模原	90	60.0	31.1	14.4	8.9	10.0	17.8	6.7	5.6	2.2	20.0	2.2
横須賀三浦	115	76.5	38.3	13.9	15.7	15.7	13.0	11.3	3.5	7.0	9.6	2.6
県央	135	71.9	30.4	20.7	20.0	11.9	21.5	5.9	5.9	5.2	9.6	1.5
湘南	219	66.2	37.0	19.6	15.1	17.8	11.4	6.4	4.1	4.6	11.0	4.6
県西	47	70.2	31.9	21.3	19.1	6.4	17.0	6.4	6.4	2.1	12.8	0.0
【性・年代別】												
男性	586	65.0	37.4	18.4	15.7	14.5	12.8	7.5	4.3	3.9	14.8	2.4
女性	658	69.5	34.7	20.2	13.4	11.4	10.5	10.3	8.2	5.8	10.6	3.8
男性18～29歳	27	29.6	33.3	11.1	11.1	7.4	11.1	7.4	11.1	3.7	33.3	0.0
30歳代	57	33.3	45.6	15.8	8.8	17.5	21.1	21.1	5.3	5.3	21.1	1.8
40歳代	106	59.4	48.1	17.9	4.7	13.2	15.1	11.3	8.5	2.8	17.0	2.8
50歳代	159	66.0	40.9	16.4	13.2	12.6	13.8	7.5	3.1	6.3	15.1	1.9
60歳代	111	75.7	36.9	20.7	18.0	15.3	8.1	1.8	3.6	1.8	11.7	2.7
70～74歳	55	80.0	25.5	21.8	32.7	14.5	10.9	0.0	1.8	3.6	9.1	1.8
75歳以上	51	88.2	21.6	25.5	37.3	27.5	7.8	3.9	0.0	3.9	7.8	0.0
女性18～29歳	43	32.6	46.5	25.6	16.3	16.3	20.9	20.9	14.0	7.0	11.6	4.7
30歳代	90	43.3	31.1	12.2	2.2	7.8	7.8	12.2	5.6	3.3	30.0	1.1
40歳代	148	67.6	37.8	20.9	7.4	7.4	8.8	12.8	11.5	6.8	11.5	1.4
50歳代	142	80.3	44.4	18.3	13.4	11.3	12.7	12.0	10.6	5.6	4.2	2.8
60歳代	112	82.1	37.5	26.8	19.6	12.5	8.9	5.4	5.4	2.7	4.5	4.5
70～74歳	54	85.2	11.1	13.0	18.5	16.7	11.1	5.6	3.7	5.6	7.4	3.7
75歳以上	49	75.5	18.4	24.5	26.5	16.3	10.2	4.1	0.0	8.2	12.2	12.2

3 県政情報の入手先【問19】

【全体の状況】

県政情報をどこから入手しているか複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が58.9%で最も多く、次いで「県のホームページ」が23.6%であった。(図表 6-3-1)

図表6-3-1 県政情報の入手先（複数回答）



図表6-3-2 県政情報の入手先（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	県の広報紙「県のたより」	県のホームページ	県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	新聞での紙面広報	県のソーシャルメディア	県の広報テレビ番組（tvk「カナフルTV」）	県の広報ラジオ番組（FMヨコハマ「KANAGAWA Muffin」）	フリーペーパー	県の公式YouTubeチャンネル「かなちゃんTV」	どこからも入手していない	無回答
全体	1,277	58.9	23.6	12.1	11.3	6.7	6.3	6.2	4.2	1.4	20.9	3.4
【地域別】												
横浜	477	62.3	23.1	13.0	10.9	7.8	5.7	4.6	3.4	1.3	19.7	3.4
川崎	174	46.0	26.4	12.6	5.7	9.2	4.6	1.1	8.0	1.7	27.0	3.4
相模原	90	50.0	21.1	8.9	12.2	4.4	6.7	11.1	3.3	0.0	26.7	2.2
横須賀三浦	115	70.4	27.8	10.4	9.6	7.8	7.0	6.1	5.2	2.6	15.7	2.6
県央	135	64.4	20.7	15.6	17.8	6.7	4.4	14.8	2.2	1.5	15.6	1.5
湘南	219	55.3	25.6	10.0	12.3	3.2	10.0	6.4	4.1	1.4	21.9	5.5
県西	47	61.7	17.0	14.9	17.0	4.3	6.4	6.4	2.1	0.0	23.4	0.0
【性・年代別】												
男性	586	57.0	25.1	13.1	12.5	6.0	8.5	8.4	3.4	1.7	22.5	2.4
女性	658	60.3	22.9	11.6	10.6	7.3	4.4	4.3	4.9	1.1	19.6	4.1
男性18～29歳	27	22.2	29.6	11.1	3.7	7.4	0.0	3.7	7.4	3.7	44.4	0.0
30歳代	57	26.3	28.1	10.5	5.3	15.8	7.0	14.0	3.5	0.0	31.6	1.8
40歳代	106	48.1	27.4	8.5	2.8	9.4	8.5	11.3	6.6	0.9	24.5	2.8
50歳代	159	56.0	26.4	11.9	8.2	5.7	8.2	8.2	3.8	1.9	25.8	1.9
60歳代	111	67.6	29.7	17.1	14.4	1.8	9.0	4.5	2.7	1.8	20.7	2.7
70～74歳	55	78.2	18.2	12.7	38.2	0.0	10.9	9.1	0.0	0.0	9.1	1.8
75歳以上	51	82.4	13.7	21.6	29.4	5.9	15.7	5.9	0.0	5.9	7.8	0.0
女性18～29歳	43	27.9	30.2	14.0	9.3	18.6	4.7	4.7	9.3	0.0	27.9	4.7
30歳代	90	36.7	20.0	4.4	2.2	7.8	0.0	1.1	2.2	0.0	47.8	1.1
40歳代	148	51.4	23.6	12.2	4.7	12.2	1.4	2.0	6.1	1.4	24.3	1.4
50歳代	142	67.6	32.4	7.0	9.2	5.6	2.8	4.9	7.0	1.4	14.1	3.5
60歳代	112	75.9	25.9	16.1	16.1	3.6	6.3	5.4	3.6	0.0	7.1	5.4
70～74歳	54	85.2	7.4	11.1	22.2	5.6	13.0	9.3	1.9	1.9	7.4	3.7
75歳以上	49	71.4	8.2	22.4	20.4	0.0	10.2	6.1	0.0	4.1	12.2	12.2

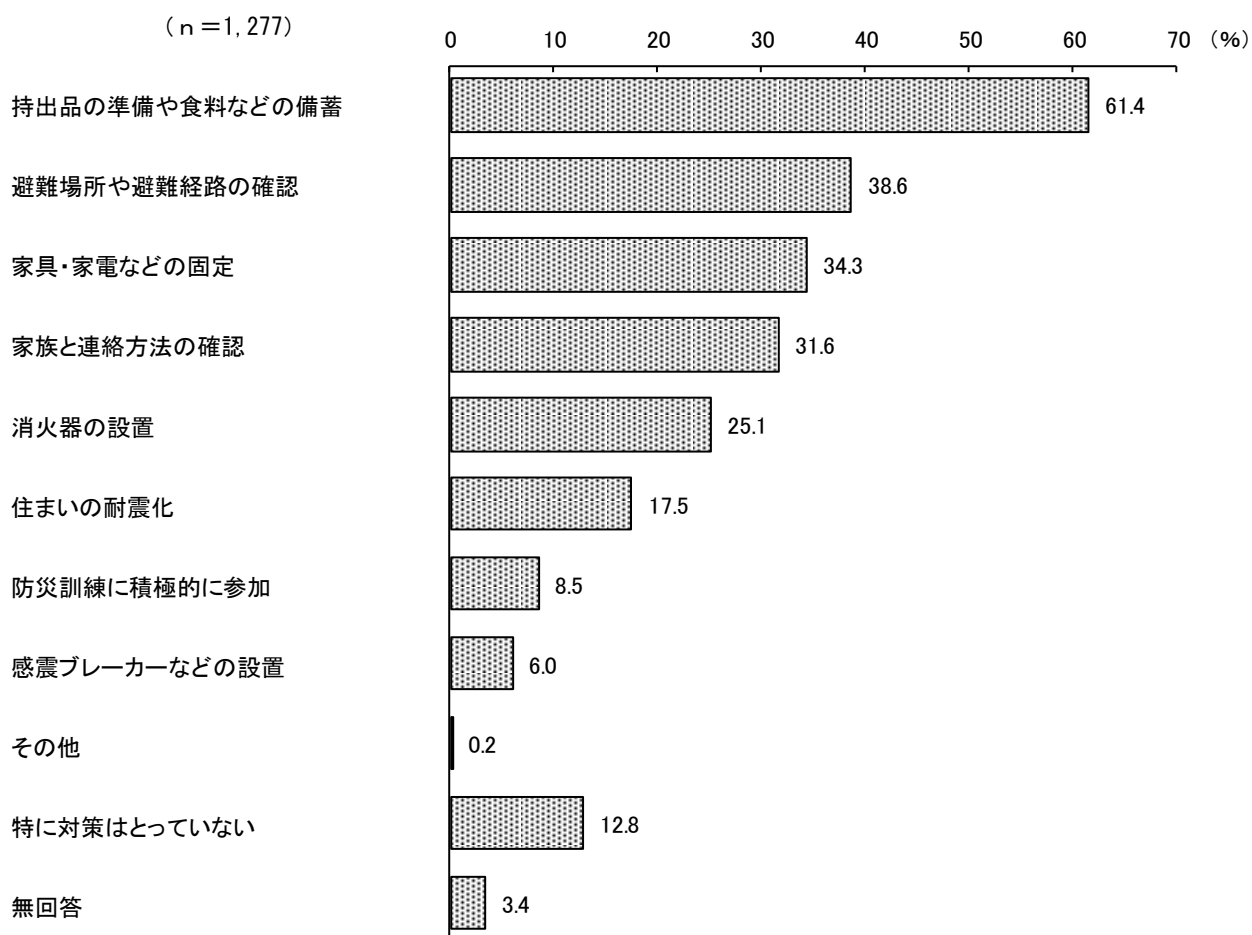
第7章 地震対策の取組み【問20～問22】

1 大きな地震に備えた対策【問20】

【全体の状況】

県では、首都直下地震や南海トラフ地震、県西部地震の発生の切迫性が指摘されるなど、大規模地震に対する備えが重要な課題になっていることを説明した上で、家では、大きな地震に備えて、どのような対策をとっているか複数回答で尋ねたところ、「持出品の準備や食料などの備蓄」が61.4%で最も多く、次いで「避難場所や避難経路の確認」が38.6%であった。(図表7-1-1)

図表7-1-1 大きな地震に備えた対策（複数回答）



図表7-1-2 大きな地震に備えた対策（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	持出品の準備や食料などの備蓄	避難場所や避難経路の確認	家具・家電などの固定	家族と連絡方法の確認	消火器の設置	住まいの耐震化	防災訓練に積極的に参加	感震ブレイカーなどの設置	その他	特に対策はとっていない	無回答
全体	1,277	61.4	38.6	34.3	31.6	25.1	17.5	8.5	6.0	0.2	12.8	3.4
【地域別】												
横浜	477	64.8	37.7	35.6	31.9	25.6	15.1	8.4	5.0	0.2	12.2	3.6
川崎	174	63.2	36.2	32.8	31.0	20.1	21.8	8.0	4.6	0.6	14.4	3.4
相模原	90	60.0	32.2	32.2	25.6	20.0	21.1	3.3	5.6	0.0	16.7	2.2
横須賀三浦	115	57.4	46.1	38.3	46.1	27.0	29.6	8.7	9.6	0.9	11.3	2.6
県央	135	56.3	32.6	29.6	33.3	22.2	14.8	8.9	5.2	0.0	16.3	1.5
湘南	219	58.9	43.4	32.9	28.3	27.9	13.2	10.5	7.8	0.0	10.5	4.6
県西	47	68.1	51.1	40.4	25.5	38.3	19.1	12.8	6.4	0.0	6.4	0.0
【性・年代別】												
男性	586	58.5	38.9	33.1	30.5	23.7	15.2	9.2	6.1	0.2	13.5	2.4
女性	658	65.2	39.1	35.7	33.3	26.4	19.0	8.1	5.8	0.3	11.4	4.0
男性18～29歳	27	59.3	33.3	33.3	40.7	14.8	22.2	11.1	3.7	0.0	14.8	0.0
30歳代	57	64.9	42.1	26.3	26.3	12.3	15.8	3.5	7.0	0.0	10.5	1.8
40歳代	106	67.0	42.5	31.1	29.2	21.7	19.8	7.5	3.8	0.9	13.2	2.8
50歳代	159	57.9	37.7	34.0	32.1	19.5	13.8	5.7	1.9	0.0	13.2	1.9
60歳代	111	60.4	41.4	33.3	29.7	32.4	14.4	8.1	8.1	0.0	10.8	2.7
70～74歳	55	50.9	29.1	34.5	29.1	25.5	12.7	14.5	9.1	0.0	20.0	1.8
75歳以上	51	49.0	47.1	39.2	31.4	41.2	13.7	27.5	19.6	0.0	13.7	0.0
女性18～29歳	43	67.4	46.5	25.6	39.5	7.0	14.0	7.0	2.3	2.3	14.0	2.3
30歳代	90	70.0	34.4	28.9	24.4	16.7	17.8	1.1	1.1	0.0	14.4	1.1
40歳代	148	71.6	41.9	38.5	38.5	23.6	25.7	9.5	4.7	0.0	10.1	1.4
50歳代	142	66.2	40.1	40.1	41.5	28.9	15.5	7.7	7.0	0.7	10.6	2.8
60歳代	112	61.6	34.8	35.7	23.2	33.0	15.2	7.1	8.0	0.0	12.5	6.3
70～74歳	54	64.8	40.7	40.7	29.6	35.2	25.9	13.0	9.3	0.0	9.3	3.7
75歳以上	49	44.9	49.0	28.6	32.7	32.7	18.4	16.3	10.2	0.0	12.2	12.2

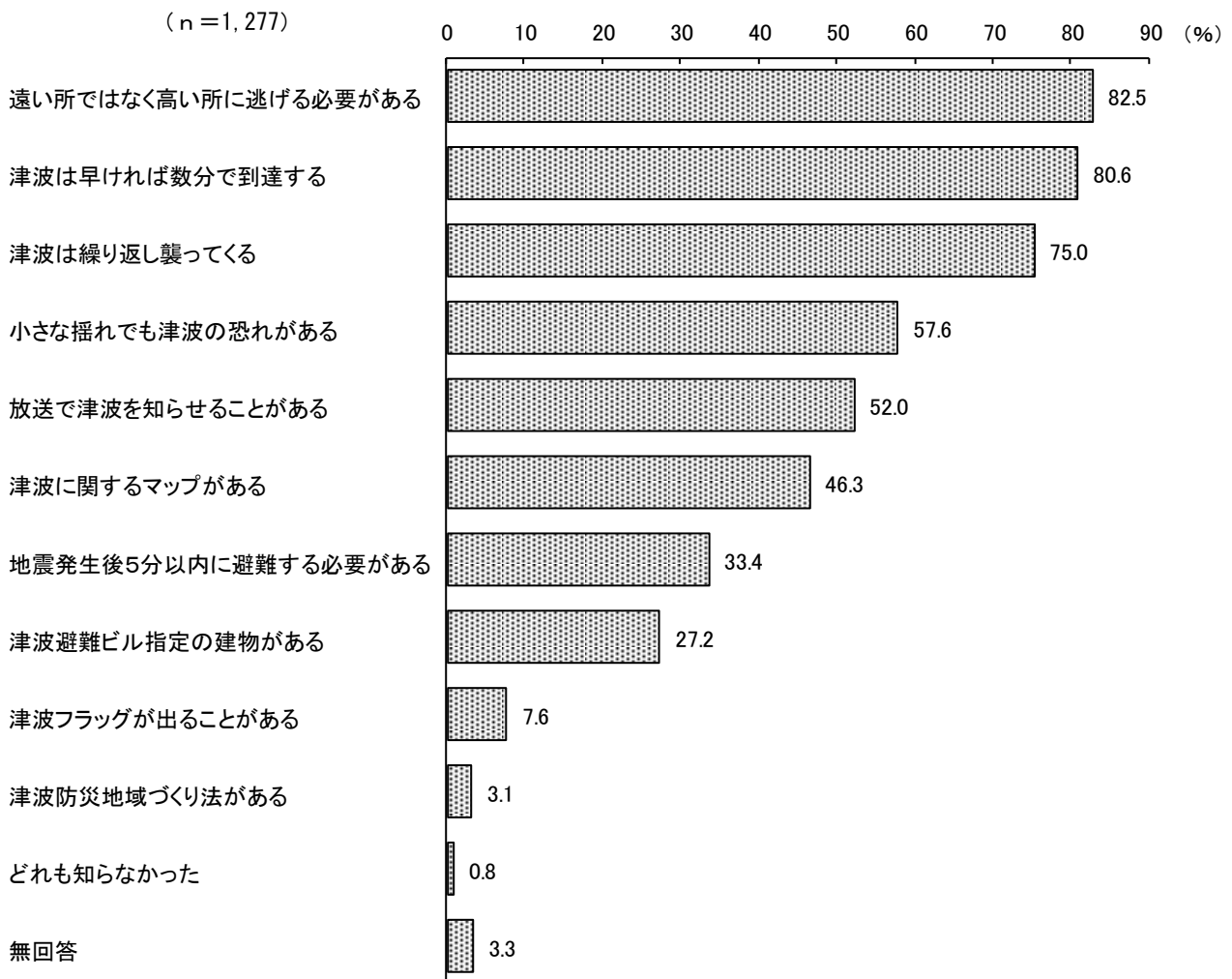
2 「津波」に対する知識や理解【問21】

【全体の状況】

津波に対する知識や理解について複数回答で尋ねたところ、「遠い所ではなく高い所に逃げる必要がある」が82.5%で最も多く、次いで「津波は早ければ数分で到達する」が80.6%であった。

(図表7-2-1)

図表7-2-1 津波に対する知識や理解（複数回答）



図表7-2-2 津波に対する知識や理解（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

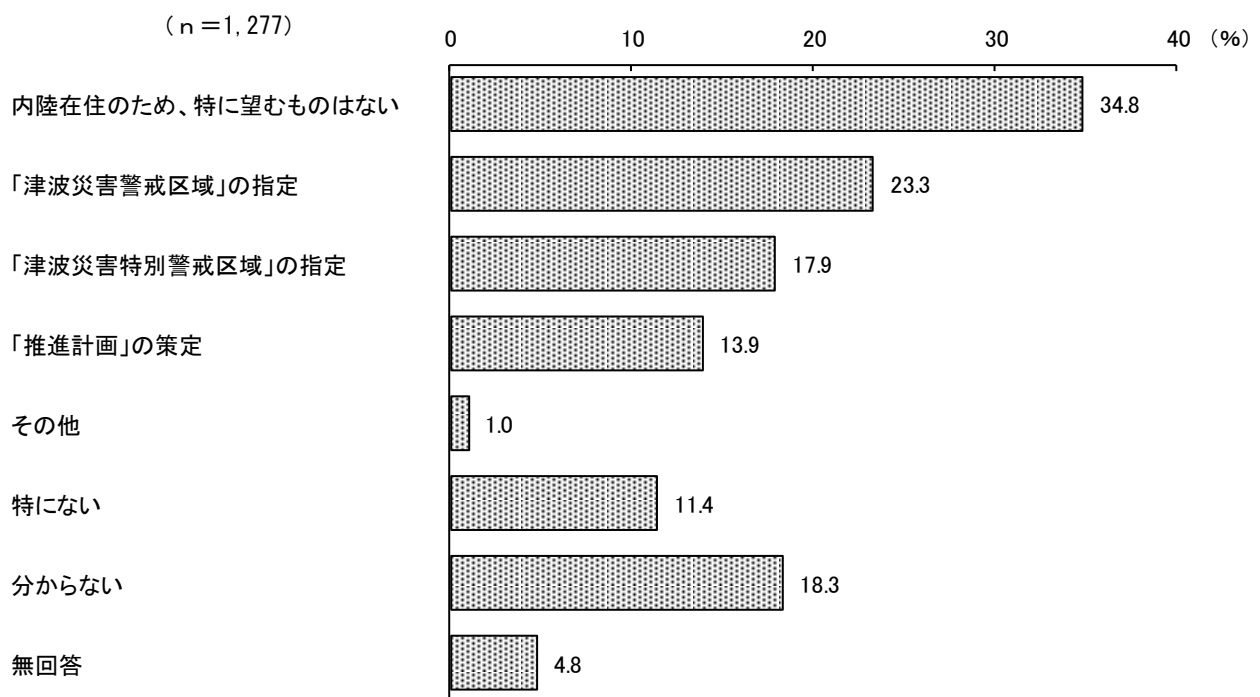
	n	が遠い所ではなく高い所に逃げる必要がある	津波は早ければ数分で到達する	津波は繰り返し襲ってくる	小さな揺れでも津波の恐れがある	放送で津波を知らせることがある	津波に関するマップがある	地震発生後5分以内に避難する必要がある	津波避難ビル指定の建物がある	津波フラッグが出ることがある	津波防災地域づくり法がある	どれも知らなかった	無回答
全体	1,277	82.5	80.6	75.0	57.6	52.0	46.3	33.4	27.2	7.6	3.1	0.8	3.3
【地域別】													
横浜	477	83.0	79.7	74.2	60.0	52.0	45.9	31.2	26.6	5.7	3.8	1.0	3.4
川崎	174	73.6	82.8	79.3	58.6	55.7	46.6	39.7	24.7	6.3	2.3	0.6	4.0
相模原	90	82.2	83.3	72.2	57.8	45.6	34.4	32.2	23.3	8.9	3.3	1.1	2.2
横須賀三浦	115	92.2	80.0	77.4	56.5	65.2	62.6	35.7	34.8	16.5	1.7	0.0	1.7
県央	135	83.7	85.9	72.6	60.0	44.4	32.6	37.8	15.6	3.7	0.0	0.7	1.5
湘南	219	83.6	76.7	76.3	52.1	51.6	53.4	31.1	37.0	11.9	4.1	0.9	4.6
県西	47	80.9	85.1	72.3	61.7	42.6	42.6	27.7	14.9	2.1	4.3	0.0	0.0
【性・年代別】													
男性	586	83.4	78.5	75.9	55.8	51.9	44.2	35.3	28.8	7.2	3.2	0.9	2.6
女性	658	82.1	83.0	74.5	60.0	52.6	48.9	32.1	25.4	8.4	2.7	0.6	3.6
男性18～29歳	27	77.8	77.8	66.7	74.1	59.3	55.6	44.4	44.4	11.1	7.4	0.0	0.0
30歳代	57	82.5	78.9	73.7	64.9	66.7	59.6	35.1	33.3	3.5	0.0	3.5	1.8
40歳代	106	82.1	82.1	70.8	67.0	55.7	60.4	44.3	33.0	10.4	2.8	0.0	2.8
50歳代	159	84.3	81.1	79.2	55.3	52.8	43.4	32.7	30.2	6.3	4.4	1.9	1.9
60歳代	111	86.5	76.6	84.7	55.0	52.3	38.7	41.4	27.9	9.0	4.5	0.0	2.7
70～74歳	55	80.0	80.0	74.5	45.5	36.4	27.3	23.6	16.4	7.3	1.8	0.0	3.6
75歳以上	51	86.3	72.5	70.6	31.4	43.1	25.5	31.4	21.6	3.9	0.0	0.0	0.0
女性18～29歳	43	69.8	88.4	74.4	65.1	62.8	67.4	37.2	30.2	9.3	7.0	0.0	2.3
30歳代	90	78.9	92.2	73.3	68.9	62.2	56.7	33.3	27.8	10.0	2.2	1.1	1.1
40歳代	148	83.8	87.2	77.7	64.9	56.8	60.8	30.4	31.8	8.1	2.0	0.7	1.4
50歳代	142	81.0	83.8	76.1	64.1	47.9	51.4	28.9	29.6	7.7	1.4	0.7	2.8
60歳代	112	87.5	75.9	70.5	52.7	44.6	34.8	27.7	13.4	7.1	1.8	0.9	5.4
70～74歳	54	85.2	83.3	83.3	59.3	57.4	35.2	42.6	20.4	13.0	1.9	0.0	3.7
75歳以上	49	79.6	65.3	63.3	32.7	42.9	24.5	34.7	18.4	4.1	6.1	0.0	10.2

3 津波に対して実施が望まれる制度【問22】

【全体の状況】

津波に対する防災・減災の観点から住んでいる地域で実施が望まれる制度を複数回答で尋ねたところ、「内陸在住のため、特に望むものはない」が34.8%で最も多く、次いで「『津波災害警戒区域』の指定」が23.3%であった。（図表7-3-1）

図表7-3-1 津波に対して実施が望まれる制度（複数回答）



図表7-3-2 津波に対して実施が望まれる制度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)									
	n	ない 内陸在住のため、 特に望むものは	「津波災害警戒区域」 の指定	「津波災害特別警戒区域」 の指定	「推進計画」の策定	その他	特 に ない	分 か ら ない	無 回 答
全 体	1,277	34.8	23.3	17.9	13.9	1.0	11.4	18.3	4.8
【地 域 別】									
横 浜	477	34.4	24.1	18.4	13.6	1.3	10.5	19.1	4.6
川 崎	174	36.8	24.1	16.1	13.8	0.0	12.1	17.2	4.6
相 模 原	90	58.9	7.8	4.4	3.3	0.0	17.8	12.2	2.2
横 須 賀 三 浦	115	17.4	35.7	27.0	21.7	1.7	10.4	23.5	1.7
県 央	135	54.8	5.9	5.9	7.4	0.7	14.8	12.6	5.9
湘 南	219	26.0	31.5	26.9	19.6	1.4	7.8	17.4	5.5
県 西	47	17.0	27.7	19.1	10.6	0.0	14.9	27.7	6.4
【性・年代別】									
男 性	586	37.4	23.5	17.1	15.0	0.7	13.3	14.0	3.6
女 性	658	33.3	23.3	18.8	13.1	1.2	9.6	21.4	5.5
男性18～29歳	27	37.0	33.3	25.9	3.7	0.0	11.1	11.1	0.0
30歳代	57	33.3	28.1	31.6	24.6	1.8	8.8	10.5	3.5
40歳代	106	36.8	24.5	18.9	12.3	0.9	11.3	17.0	2.8
50歳代	159	39.6	22.6	18.2	20.1	0.0	13.8	14.5	1.9
60歳代	111	33.3	26.1	11.7	15.3	0.0	15.3	12.6	3.6
70～74歳	55	36.4	23.6	16.4	9.1	1.8	10.9	14.5	5.5
75歳以上	51	41.2	15.7	7.8	11.8	2.0	19.6	13.7	5.9
女性18～29歳	43	23.3	30.2	18.6	27.9	2.3	0.0	25.6	2.3
30歳代	90	33.3	25.6	20.0	8.9	0.0	6.7	30.0	2.2
40歳代	148	33.8	27.0	20.3	14.9	1.4	10.8	20.9	1.4
50歳代	142	27.5	23.9	16.2	12.7	1.4	12.7	24.6	4.2
60歳代	112	42.0	20.5	20.5	9.8	0.0	8.9	15.2	7.1
70～74歳	54	38.9	16.7	18.5	9.3	3.7	16.7	16.7	5.6
75歳以上	49	34.7	16.3	14.3	16.3	2.0	8.2	10.2	22.4

第8章 消防団【問23～問25】

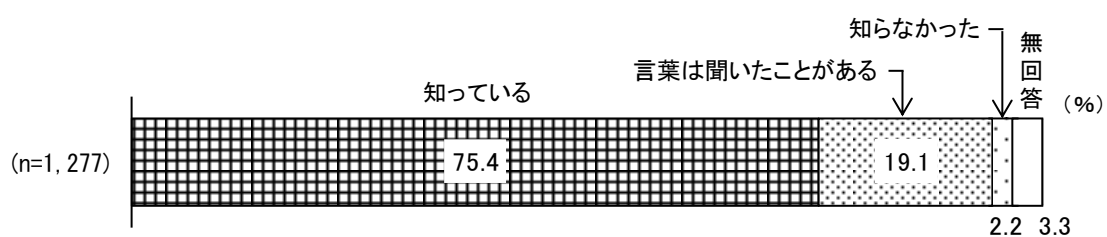
1 消防団の認知度【問23】

【全体の状況】

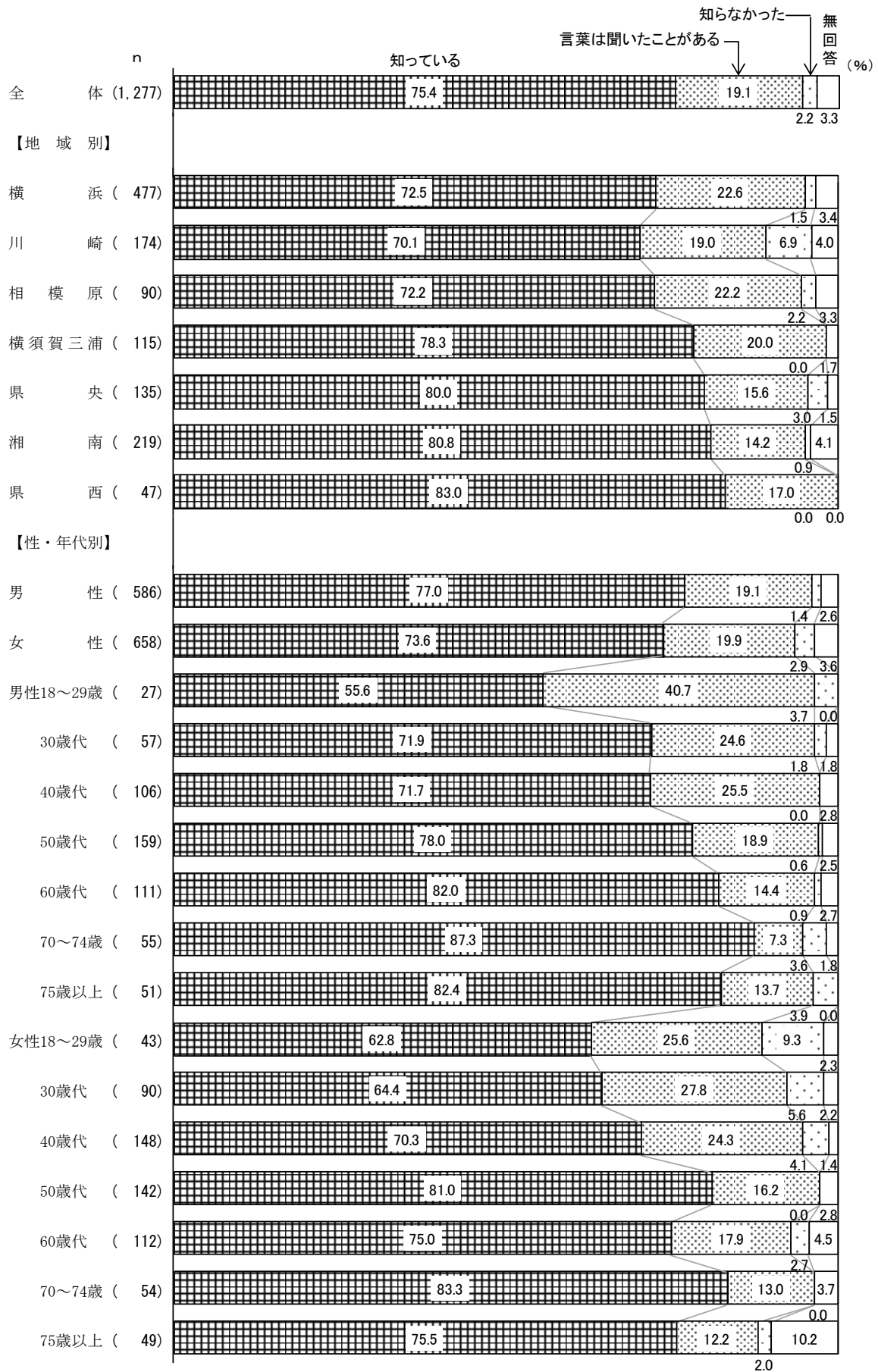
消防団を知っているか尋ねたところ、「知っている」が75.4%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が19.1%であった。

一方、「知らなかった」が2.2%であった。(図表8-1-1)

図表8-1-1 消防団の認知度



図表8-1-2 消防団の認知度—地域別、性・年代別

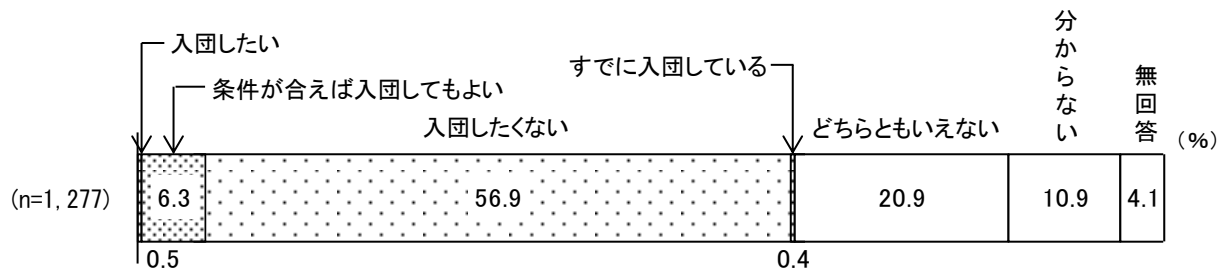


2 消防団への入団意向【問24】

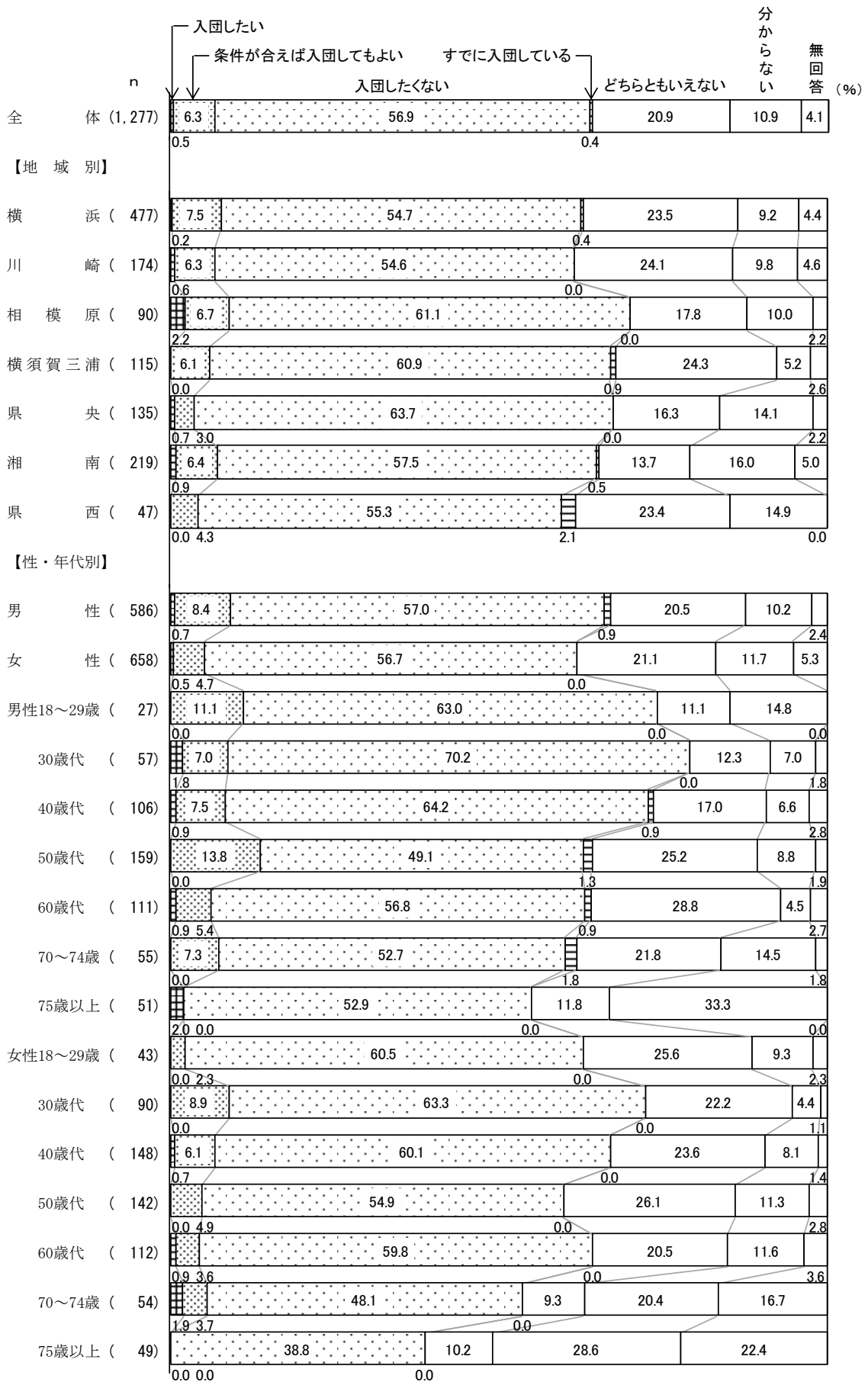
【全体の状況】

消防団に入団したいと思うか尋ねたところ、「入団したくない」が56.9%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が20.9%であった。(図表8-2-1)

図表8-2-1 消防団への入団意向



図表8-2-2 消防団への入団意向－地域別、性・年代別

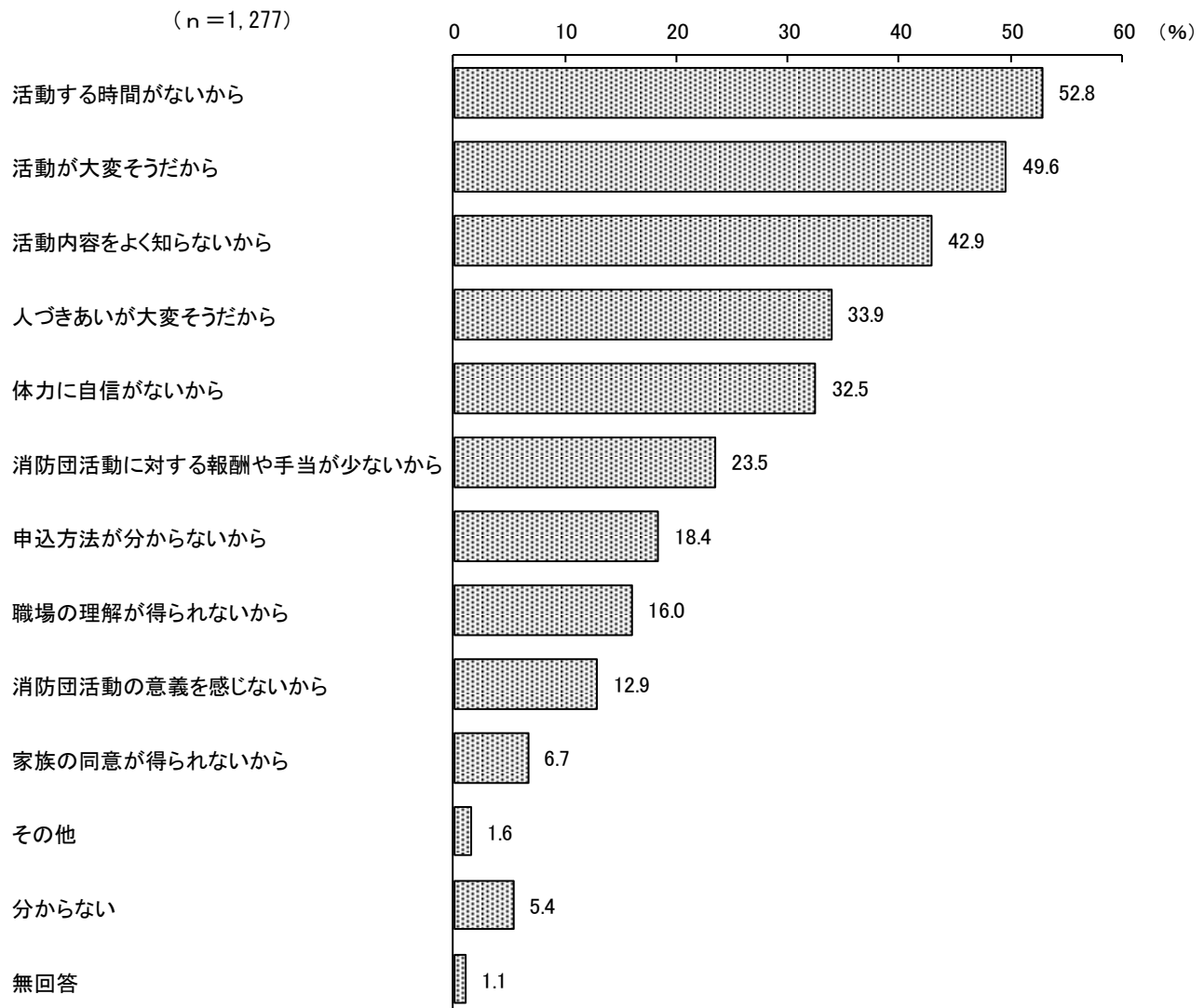


3 消防団に入団する人が少ない理由【問25】

【全体の状況】

消防団に入団する人が少ない理由について複数回答で尋ねたところ、「活動する時間がないから」が52.8%で最も多く、次いで「活動が大変そうだから」が49.6%であった。(図表 8-3-1)

図表8-3-1 消防団に入団する人が少ない理由（複数回答）



図表8-3-2 消防団に入団する人が少ない理由（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	活動する時間がないから	活動が大変そうだから	活動内容をよく知らないから	人づきあいが大変そうだから	体力に自信がないから	消防団活動に対する報酬や手当が少ないから	申込方法が分からないから	職場の理解が得られないから	消防団活動の意義を感じないから	家族の同意が得られないから	その他	分からない	無回答
全 体	1,277	52.8	49.6	42.9	33.9	32.5	23.5	18.4	16.0	12.9	6.7	1.6	5.4	1.1
【地 域 別】														
横 浜	477	52.6	52.4	45.5	35.2	32.3	26.0	19.3	15.3	13.8	6.3	1.3	4.2	1.5
川 崎	174	52.3	47.7	49.4	35.1	33.9	28.2	20.1	16.7	12.6	7.5	1.7	5.7	1.1
相 模 原	90	57.8	56.7	43.3	26.7	28.9	25.6	22.2	15.6	15.6	5.6	1.1	5.6	0.0
横 須 賀 三 浦	115	60.9	45.2	47.0	35.7	32.2	14.8	17.4	15.7	12.2	9.6	2.6	1.7	1.7
県 央	135	51.9	50.4	40.7	37.0	36.3	21.5	20.0	19.3	11.1	7.4	0.0	5.9	0.7
湘 南	219	47.0	45.7	35.6	34.2	29.7	19.6	15.5	15.1	13.7	6.4	2.3	8.7	0.9
県 西	47	68.1	48.9	25.5	19.1	36.2	23.4	12.8	17.0	8.5	6.4	4.3	0.0	0.0
【性・年代別】														
男 性	586	55.1	46.9	38.4	33.6	31.4	22.9	17.1	15.5	16.9	7.3	1.5	5.8	0.7
女 性	658	51.7	52.6	47.6	34.2	33.6	24.2	20.2	16.7	9.9	6.2	1.7	4.4	1.5
男性18～29歳	27	55.6	51.9	51.9	22.2	22.2	51.9	14.8	7.4	11.1	3.7	0.0	0.0	0.0
30歳代	57	57.9	59.6	43.9	45.6	38.6	26.3	15.8	21.1	21.1	12.3	1.8	1.8	0.0
40歳代	106	56.6	50.0	39.6	50.0	17.9	19.8	20.8	17.0	16.0	12.3	0.9	2.8	0.0
50歳代	159	60.4	50.9	40.3	42.1	29.6	26.4	20.8	15.1	18.9	6.9	0.6	5.7	0.0
60歳代	111	56.8	36.0	35.1	24.3	35.1	20.7	12.6	18.9	12.6	4.5	2.7	9.0	0.0
70～74歳	55	34.5	38.2	40.0	12.7	49.1	16.4	10.9	10.9	18.2	1.8	1.8	7.3	3.6
75歳以上	51	51.0	45.1	27.5	7.8	33.3	15.7	9.8	9.8	17.6	7.8	2.0	7.8	3.9
女性18～29歳	43	55.8	86.0	67.4	34.9	44.2	51.2	25.6	20.9	4.7	7.0	2.3	0.0	0.0
30歳代	90	53.3	60.0	47.8	53.3	34.4	38.9	22.2	16.7	12.2	4.4	0.0	0.0	0.0
40歳代	148	55.4	53.4	54.1	41.2	34.5	27.0	19.6	16.2	12.2	6.1	2.7	0.7	0.0
50歳代	142	51.4	57.7	47.9	41.5	33.1	20.4	25.4	19.0	8.5	6.3	0.0	5.6	1.4
60歳代	112	57.1	44.6	44.6	26.8	27.7	17.0	18.8	14.3	8.0	7.1	2.7	2.7	0.0
70～74歳	54	46.3	50.0	35.2	13.0	27.8	9.3	14.8	14.8	9.3	7.4	1.9	16.7	1.9
75歳以上	49	32.7	20.4	32.7	2.0	38.8	12.2	6.1	12.2	10.2	6.1	4.1	12.2	14.3

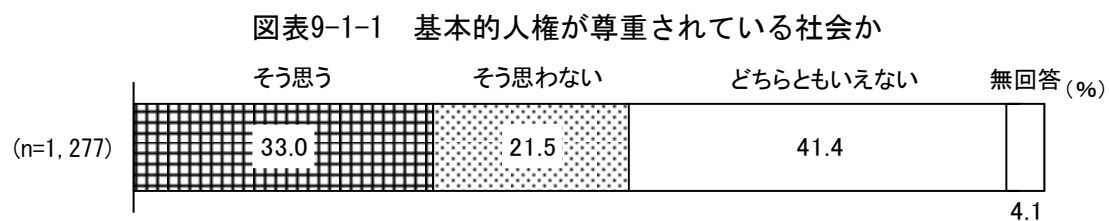
第9章 かながわの人権【問26～問28】

1 基本的人権が尊重されている社会か【問26】

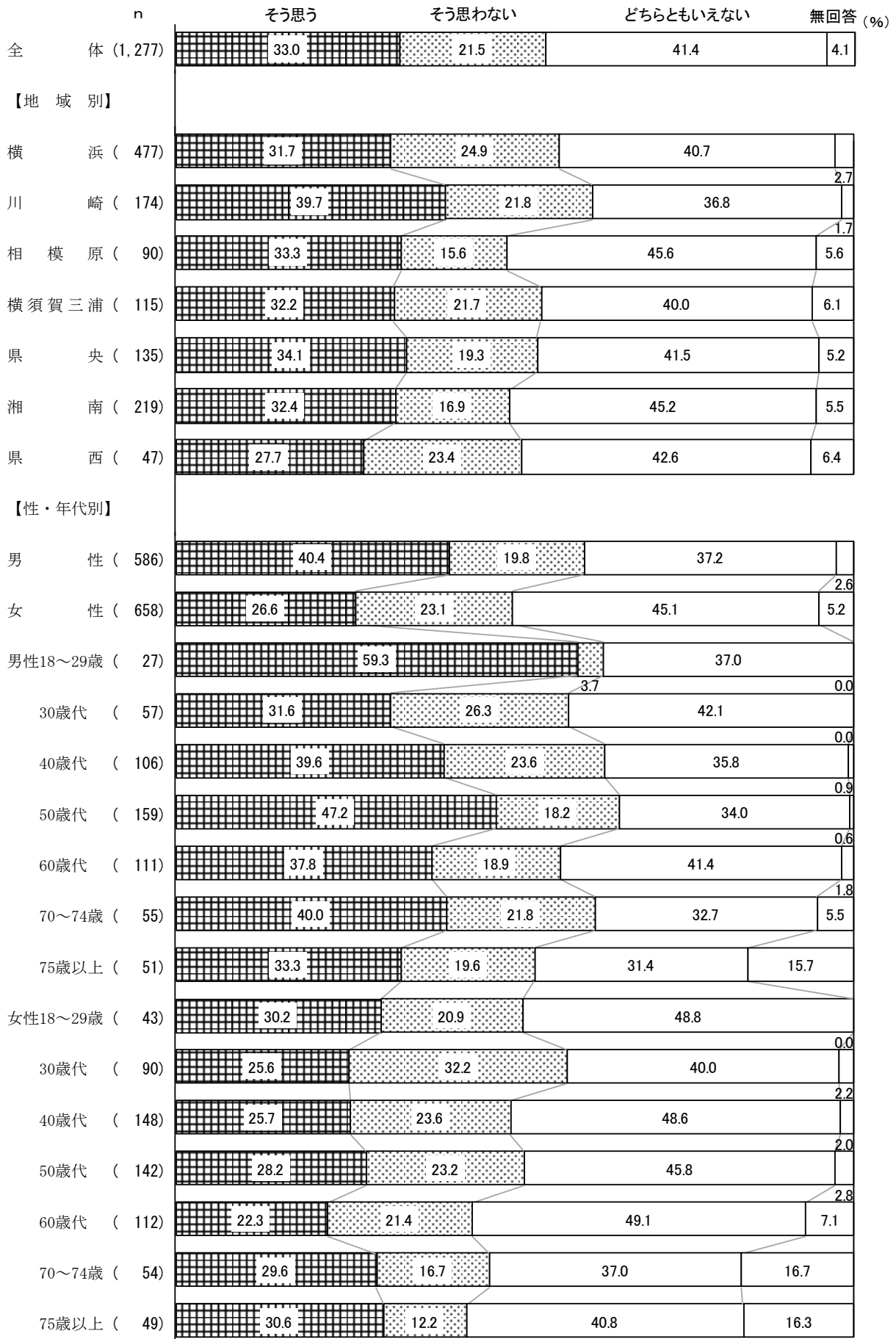
【全体の状況】

今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思うか尋ねたところ、「そう思う」が33.0%であった。

一方、「そう思わない」が21.5%であった。(図表9-1-1)



図表9-1-2 基本的人権が尊重されている社会か—地域別、性・年代別



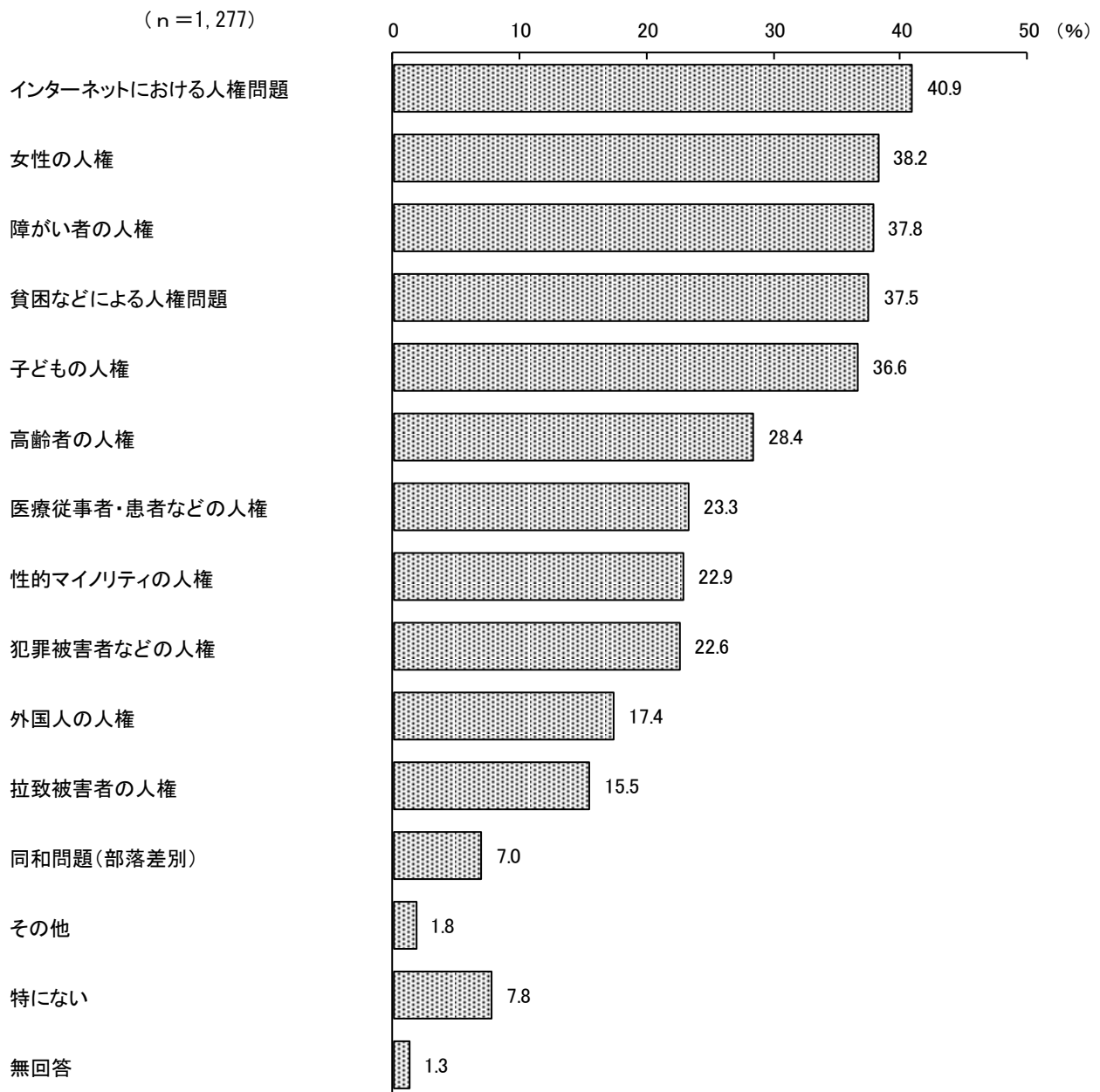
2 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題【問27】

【全体の状況】

普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題を複数回答で尋ねたところ、「インターネットにおける人権問題」が40.9%で最も多く、次いで「女性の人権」が38.2%であった。

(図表9-2-1)

図表9-2-1 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（複数回答）



図表9-2-2 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

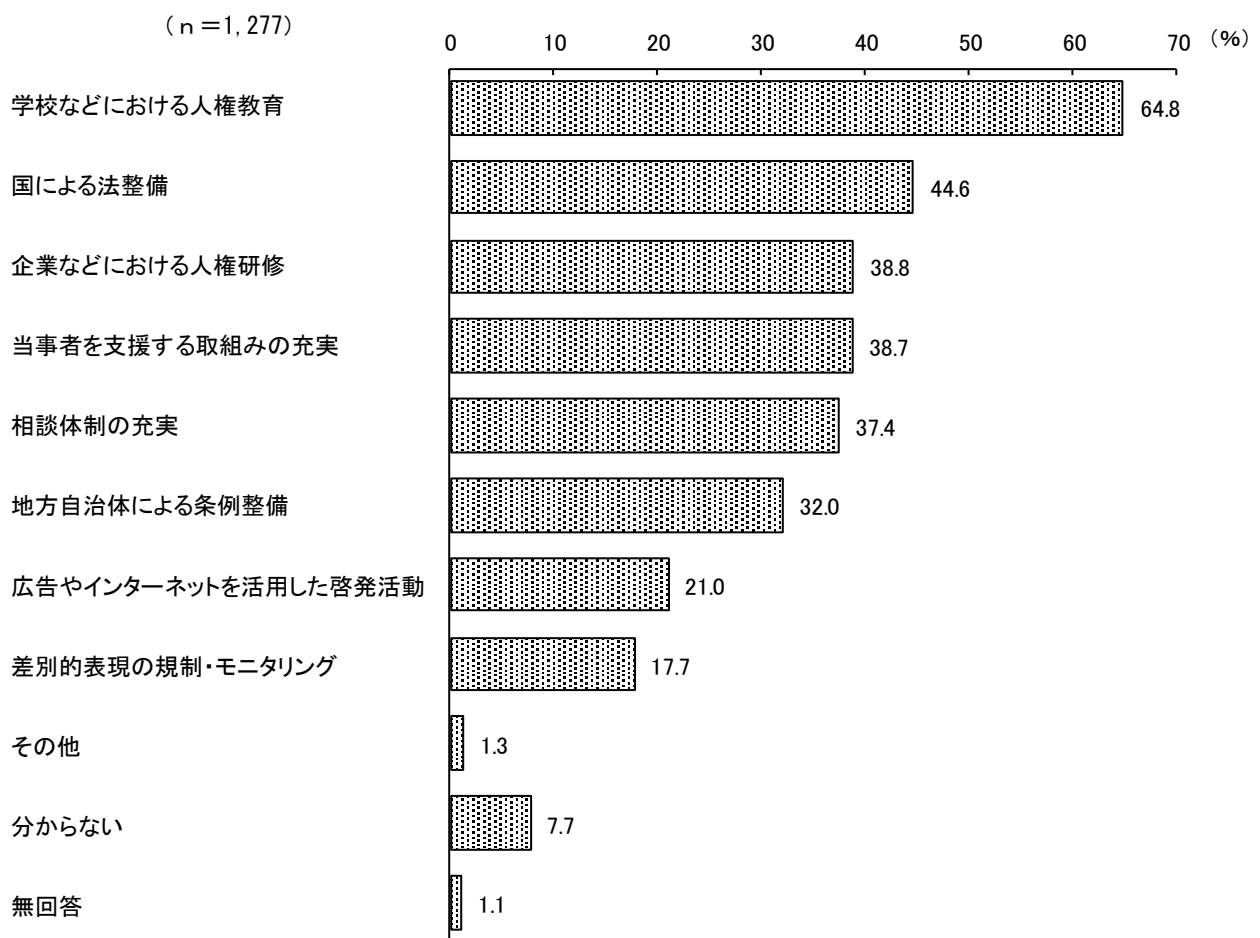
	n	インターネットにおける人権問題	女性の人権	障がい者の人権	貧困などによる人権問題	子どもの人権	高齢者の人権	医療従事者・患者などの人権	性的マイノリティの人権	犯罪被害者などの人権	外国人の人権	拉致被害者の人権	同和問題（部落差別）	その他	特にない	無回答
全 体	1,277	40.9	38.2	37.8	37.5	36.6	28.4	23.3	22.9	22.6	17.4	15.5	7.0	1.8	7.8	1.3
【地 域 別】																
横 浜	477	45.1	39.2	35.6	41.1	34.8	26.4	24.5	24.1	21.0	18.2	14.7	7.5	2.7	7.5	0.4
川 崎	174	42.5	44.3	38.5	35.1	43.1	31.0	22.4	22.4	24.7	21.3	17.8	6.9	0.0	6.9	1.1
相 模 原	90	50.0	35.6	33.3	31.1	37.8	30.0	21.1	20.0	21.1	16.7	12.2	13.3	1.1	11.1	0.0
横 須 賀 三 浦	115	40.9	35.7	39.1	35.7	38.3	27.0	24.3	27.0	26.1	19.1	14.8	6.1	2.6	2.6	1.7
県 央	135	32.6	31.9	45.2	41.5	24.4	33.3	23.7	17.8	23.0	14.1	20.7	3.7	0.7	7.4	1.5
湘 南	219	34.2	36.1	39.7	35.2	41.1	26.9	21.0	21.5	23.3	17.4	13.7	5.9	1.4	10.0	2.7
県 西	47	34.0	42.6	38.3	31.9	34.0	34.0	27.7	25.5	19.1	6.4	17.0	6.4	0.0	10.6	2.1
【性・年代別】																
男 性	586	40.1	31.6	38.6	35.7	32.4	29.9	22.2	18.9	22.0	19.3	13.7	6.5	2.6	8.9	1.0
女 性	658	42.6	44.1	37.4	39.4	39.7	27.2	24.9	26.1	22.8	16.3	17.2	7.6	1.1	6.4	1.5
男性18～29歳	27	33.3	25.9	29.6	22.2	22.2	11.1	22.2	18.5	18.5	14.8	7.4	0.0	7.4	18.5	0.0
30歳代	57	40.4	31.6	24.6	26.3	45.6	7.0	24.6	28.1	15.8	22.8	5.3	5.3	3.5	7.0	0.0
40歳代	106	47.2	33.0	38.7	34.0	30.2	17.0	18.9	19.8	15.1	21.7	5.7	6.6	2.8	8.5	0.9
50歳代	159	44.0	27.0	38.4	34.0	29.6	27.0	22.0	20.8	25.2	21.4	13.8	5.7	3.8	10.1	0.6
60歳代	111	39.6	33.3	41.4	42.3	34.2	36.9	19.8	17.1	27.0	18.9	17.1	8.1	0.9	9.0	0.0
70～74歳	55	38.2	36.4	45.5	43.6	36.4	43.6	25.5	12.7	25.5	9.1	20.0	3.6	0.0	5.5	3.6
75歳以上	51	27.5	43.1	49.0	39.2	35.3	60.8	31.4	13.7	25.5	23.5	25.5	11.8	2.0	3.9	3.9
女性18～29歳	43	67.4	55.8	37.2	53.5	30.2	11.6	27.9	51.2	18.6	23.3	9.3	9.3	0.0	2.3	0.0
30歳代	90	44.4	58.9	36.7	38.9	54.4	18.9	35.6	44.4	14.4	24.4	7.8	7.8	1.1	5.6	0.0
40歳代	148	40.5	47.3	37.2	30.4	40.5	19.6	21.6	31.1	20.3	15.5	8.1	3.4	0.7	7.4	0.7
50歳代	142	50.0	45.1	36.6	43.0	42.3	26.1	21.8	25.4	26.1	17.6	19.0	9.2	2.1	9.9	0.7
60歳代	112	42.0	34.8	37.5	44.6	40.2	39.3	24.1	11.6	26.8	12.5	25.9	9.8	0.9	5.4	1.8
70～74歳	54	29.6	38.9	37.0	40.7	35.2	33.3	27.8	14.8	22.2	11.1	22.2	5.6	0.0	3.7	7.4
75歳以上	49	22.4	24.5	44.9	30.6	22.4	49.0	24.5	6.1	30.6	10.2	36.7	10.2	0.0	4.1	4.1

3 人権課題を解消するために力を入れるべき取組み【問28】

【全体の状況】

人権課題を解消するために、力を入れて取り組む必要があると思うことを複数回答で尋ねたところ、「学校などにおける人権教育」が64.8%で最も多く、次いで「国による法整備」が44.6%であった。（図表9-3-1）

図表9-3-1 人権課題を解消するために力を入れるべき取組み（複数回答）



図表9-3-2 人権課題を解消するために力を入れるべき取組み（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	学校などにおける人権教育	国による法整備	企業などにおける人権研修	当事者を支援する取組みの充実	相談体制の充実	地方自治体による条例整備	広告やインターネットを活用した啓発活動	差別的表現の規制・モニタリング	その他	分からない	無回答
全体	1,277	64.8	44.6	38.8	38.7	37.4	32.0	21.0	17.7	1.3	7.7	1.1
【地域別】												
横浜	477	63.9	47.6	40.5	40.9	38.2	33.8	21.2	18.2	1.7	6.1	1.0
川崎	174	70.1	51.1	42.5	39.7	43.1	36.8	25.9	21.3	1.1	6.3	0.6
相模原	90	68.9	40.0	41.1	38.9	40.0	28.9	24.4	22.2	0.0	12.2	0.0
横須賀三浦	115	68.7	33.9	40.0	37.4	33.0	31.3	24.3	14.8	2.6	8.7	1.7
県央	135	55.6	46.7	35.6	38.5	39.3	32.6	17.8	17.0	0.7	8.9	0.7
湘南	219	67.1	39.7	34.2	36.5	33.3	27.4	17.8	14.6	0.5	8.7	1.8
県西	47	61.7	40.4	36.2	34.0	34.0	27.7	12.8	14.9	0.0	8.5	0.0
【性・年代別】												
男性	586	65.0	46.9	36.9	34.5	32.4	33.3	21.8	17.4	1.5	6.7	0.9
女性	658	65.2	42.9	40.9	43.0	42.1	31.5	20.4	18.2	0.9	7.9	1.2
男性18～29歳	27	51.9	29.6	37.0	33.3	14.8	14.8	25.9	11.1	0.0	14.8	0.0
30歳代	57	64.9	54.4	38.6	26.3	17.5	31.6	21.1	14.0	3.5	3.5	0.0
40歳代	106	72.6	50.9	33.0	31.1	27.4	36.8	23.6	18.9	0.9	5.7	0.9
50歳代	159	66.0	43.4	39.0	34.0	37.1	35.8	22.0	16.4	2.5	7.5	0.6
60歳代	111	63.1	45.9	32.4	39.6	37.8	32.4	20.7	24.3	0.9	6.3	0.0
70～74歳	55	63.6	54.5	41.8	41.8	43.6	32.7	18.2	14.5	0.0	3.6	1.8
75歳以上	51	64.7	49.0	37.3	39.2	37.3	35.3	21.6	15.7	2.0	2.0	3.9
女性18～29歳	43	79.1	58.1	41.9	44.2	32.6	46.5	18.6	23.3	2.3	2.3	0.0
30歳代	90	70.0	53.3	37.8	42.2	37.8	36.7	27.8	21.1	1.1	6.7	0.0
40歳代	148	64.9	45.9	39.2	44.6	44.6	31.1	22.3	14.2	1.4	10.8	0.7
50歳代	142	68.3	41.5	46.5	42.3	42.3	33.8	23.2	15.5	0.7	7.7	1.4
60歳代	112	60.7	34.8	42.0	49.1	49.1	24.1	15.2	21.4	0.0	5.4	2.7
70～74歳	54	66.7	35.2	38.9	42.6	38.9	24.1	22.2	18.5	1.9	3.7	3.7
75歳以上	49	44.9	36.7	32.7	28.6	38.8	24.5	12.2	14.3	0.0	14.3	0.0

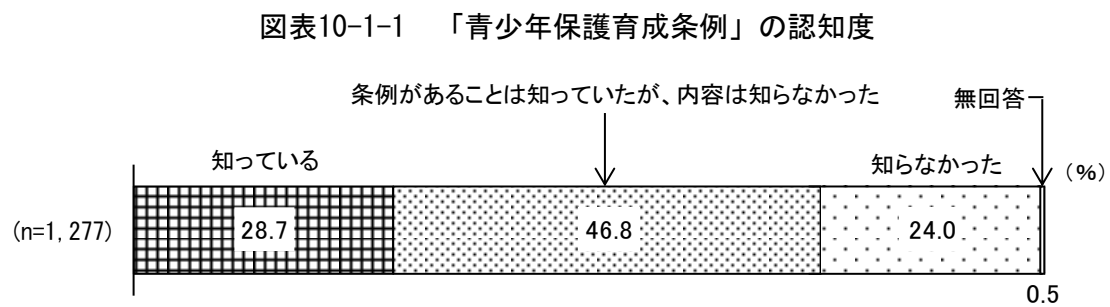
第10章 青少年を保護する条例【問29～問30】

1 「青少年保護育成条例」の認知度【問29】

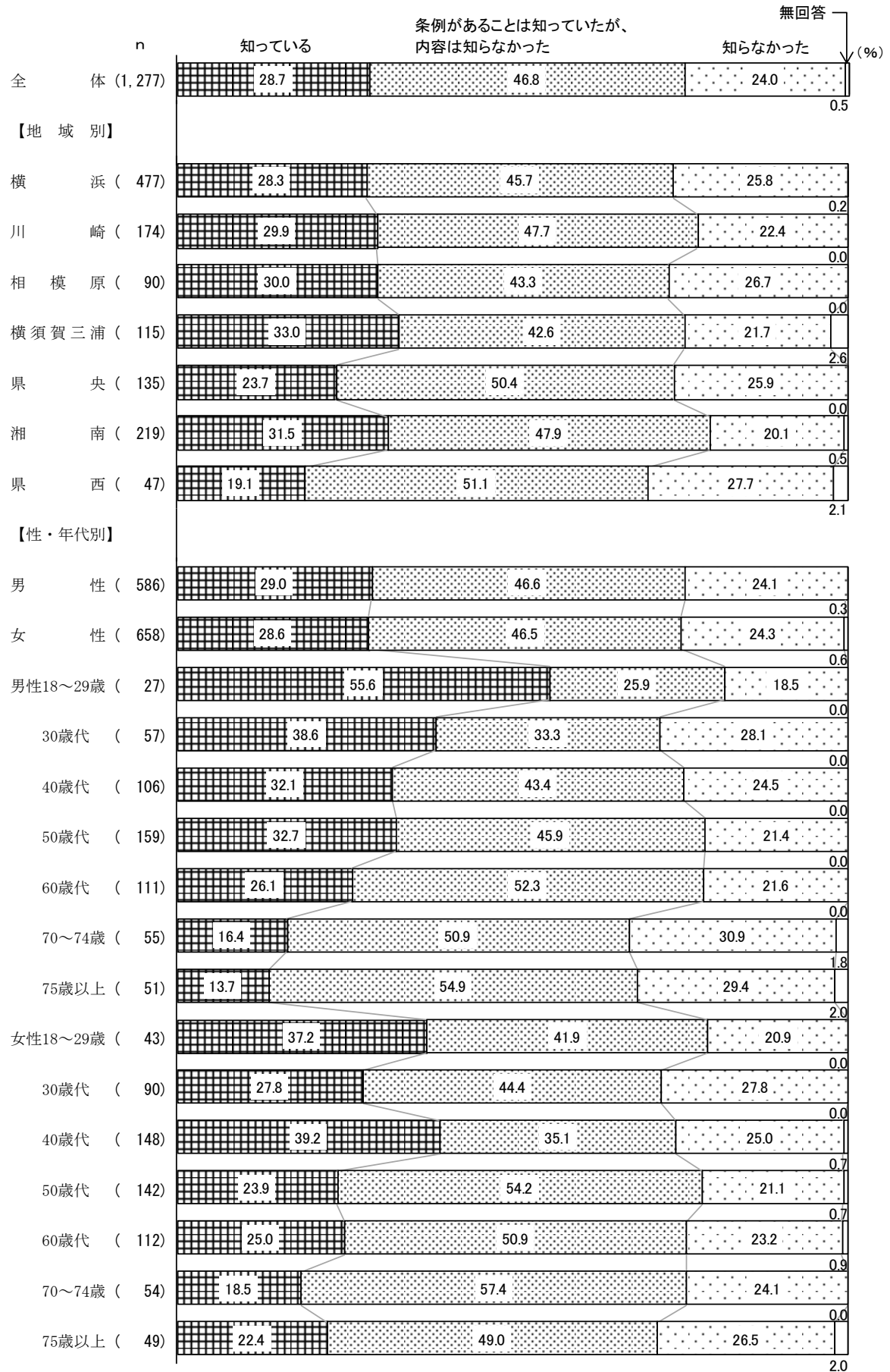
【全体の状況】

「青少年保護育成条例」の内容を知っているか尋ねたところ、「知っている」が28.7%であった。また、「条例があることは知っていたが、内容は知らなかった」が46.8%であった。

一方、「知らなかった」が24.0%であった。(図表10-1-1)



図表10-1-2 「青少年保護育成条例」の認知度—地域別、性・年代別



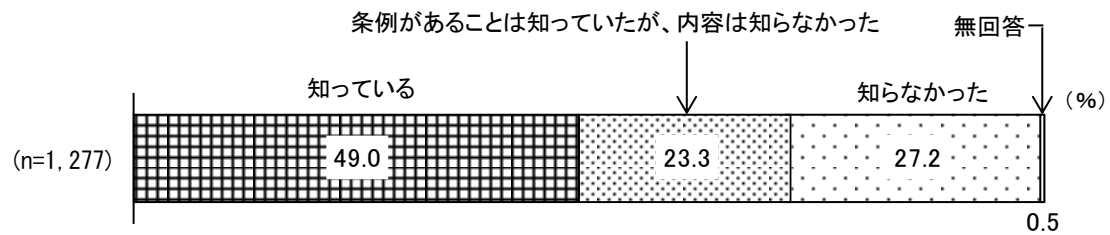
2 「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度【問30】

【全体の状況】

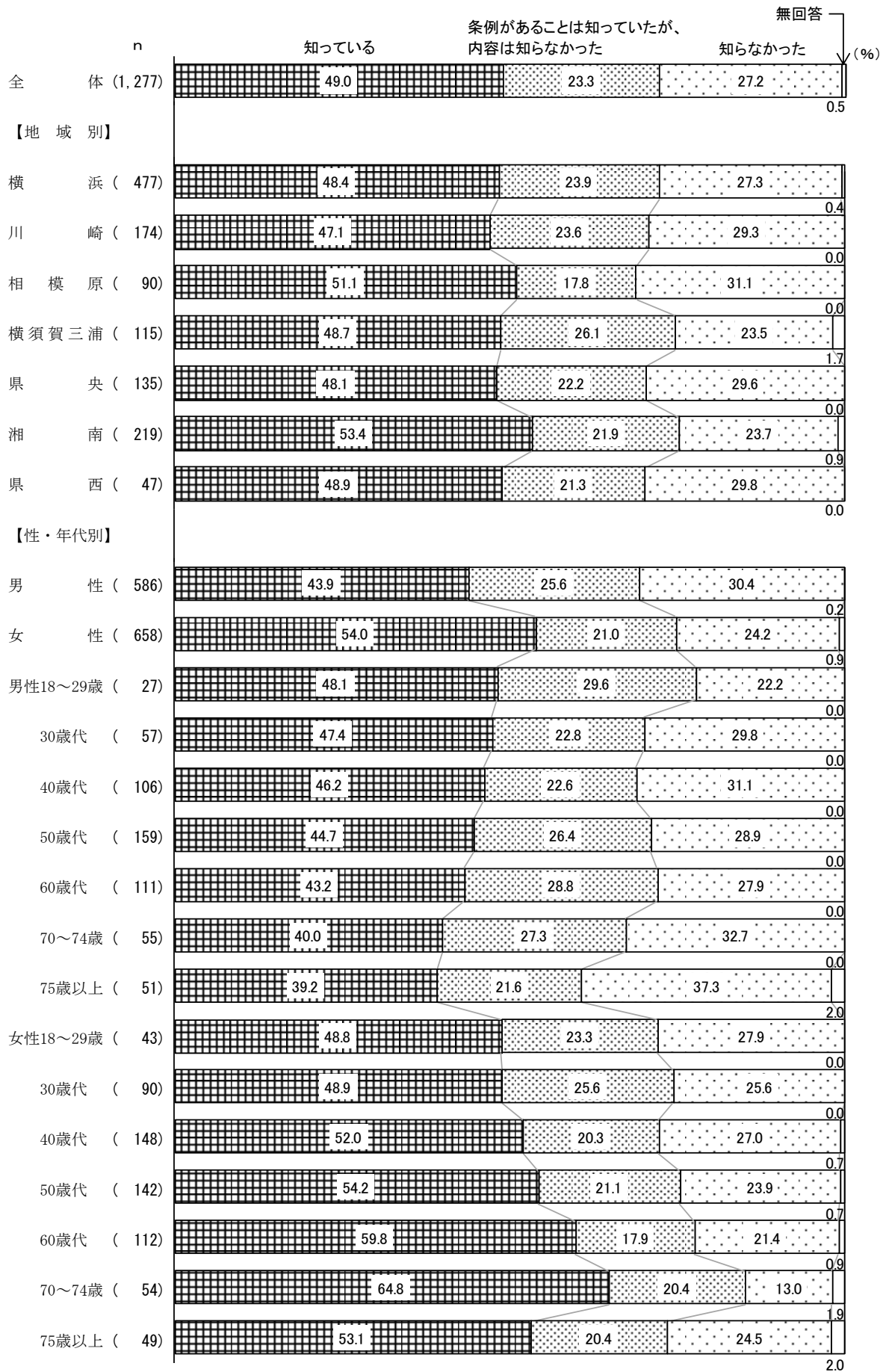
「青少年喫煙飲酒防止条例」の内容を知っているか尋ねたところ、「知っている」が49.0%であった。また、「条例があることは知っていたが、内容は知らなかった」が23.3%であった。

一方、「知らなかった」が27.2%であった。(図表 10-2-1)

図表10-2-1 「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度



図表10-2-2 「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度—地域別、性・年代別



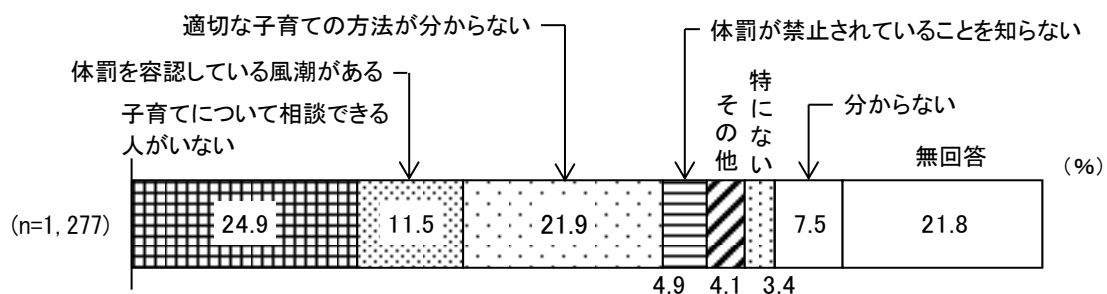
第11章 子育てにおける体罰の意識【問31～問33】

1 子育てにおいて体罰が起きていることへの課題【問31】

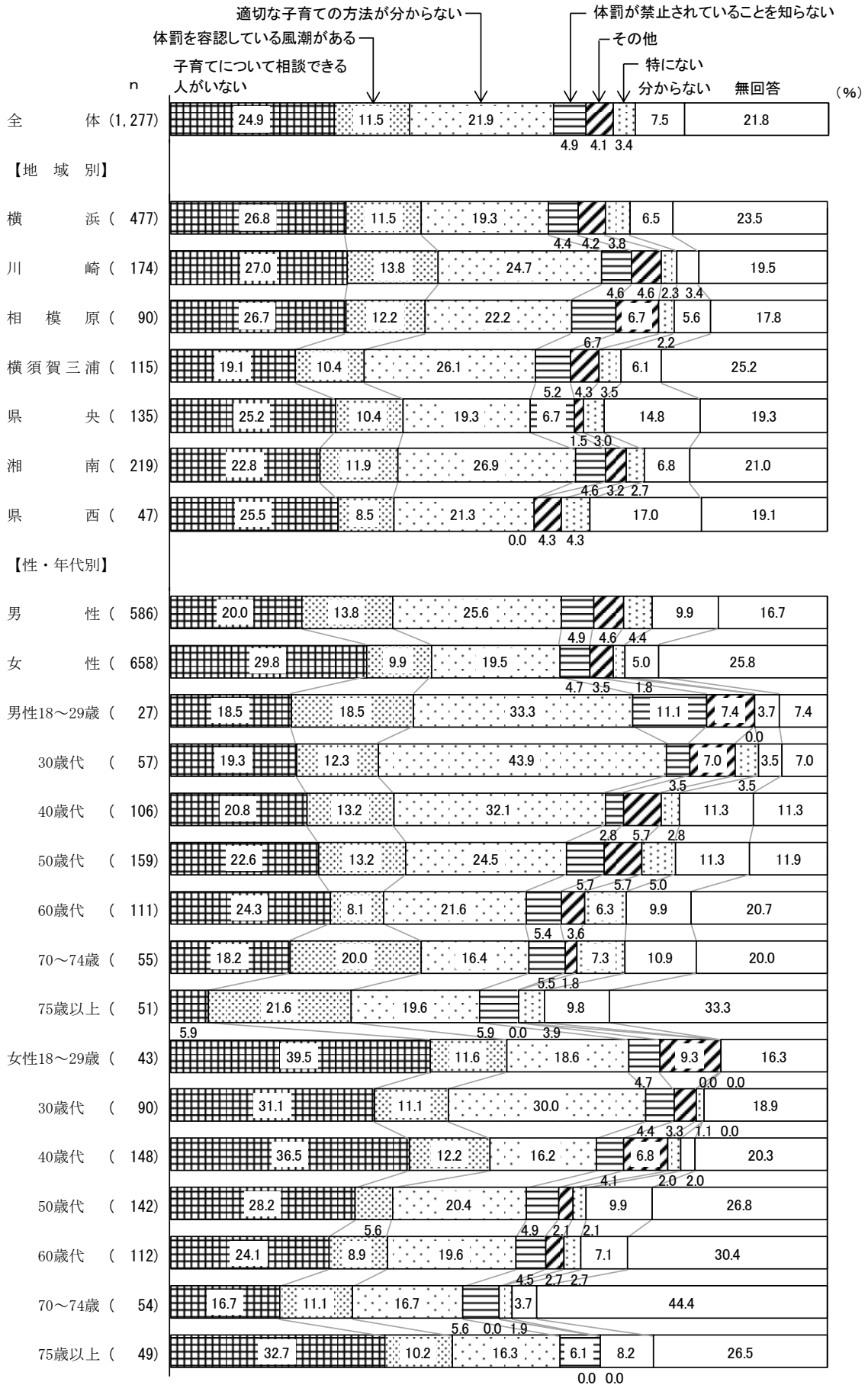
【全体の状況】

子育てにおいて体罰が起きていることへの課題について尋ねたところ、「子育てについて相談できる人がいない」が24.9%で最も多く、次いで「適切な子育ての方法が分からない」が21.9%であった。(図表11-1-1)

図表11-1-1 子育てにおいて体罰が起きていることへの課題



図表11-1-2 子育てにおいて体罰が起きていることへの課題—地域別、性・年代別



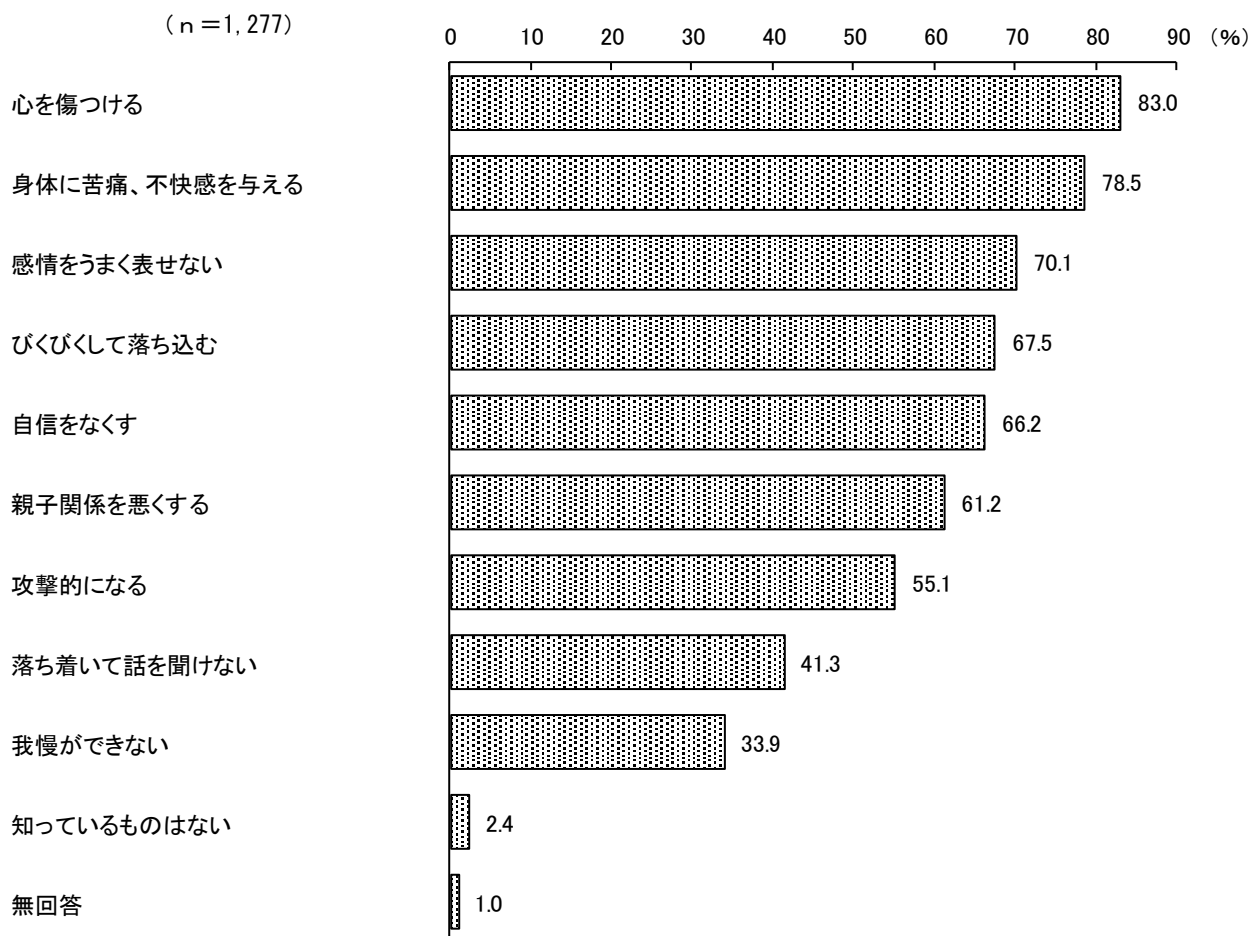
2 体罰などが子どもに与える影響【問32】

【全体の状況】

体罰などが子どもに与える影響について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「心を傷つける」が83.0%で最も多く、次いで「身体に苦痛、不快感を与える」が78.5%であった。

(図表 11-2-1)

図表11-2-1 体罰などが子どもに与える影響（複数回答）



図表11-2-2 体罰などが子どもに与える影響（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	心を傷つける	身体に苦痛、不快感を与える	感情をうまく表せない	びくびくして落ち込む	自信をなくす	親子関係を悪くする	攻撃的になる	落ち着いて話を聞けない	我慢ができない	知っているものはない	無回答
全 体	1,277	83.0	78.5	70.1	67.5	66.2	61.2	55.1	41.3	33.9	2.4	1.0
【地 域 別】												
横 浜	477	83.9	77.6	70.2	68.8	66.9	63.3	56.2	40.9	35.4	2.7	0.8
川 崎	174	84.5	84.5	73.6	69.5	69.0	69.0	63.2	44.3	33.9	1.1	0.6
相 模 原	90	84.4	84.4	67.8	64.4	65.6	60.0	56.7	36.7	31.1	4.4	0.0
横須賀三浦	115	80.9	80.0	75.7	75.7	64.3	63.5	55.7	47.0	40.9	0.9	0.9
県 央	135	80.7	74.8	63.0	59.3	62.2	49.6	44.4	34.8	28.1	4.4	1.5
湘 南	219	82.2	74.9	68.9	67.1	66.2	57.5	51.6	41.1	28.8	1.8	1.8
県 西	47	78.7	76.6	72.3	61.7	66.0	57.4	48.9	46.8	38.3	2.1	2.1
【性・年代別】												
男 性	586	78.7	73.7	62.6	61.9	58.7	54.9	51.9	37.0	31.6	3.9	1.2
女 性	658	86.8	82.8	76.9	72.6	72.9	66.9	57.9	44.7	35.4	1.1	0.9
男性18～29歳	27	70.4	81.5	51.9	74.1	51.9	55.6	55.6	48.1	37.0	3.7	0.0
30歳代	57	77.2	82.5	73.7	68.4	73.7	70.2	64.9	47.4	38.6	3.5	0.0
40歳代	106	76.4	79.2	69.8	62.3	63.2	54.7	61.3	39.6	36.8	1.9	0.0
50歳代	159	82.4	76.7	68.6	65.4	58.5	54.1	58.5	38.4	37.1	3.1	1.3
60歳代	111	79.3	67.6	59.5	58.6	55.0	49.5	45.0	24.3	24.3	8.1	0.0
70～74歳	55	78.2	70.9	49.1	58.2	50.9	50.9	32.7	32.7	14.5	5.5	3.6
75歳以上	51	74.5	54.9	47.1	49.0	51.0	54.9	31.4	35.3	25.5	2.0	5.9
女性18～29歳	43	88.4	93.0	81.4	76.7	86.0	79.1	72.1	53.5	34.9	0.0	0.0
30歳代	90	90.0	91.1	86.7	76.7	87.8	72.2	70.0	52.2	47.8	0.0	0.0
40歳代	148	83.8	85.1	77.7	75.7	73.0	66.2	64.2	45.3	35.8	2.0	0.0
50歳代	142	87.3	80.3	78.2	69.7	76.1	63.4	55.6	43.7	33.8	0.0	0.7
60歳代	112	89.3	75.0	76.8	67.9	59.8	61.6	53.6	38.4	33.9	1.8	1.8
70～74歳	54	90.7	88.9	70.4	77.8	68.5	75.9	61.1	53.7	40.7	0.0	1.9
75歳以上	49	79.6	75.5	55.1	67.3	63.3	65.3	30.6	34.7	20.4	2.0	4.1

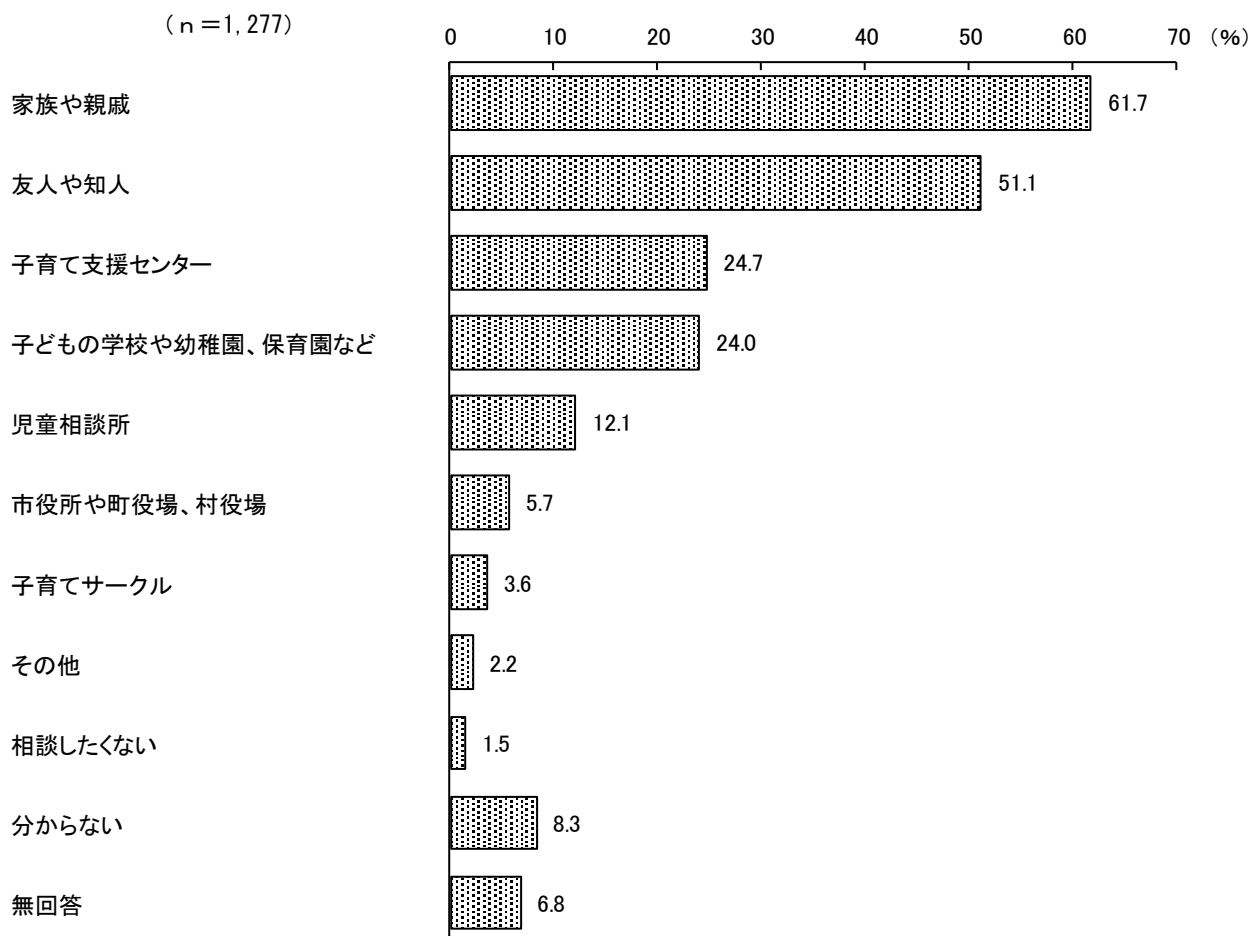
3 子どものしつけで困った時の相談先【問33】

【全体の状況】

子どものしつけで困った時に、誰に（どこに）相談したいと思うか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「家族や親戚」が61.7%で最も多く、次いで「友人や知人」が51.1%であった。

（図表 11-3-1）

図表11-3-1 子どものしつけで困った時の相談先（複数回答）



図表11-3-2 子どものしつけで困った時の相談先（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	家族や親戚	友人や知人	子育て支援センター	子どもの学校や幼稚園、保育園など	児童相談所	市役所や町役場、村役場	子育てサークル	その他	相談したくない	分からない	無回答
全 体	1,277	61.7	51.1	24.7	24.0	12.1	5.7	3.6	2.2	1.5	8.3	6.8
【地 域 別】												
横 浜	477	65.0	49.9	26.6	26.2	9.0	4.6	4.6	2.3	1.5	8.6	5.0
川 崎	174	61.5	56.3	25.9	27.6	12.1	6.3	3.4	1.7	0.6	7.5	8.6
相 模 原	90	61.1	51.1	20.0	26.7	12.2	4.4	2.2	2.2	2.2	12.2	6.7
横 須 賀 三 浦	115	60.0	53.0	18.3	24.3	11.3	5.2	1.7	2.6	3.5	4.3	10.4
県 央	135	54.1	53.3	26.7	21.5	20.0	8.1	4.4	3.0	0.7	10.4	5.9
湘 南	219	62.1	47.0	22.8	18.7	14.6	7.8	2.3	1.8	1.8	6.8	8.2
県 西	47	57.4	51.1	29.8	17.0	12.8	4.3	2.1	2.1	0.0	12.8	4.3
【性・年代別】												
男 性	586	60.9	45.4	21.0	22.2	15.4	6.5	3.4	1.7	1.9	11.6	4.9
女 性	658	63.1	56.7	27.8	26.4	9.1	5.2	3.6	2.6	1.2	5.3	8.4
男性18～29歳	27	74.1	51.9	3.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	7.4	3.7
30歳代	57	75.4	71.9	19.3	31.6	12.3	1.8	3.5	0.0	0.0	3.5	3.5
40歳代	106	65.1	52.8	17.0	23.6	11.3	6.6	4.7	0.0	3.8	12.3	1.9
50歳代	159	66.0	43.4	20.8	23.9	13.2	10.1	4.4	0.6	0.6	12.6	4.4
60歳代	111	50.5	43.2	27.9	19.8	19.8	5.4	3.6	3.6	4.5	9.9	5.4
70～74歳	55	60.0	32.7	23.6	14.5	20.0	7.3	3.6	3.6	0.0	10.9	5.5
75歳以上	51	39.2	29.4	23.5	17.6	25.5	5.9	0.0	5.9	0.0	15.7	13.7
女性18～29歳	43	76.7	62.8	44.2	44.2	7.0	7.0	4.7	0.0	2.3	2.3	2.3
30歳代	90	68.9	67.8	26.7	38.9	4.4	8.9	2.2	1.1	1.1	4.4	6.7
40歳代	148	66.2	58.8	20.3	32.4	8.1	2.7	0.0	3.4	2.7	6.1	8.8
50歳代	142	64.8	60.6	28.2	28.2	10.6	7.0	5.6	4.2	0.0	4.9	2.8
60歳代	112	65.2	55.4	32.1	14.3	7.1	0.9	7.1	0.0	0.0	3.6	10.7
70～74歳	54	48.1	44.4	29.6	18.5	14.8	5.6	5.6	5.6	1.9	7.4	9.3
75歳以上	49	46.9	32.7	28.6	6.1	16.3	8.2	2.0	2.0	0.0	6.1	22.4

第12章 がん対策【問34～問35】

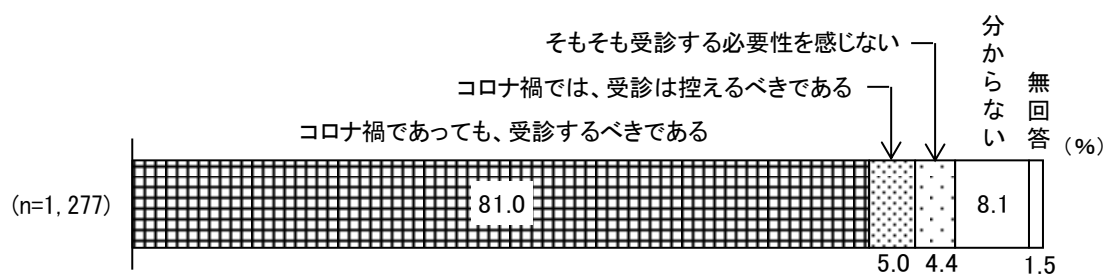
1 コロナ禍における「がん検診」の受診【問34】

【全体の状況】

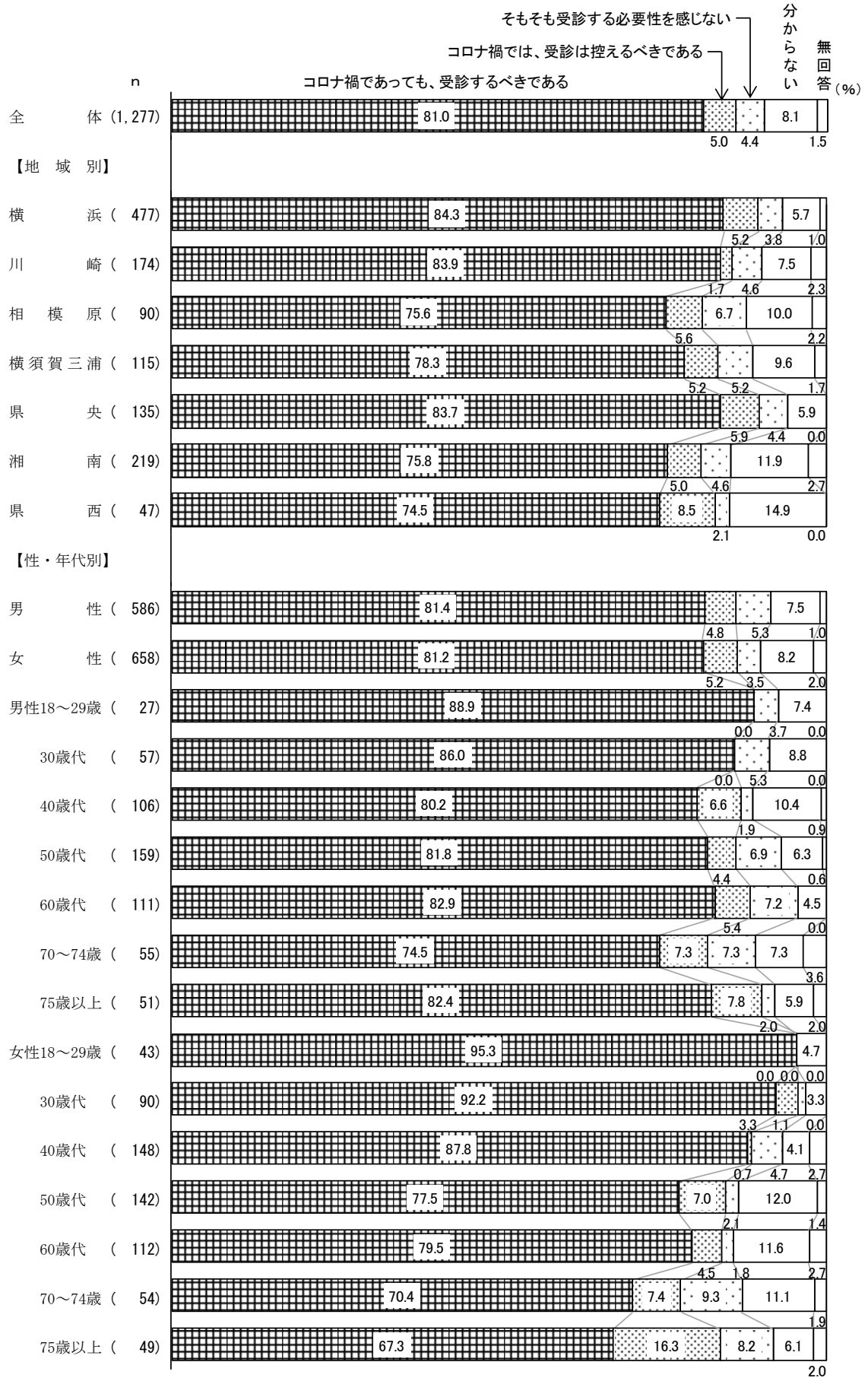
コロナ禍における「がん検診」の受診についてどう思うか尋ねたところ、「コロナ禍であっても、受診すべきである」が81.0%であった。

一方、「コロナ禍では、受診は控えるべきである」が5.0%であった。(図表12-1-1)

図表12-1-1 コロナ禍における「がん検診」の受診



図表12-1-2 コロナ禍における「がん検診」の受診—地域別、性・年代別

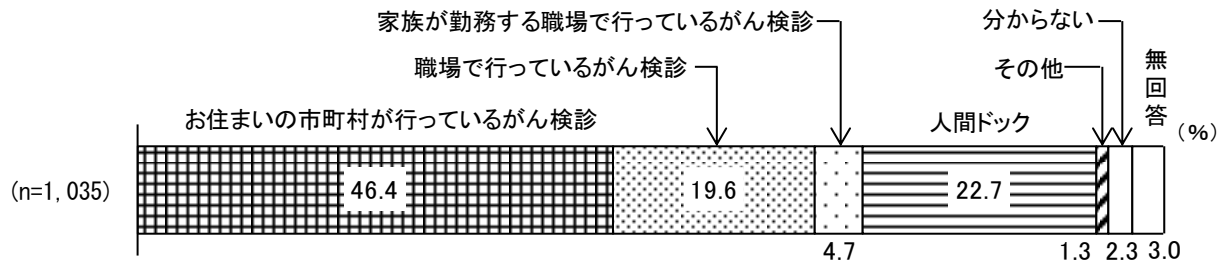


2 がん検診を受けようと思う場所【問34-1】

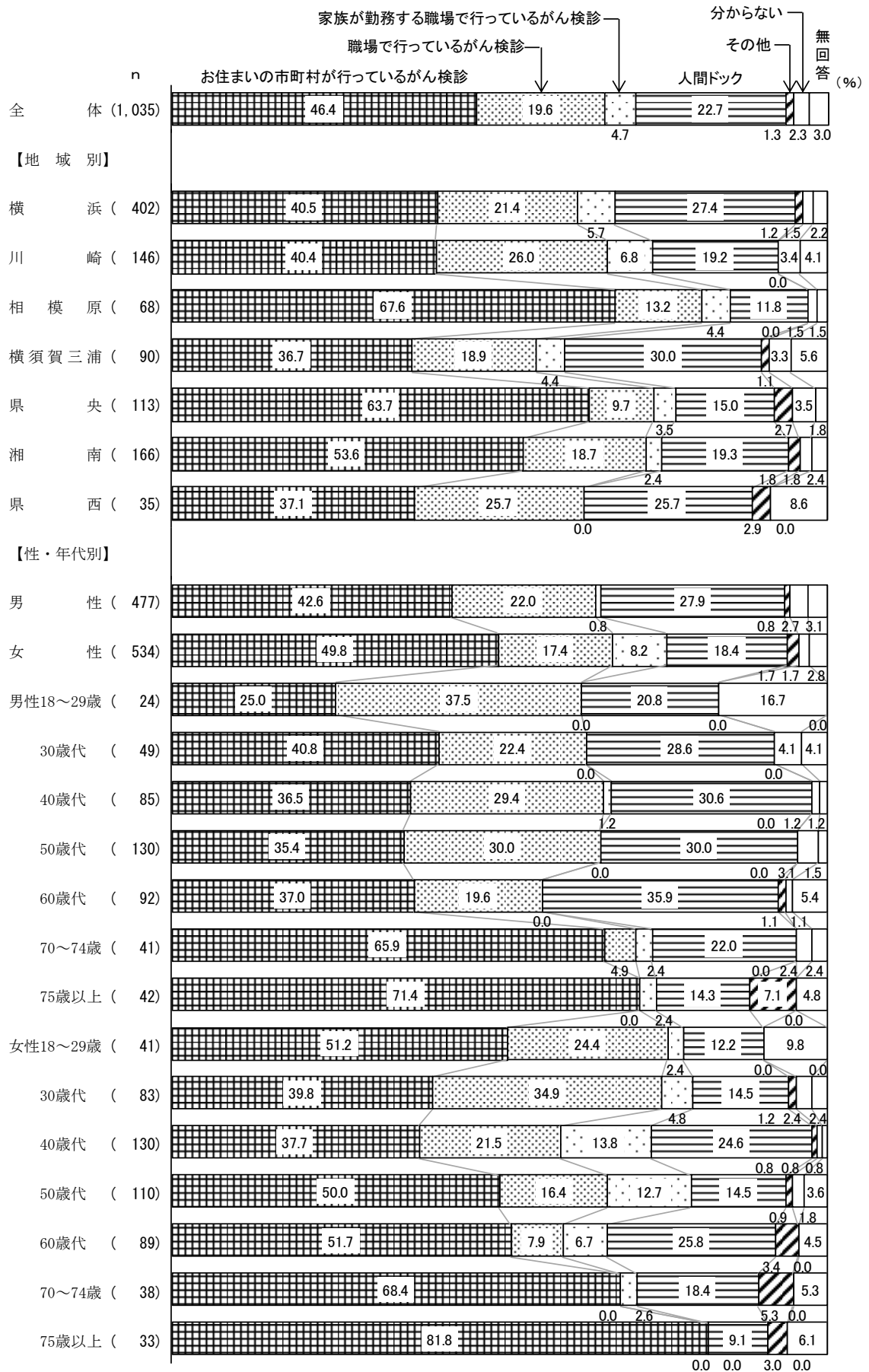
【全体の状況】

コロナ禍における「がん検診」の受診について（問34）で、「コロナ禍であっても、受診するべきである」と回答した1,035人に、どこで受診しようと思うか尋ねたところ、「お住まいの市町村が行っているがん検診」が46.4%で最も多く、次いで「人間ドック」が22.7%であった。（図表12-2-1）

図表12-2-1 がん検診を受けようと思う場所



図表12-2-2 がん検診を受けようと思う場所—地域別、性・年代別

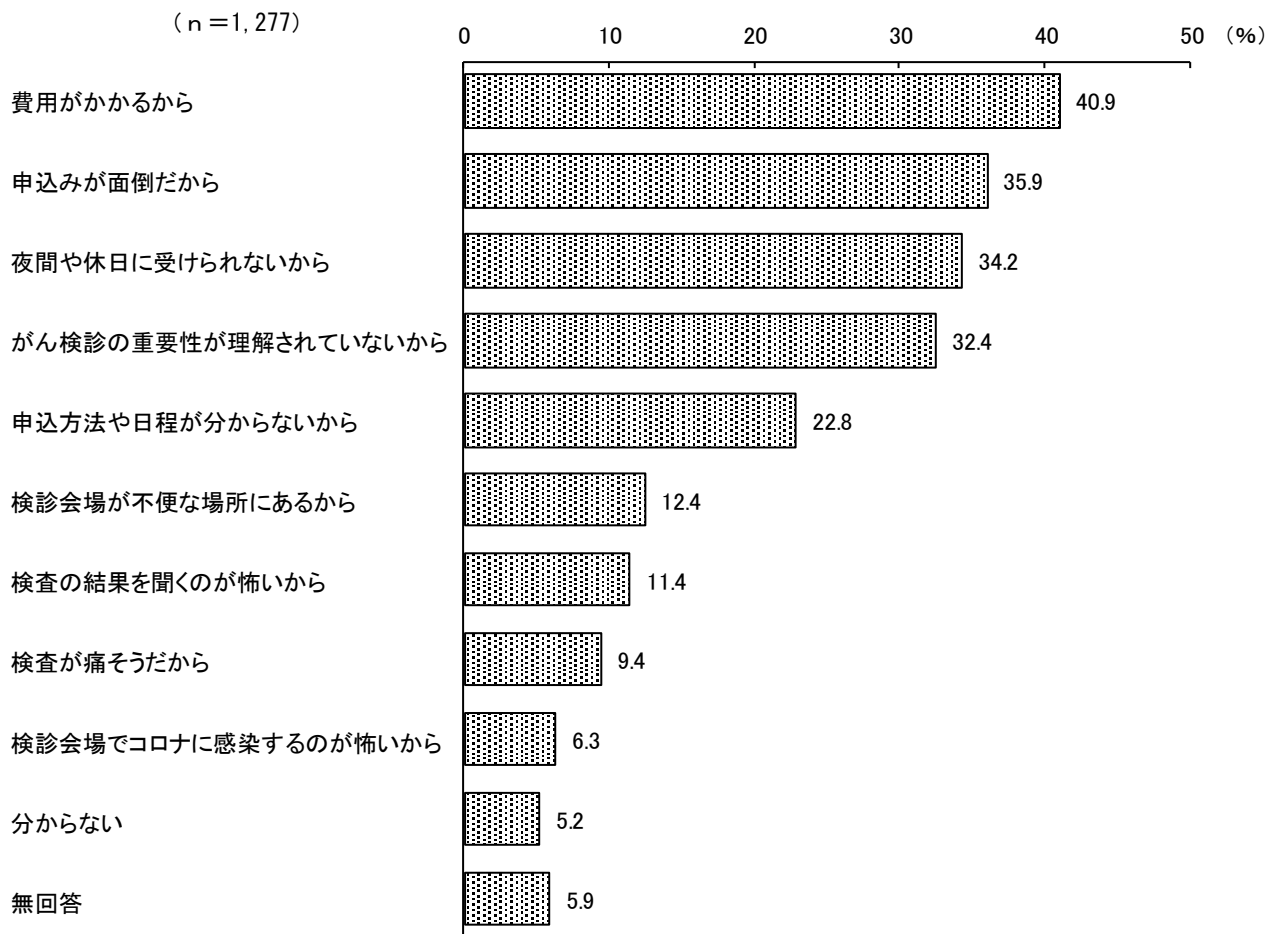


3 がん検診を受ける人が少ない理由【問35】

【全体の状況】

がん検診を受ける人が少ない理由を複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「費用がかかるから」が40.9%で最も多く、次いで「申込みが面倒だから」が35.9%であった。（図表12-3-1）

図表12-3-1 がん検診を受ける人が少ない理由（複数回答）



図表12-3-2 がん検診を受ける人が少ない理由（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	費用がかかるから	申込みが面倒だから	夜間や休日に受けられないから	がん検診の重要性が理解されていないから	申込方法や日程が分からないから	検診会場が不便な場所にあるから	検査の結果を聞くのが怖いから	検査が痛そうだから	検診会場でコロナに感染するのが怖いから	分からない	無回答
全体	1,277	40.9	35.9	34.2	32.4	22.8	12.4	11.4	9.4	6.3	5.2	5.9
【地域別】												
横浜	477	39.4	37.9	32.3	32.9	26.0	11.3	10.3	9.6	5.5	4.6	6.3
川崎	174	43.1	43.7	41.4	31.0	21.3	11.5	10.3	8.6	4.6	5.2	5.2
相模原	90	42.2	37.8	36.7	37.8	18.9	13.3	13.3	11.1	6.7	6.7	6.7
横須賀三浦	115	47.0	25.2	37.4	35.7	25.2	11.3	7.8	9.6	8.7	2.6	6.1
県央	135	36.3	33.3	31.9	37.8	14.8	11.1	18.5	10.4	13.3	5.2	2.2
湘南	219	42.0	31.1	32.9	26.0	23.7	14.6	11.9	7.8	3.7	7.3	7.8
県西	47	46.8	40.4	36.2	31.9	19.1	21.3	10.6	10.6	8.5	0.0	2.1
【性・年代別】												
男性	586	41.5	35.7	35.5	36.5	26.3	11.8	10.4	6.0	4.8	6.0	3.6
女性	658	40.6	36.6	34.0	29.2	19.8	12.9	12.2	12.6	8.1	3.8	7.8
男性18～29歳	27	44.4	37.0	29.6	29.6	29.6	7.4	7.4	25.9	3.7	11.1	7.4
30歳代	57	56.1	35.1	40.4	43.9	28.1	14.0	1.8	7.0	1.8	3.5	5.3
40歳代	106	37.7	47.2	48.1	31.1	31.1	12.3	9.4	6.6	5.7	2.8	3.8
50歳代	159	47.8	34.0	40.3	32.1	27.0	9.4	9.4	5.0	1.3	7.5	3.8
60歳代	111	41.4	35.1	28.8	40.5	15.3	12.6	13.5	2.7	8.1	2.7	3.6
70～74歳	55	30.9	32.7	21.8	47.3	29.1	14.5	12.7	3.6	10.9	5.5	1.8
75歳以上	51	35.3	27.5	21.6	43.1	27.5	11.8	15.7	3.9	3.9	9.8	0.0
女性18～29歳	43	55.8	34.9	51.2	39.5	23.3	16.3	11.6	16.3	2.3	0.0	7.0
30歳代	90	55.6	44.4	35.6	30.0	25.6	14.4	7.8	11.1	1.1	1.1	8.9
40歳代	148	41.2	43.2	43.2	20.3	21.6	14.2	10.1	14.2	3.4	0.7	8.1
50歳代	142	40.1	43.7	37.3	28.9	16.9	9.2	9.2	12.0	7.0	2.8	9.2
60歳代	112	31.3	32.1	29.5	30.4	16.1	13.4	17.0	14.3	17.0	5.4	6.3
70～74歳	54	35.2	16.7	13.0	38.9	18.5	13.0	13.0	9.3	13.0	13.0	5.6
75歳以上	49	28.6	18.4	12.2	34.7	20.4	14.3	28.6	8.2	14.3	8.2	6.1

第13章 依存症に対する意識【問36～問38】

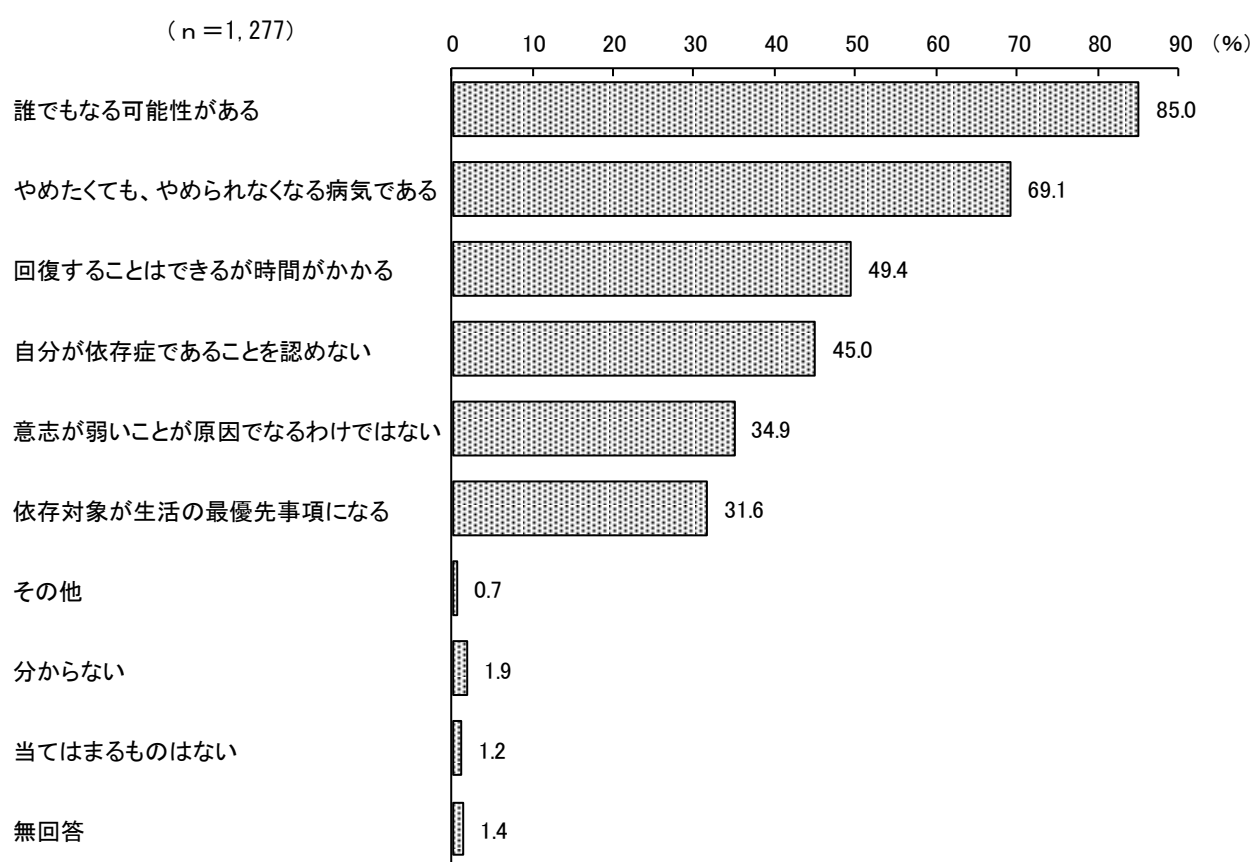
1 依存症に対する意識に関する認知状況【問36】

【全体の状況】

依存症について、あてはまると思うことを複数回答で尋ねたところ、「誰でもなる可能性がある」が85.0%で最も多く、次いで「やめたくても、やめられなくなる病気である」が69.1%であった。

(図表 13-1-1)

図表13-1-1 依存症に対する意識に関する認知状況（複数回答）



図表13-1-2 依存症に対する意識に関する認知状況（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

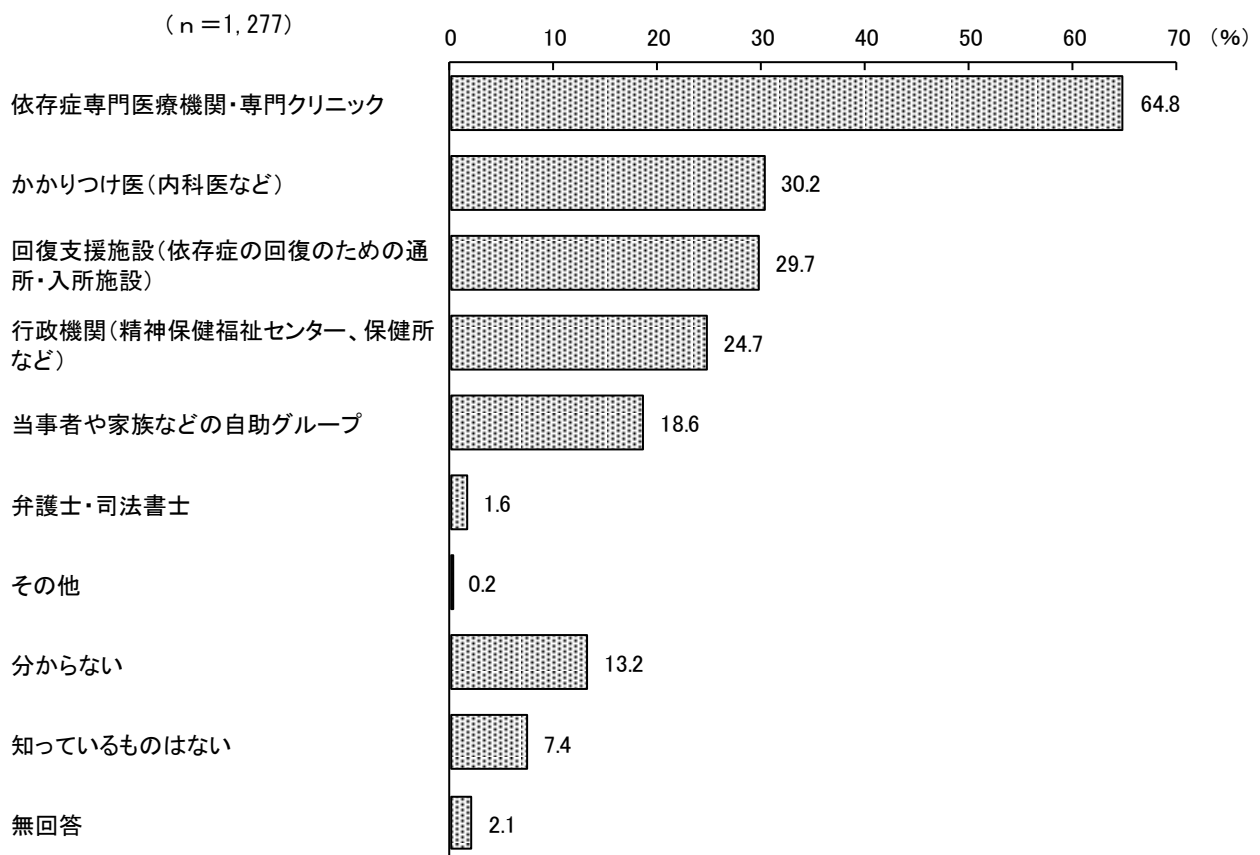
	n	誰でもなる可能性がある	やめたくても、やめられなくなる病	回復することはできるが時間がかかる	自分が依存症であることを認めない	意志が弱いことが原因でな	依存対象が生活の最優先事項になる	その他	分からない	当てはまるものはない	無回答
全 体	1,277	85.0	69.1	49.4	45.0	34.9	31.6	0.7	1.9	1.2	1.4
【地 域 別】											
横 浜	477	86.2	71.5	51.6	46.1	36.3	33.5	0.4	1.5	1.0	0.6
川 崎	174	88.5	69.0	51.7	45.4	33.9	34.5	0.6	1.1	0.0	1.7
相 模 原	90	83.3	72.2	51.1	36.7	34.4	30.0	0.0	4.4	2.2	2.2
横 須 賀 三 浦	115	87.0	69.6	53.9	47.0	41.7	35.7	1.7	1.7	0.0	1.7
県 央	135	80.7	68.1	45.2	45.9	31.9	26.7	0.0	3.0	3.0	0.7
湘 南	219	82.6	64.4	42.5	42.9	31.5	26.0	1.4	1.4	1.8	2.7
県 西	47	89.4	70.2	51.1	55.3	34.0	34.0	0.0	2.1	0.0	0.0
【性・年代別】											
男 性	586	85.5	64.3	45.6	43.5	33.3	27.5	0.3	2.0	1.2	0.9
女 性	658	85.1	74.0	53.5	46.5	36.5	35.7	0.9	1.5	1.2	1.8
男性18～29歳	27	85.2	63.0	48.1	44.4	37.0	37.0	0.0	3.7	0.0	0.0
30歳代	57	94.7	66.7	52.6	59.6	45.6	50.9	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	106	86.8	67.0	48.1	37.7	37.7	29.2	0.9	0.9	0.0	0.9
50歳代	159	87.4	67.9	48.4	45.3	37.7	28.9	0.0	1.9	1.9	0.6
60歳代	111	86.5	70.3	43.2	43.2	27.0	20.7	0.0	0.9	0.9	0.0
70～74歳	55	85.5	50.9	41.8	41.8	27.3	18.2	0.0	1.8	1.8	1.8
75歳以上	51	70.6	52.9	39.2	39.2	21.6	21.6	2.0	3.9	3.9	2.0
女性18～29歳	43	95.3	76.7	60.5	48.8	39.5	55.8	2.3	0.0	0.0	0.0
30歳代	90	91.1	80.0	60.0	47.8	46.7	52.2	1.1	0.0	1.1	0.0
40歳代	148	89.9	75.7	52.0	45.9	37.2	33.1	0.7	0.7	0.7	1.4
50歳代	142	88.0	76.8	52.1	47.2	35.9	31.7	2.1	1.4	0.0	0.7
60歳代	112	80.4	73.2	54.5	47.3	34.8	33.0	0.0	2.7	0.9	2.7
70～74歳	54	79.6	70.4	59.3	40.7	35.2	31.5	0.0	1.9	1.9	1.9
75歳以上	49	65.3	59.2	42.9	46.9	26.5	20.4	0.0	6.1	2.0	6.1

2 依存症に関する相談場所として知っているもの【問37】

【全体の状況】

依存症について、相談できる場所として知っているものを複数回答で尋ねたところ、「依存症専門医療機関・専門クリニック」が64.8%で最も多く、次いで「かかりつけ医（内科医など）」が30.2%であった。（図表13-2-1）

図表13-2-1 依存症に関する相談場所として知っているもの（複数回答）



図表13-2-2 依存症に関する相談場所として知っているもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

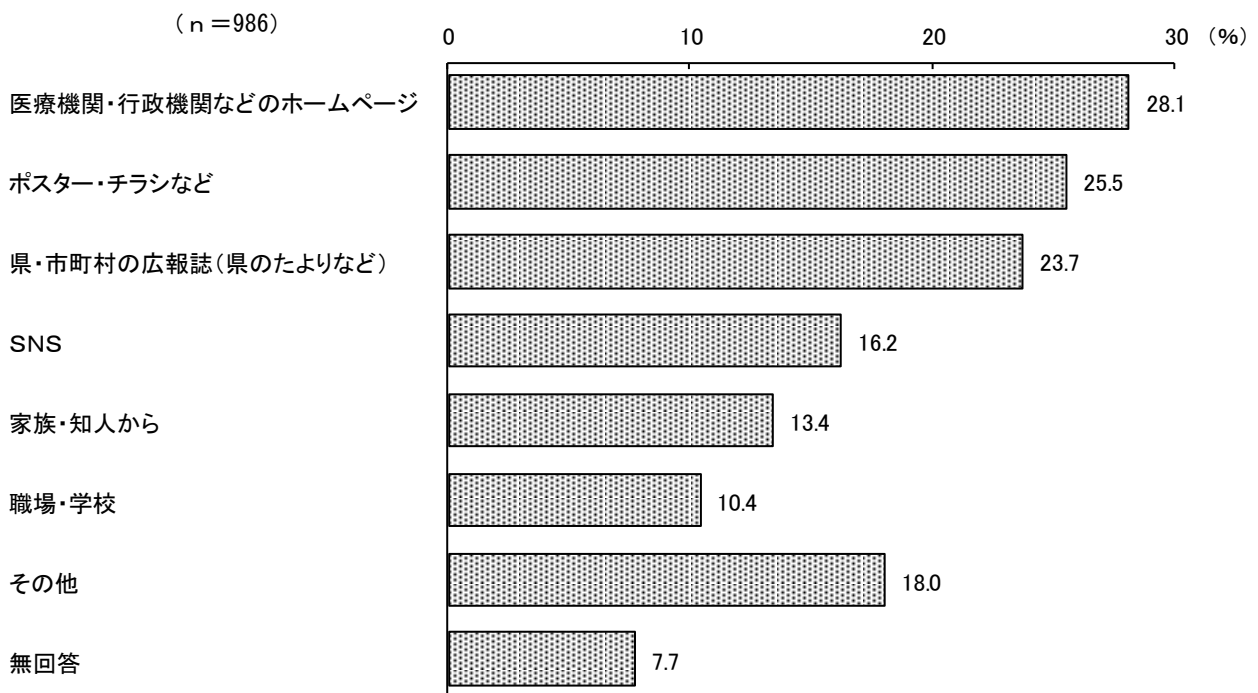
	n	ク 依存症専門医療機関・専門クリニック	かかりつけ医（内科医など）	回復支援施設（依存症の回復のため 通所・入所施設）	行政機関（精神保健福祉センター、 保健所など）	当事者や家族などの自助グループ	弁護士・司法書士	その他	分からない	知っているものはない	無回答
全 体	1,277	64.8	30.2	29.7	24.7	18.6	1.6	0.2	13.2	7.4	2.1
【地 域 別】											
横 浜	477	65.2	30.4	29.8	26.6	21.0	1.0	0.2	11.3	7.5	1.5
川 崎	174	71.3	33.9	36.2	20.7	21.8	0.6	0.0	9.8	8.6	1.7
相 模 原	90	54.4	27.8	24.4	28.9	17.8	2.2	0.0	20.0	6.7	3.3
横 須 賀 三 浦	115	69.6	30.4	34.8	25.2	21.7	1.7	0.0	9.6	8.7	1.7
県 央	135	63.0	30.4	26.7	23.0	13.3	3.0	0.0	17.8	5.9	1.5
湘 南	219	62.1	28.3	22.4	23.7	13.2	2.7	0.0	15.5	6.8	3.7
県 西	47	63.8	36.2	40.4	19.1	19.1	2.1	0.0	14.9	6.4	2.1
【性・年代別】											
男 性	586	62.6	30.9	24.7	23.4	14.2	2.2	0.0	13.1	9.0	1.0
女 性	658	66.4	29.9	34.0	25.7	22.3	1.2	0.2	13.4	5.8	3.0
男性18～29歳	27	70.4	48.1	25.9	18.5	29.6	3.7	0.0	0.0	11.1	0.0
30歳代	57	66.7	33.3	33.3	31.6	15.8	3.5	0.0	10.5	7.0	0.0
40歳代	106	71.7	24.5	33.0	28.3	23.6	3.8	0.0	15.1	4.7	0.9
50歳代	159	62.9	27.7	23.3	22.0	13.2	3.1	0.0	11.9	10.7	1.3
60歳代	111	63.1	26.1	25.2	21.6	9.9	0.9	0.0	11.7	12.6	0.0
70～74歳	55	58.2	32.7	12.7	20.0	7.3	0.0	0.0	16.4	10.9	1.8
75歳以上	51	47.1	49.0	21.6	25.5	9.8	0.0	0.0	17.6	5.9	2.0
女性18～29歳	43	62.8	44.2	32.6	30.2	30.2	0.0	0.0	11.6	2.3	0.0
30歳代	90	72.2	44.4	37.8	34.4	34.4	1.1	0.0	6.7	6.7	0.0
40歳代	148	70.3	27.0	35.8	24.3	27.7	1.4	0.0	10.8	8.8	1.4
50歳代	142	64.1	23.9	34.5	25.4	23.2	1.4	0.7	19.7	4.2	1.4
60歳代	112	66.1	25.9	32.1	24.1	15.2	1.8	0.0	16.1	4.5	5.4
70～74歳	54	61.1	24.1	24.1	16.7	9.3	0.0	0.0	22.2	7.4	3.7
75歳以上	49	63.3	30.6	40.8	24.5	10.2	2.0	0.0	6.1	2.0	10.2

3 相談できる場所を知ったきっかけ【問37-1】

【全体の状況】

依存症について相談できる場所（問37）で、知っているとは回答した986人に、相談できる場所を知ったきっかけを複数回答で尋ねたところ、「医療機関・行政機関などのホームページ」が28.1%で最も多く、次いで「ポスター・チラシなど」が25.5%であった。（図表13-3-1）

図表13-3-1 相談できる場所を知ったきっかけ（複数回答）



図表13-3-2 相談できる場所を知ったきっかけ（複数回答）—地域別、性・年代別

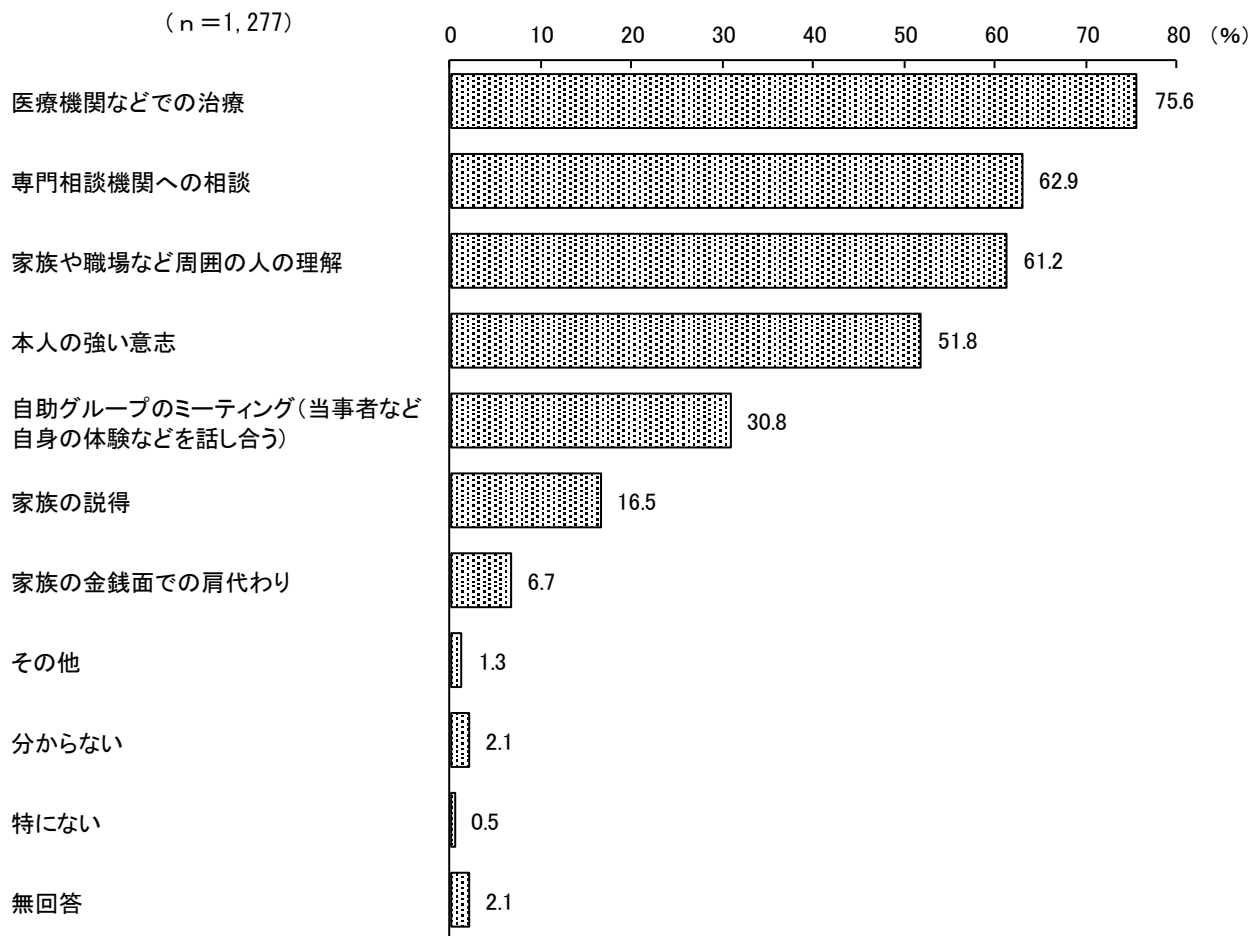
		(%)								
	n	医療機関・行政機関などのホームページ	ポスター・チラシなど	県・市町村の広報誌（県のたよりなど）	SNS	家族・知人から	職場・学校	その他	無回答	
全体	986	28.1	25.5	23.7	16.2	13.4	10.4	18.0	7.7	
【地域別】										
横浜	380	27.9	26.1	23.7	17.1	10.5	10.0	19.7	6.6	
川崎	139	27.3	29.5	19.4	17.3	15.1	10.8	20.9	7.2	
相模原	63	22.2	27.0	20.6	14.3	14.3	22.2	7.9	6.3	
横須賀三浦	92	32.6	21.7	33.7	17.4	23.9	10.9	15.2	3.3	
県央	101	31.7	23.8	26.7	18.8	10.9	8.9	9.9	8.9	
湘南	162	24.7	23.5	20.4	12.3	13.6	8.6	18.5	13.0	
県西	36	33.3	25.0	22.2	16.7	11.1	2.8	27.8	8.3	
【性・年代別】										
男性	450	33.8	26.0	22.9	16.4	14.7	8.7	13.6	8.9	
女性	512	22.7	24.4	23.6	16.4	12.1	12.3	21.7	6.8	
男性18～29歳	24	20.8	29.2	0.0	41.7	8.3	8.3	12.5	4.2	
30歳代	47	29.8	31.9	12.8	29.8	10.6	14.9	21.3	4.3	
40歳代	84	32.1	21.4	14.3	25.0	23.8	11.9	19.0	3.6	
50歳代	121	37.2	24.0	19.0	14.9	12.4	11.6	14.0	7.4	
60歳代	84	38.1	26.2	29.8	10.7	14.3	4.8	8.3	13.1	
70～74歳	39	33.3	23.1	43.6	2.6	15.4	5.1	12.8	7.7	
75歳以上	38	23.7	34.2	44.7	2.6	13.2	0.0	7.9	23.7	
女性18～29歳	37	21.6	21.6	8.1	32.4	24.3	37.8	5.4	0.0	
30歳代	78	17.9	24.4	7.7	29.5	6.4	15.4	25.6	6.4	
40歳代	117	24.8	27.4	15.4	18.8	14.5	12.8	22.2	5.1	
50歳代	106	22.6	24.5	25.5	18.9	9.4	9.4	22.6	5.7	
60歳代	83	19.3	25.3	30.1	4.8	9.6	6.0	32.5	8.4	
70～74歳	36	27.8	27.8	38.9	8.3	13.9	13.9	13.9	8.3	
75歳以上	40	30.0	15.0	60.0	0.0	12.5	0.0	12.5	7.5	

4 依存症の回復に必要と思うもの【問38】

【全体の状況】

依存症の回復に必要と思うものを複数回答で尋ねたところ、「医療機関などでの治療」が75.6%で最も多く、次いで「専門相談機関への相談」が62.9%であった。(図表13-4-1)

図表13-4-1 依存症の回復に必要と思うもの（複数回答）



図表13-4-2 依存症の回復に必要と思うもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	医療機関などでの治療	専門相談機関への相談	家族や職場など周囲の人の理解	本人の強い意志	自助グループのミーティング（当事者など自身の体験などを話し合う）	家族の説得	家族の金銭面での肩代わり	その他	分からない	特にない	無回答
全 体	1,277	75.6	62.9	61.2	51.8	30.8	16.5	6.7	1.3	2.1	0.5	2.1
【地 域 別】												
横 浜	477	78.2	63.7	62.9	51.2	30.8	13.4	5.7	1.0	1.7	0.2	1.7
川 崎	174	78.2	67.2	66.1	52.3	31.0	18.4	10.9	3.4	1.7	1.1	2.9
相 模 原	90	68.9	63.3	63.3	44.4	30.0	18.9	4.4	0.0	2.2	2.2	4.4
横須賀三浦	115	80.9	61.7	65.2	51.3	37.4	15.7	8.7	1.7	1.7	0.0	1.7
県 央	135	72.6	56.3	58.5	61.5	28.9	23.7	6.7	0.7	3.0	0.0	0.0
湘 南	219	73.1	61.2	54.3	50.2	27.4	16.4	5.9	0.9	2.3	0.0	2.7
県 西	47	70.2	68.1	57.4	57.4	31.9	17.0	4.3	0.0	2.1	0.0	2.1
【性・年代別】												
男 性	586	75.4	57.3	56.5	51.0	23.9	16.0	6.0	1.5	1.9	0.7	1.5
女 性	658	76.4	68.2	66.3	52.7	36.8	17.2	7.4	1.1	2.1	0.2	2.4
男性18～29歳	27	77.8	44.4	51.9	37.0	29.6	3.7	11.1	0.0	7.4	0.0	0.0
30歳代	57	80.7	52.6	59.6	64.9	22.8	22.8	7.0	3.5	0.0	0.0	0.0
40歳代	106	79.2	61.3	61.3	47.2	22.6	15.1	5.7	1.9	0.9	0.9	0.9
50歳代	159	76.7	60.4	61.6	46.5	22.6	15.1	7.5	1.9	3.1	1.3	2.5
60歳代	111	75.7	57.7	51.4	56.8	27.9	14.4	3.6	1.8	0.9	0.0	0.9
70～74歳	55	70.9	63.6	60.0	47.3	21.8	12.7	1.8	0.0	1.8	0.0	1.8
75歳以上	51	66.7	47.1	47.1	60.8	23.5	23.5	7.8	0.0	0.0	2.0	2.0
女性18～29歳	43	83.7	65.1	81.4	67.4	23.3	9.3	9.3	2.3	0.0	0.0	0.0
30歳代	90	80.0	71.1	76.7	41.1	41.1	20.0	7.8	1.1	2.2	0.0	0.0
40歳代	148	79.7	69.6	72.3	50.0	38.5	11.5	6.8	1.4	2.0	0.0	1.4
50歳代	142	77.5	72.5	66.9	54.2	35.9	16.9	7.0	2.1	2.1	0.0	0.7
60歳代	112	76.8	62.5	61.6	50.9	36.6	20.5	8.0	0.0	2.7	0.0	5.4
70～74歳	54	66.7	81.5	59.3	61.1	40.7	25.9	5.6	0.0	0.0	0.0	3.7
75歳以上	49	67.3	51.0	40.8	65.3	36.7	24.5	8.2	0.0	4.1	0.0	4.1

第14章 「未病改善」の取組み【問39～問42】

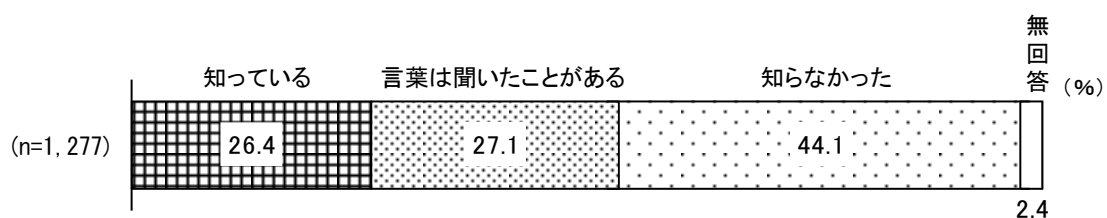
1 「未病（ME－BYO）」の認知度【問39】

【全体の状況】

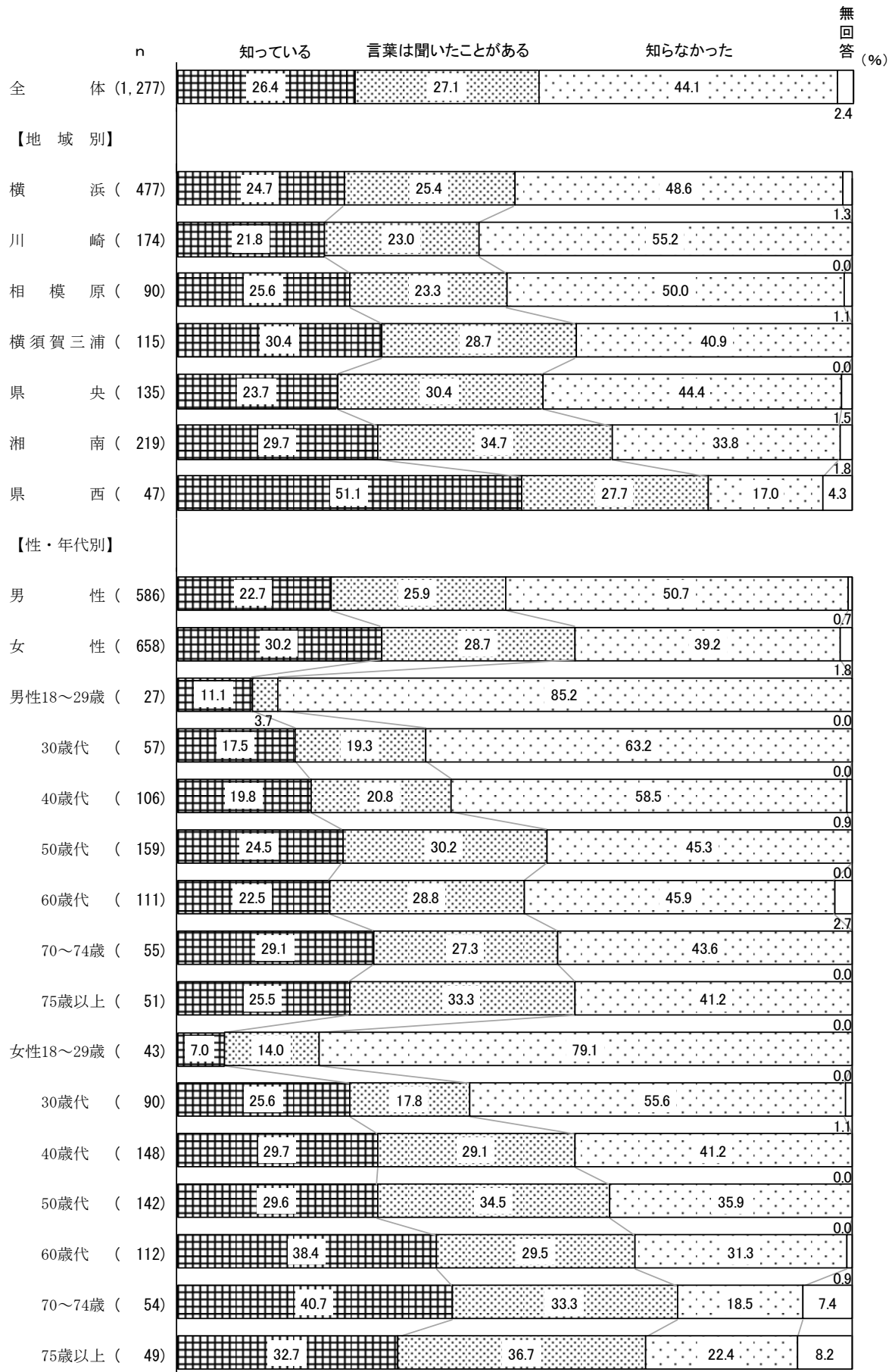
「未病（ME－BYO）」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が26.4%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が27.1%であった。

一方、「知らなかった」が44.1%であった。（図表14-1-1）

図表14-1-1 「未病（ME－BYO）」の認知度



図表14-1-2 「未病（ME-BYO）」の認知度—地域別、性・年代別

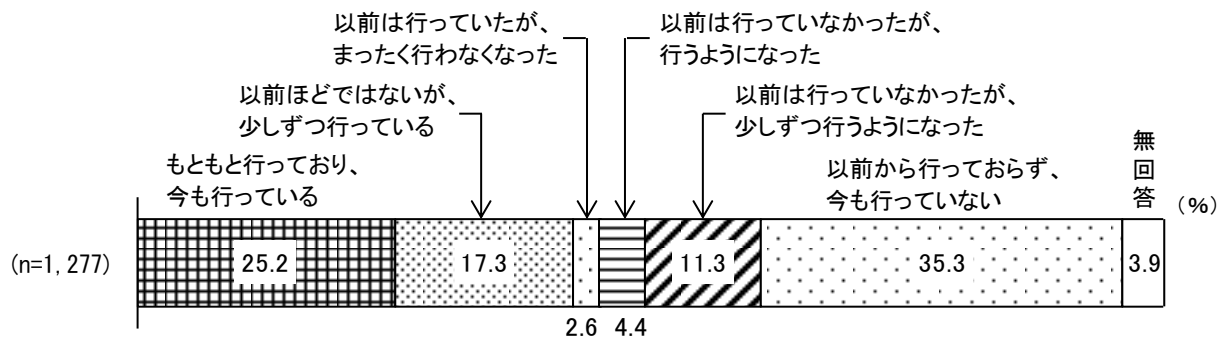


2 「未病改善」の取組みの実践【問40】

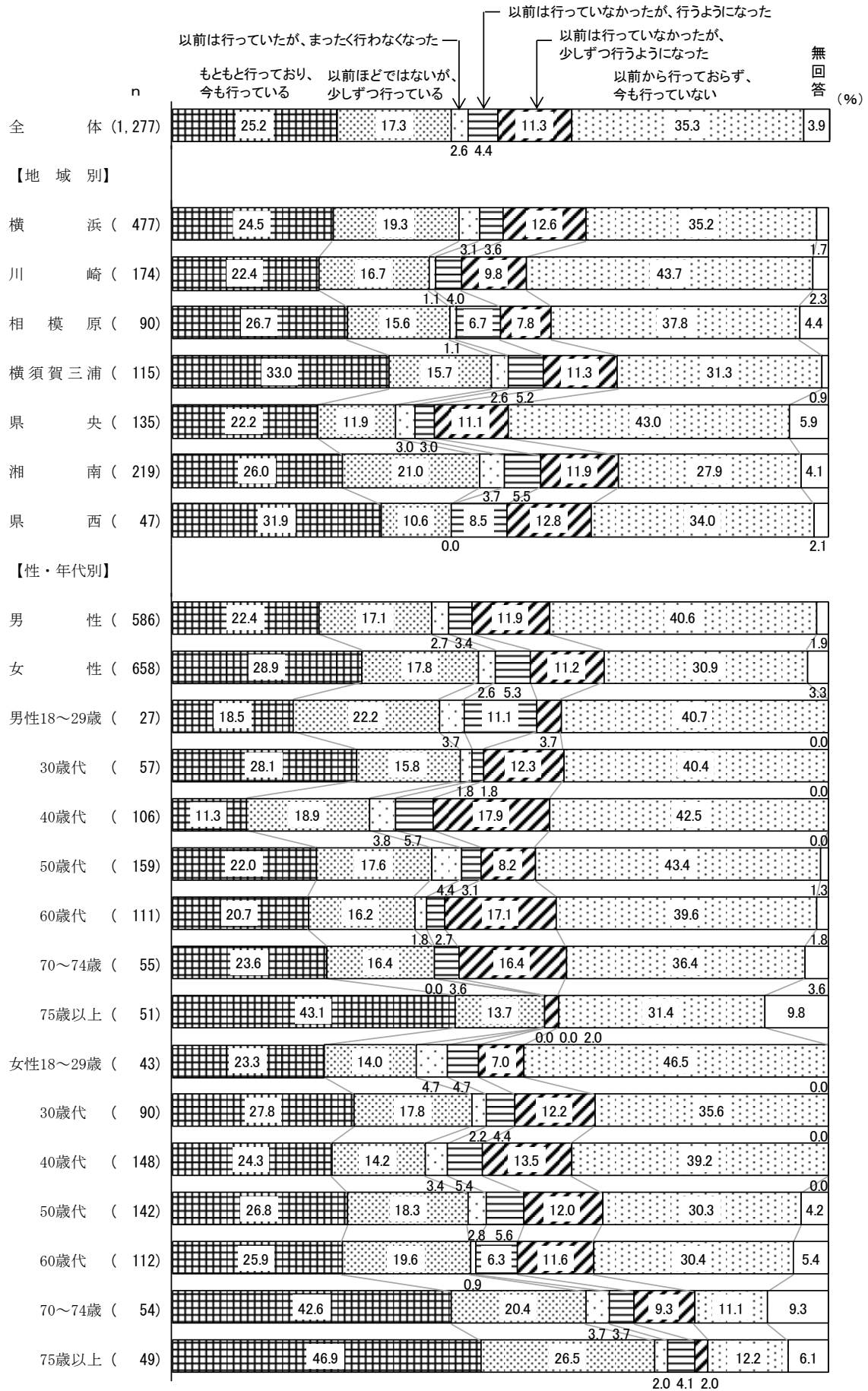
【全体の状況】

過去1年間で「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「以前から行っておらず、今も行っていない」が35.3%で最も多く、次いで「もともと行っており、今もやっている」が25.2%であった。（図表14-2-1）

図表14-2-1 「未病改善」の取組みの実践



図表14-2-2 「未病改善」の取組みの実践—地域別、性・年代別

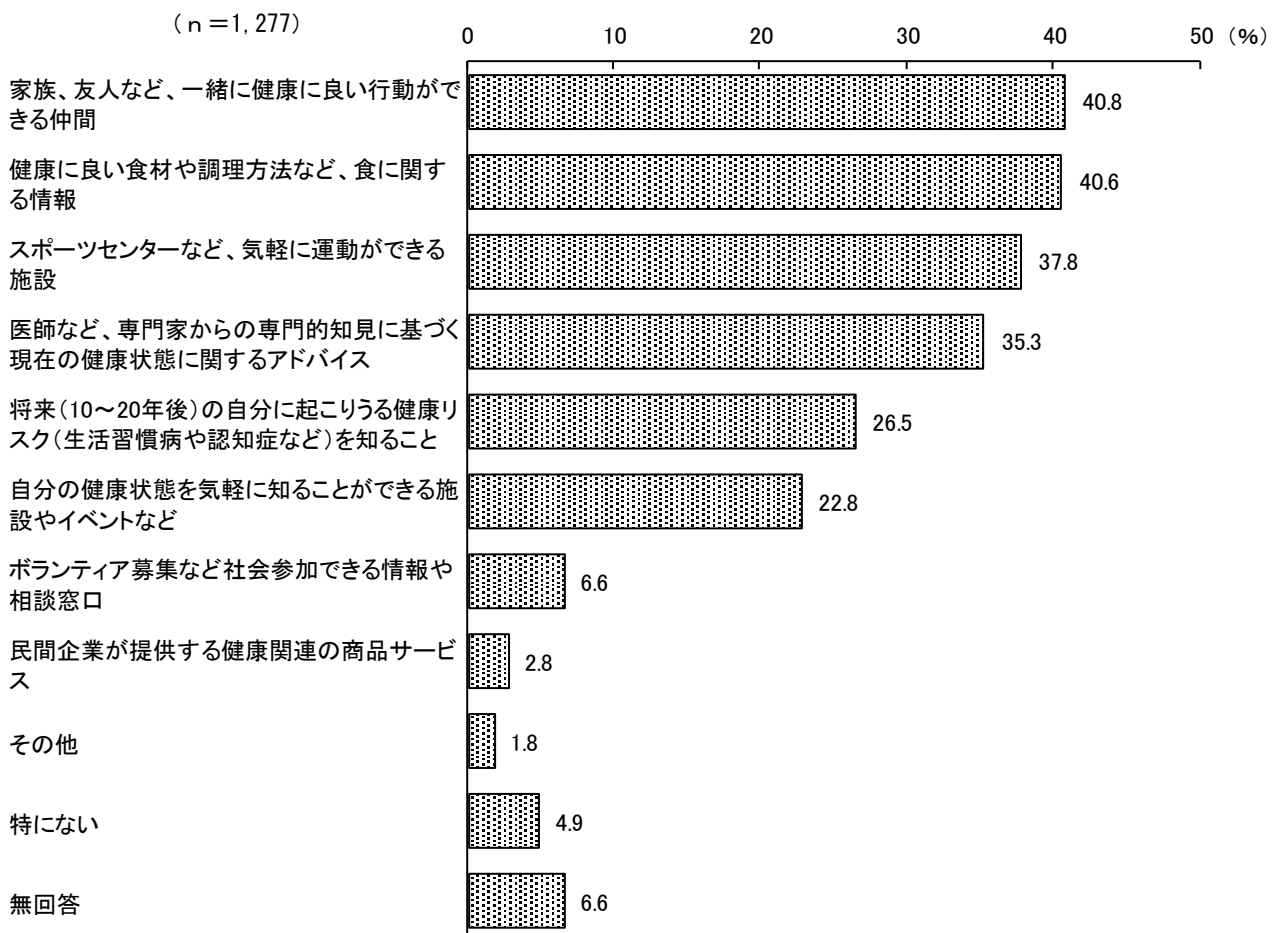


3 「未病改善」の取組みに必要なと思うもの【問41】

【全体の状況】

「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）をするにあたって必要だと思うものを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「家族、友人など、一緒に健康に良い行動ができる仲間」が40.8%で最も多く、次いで「健康に良い食材や調理方法など、食に関する情報」が40.6%であった。（図表14-3-1）

図表14-3-1 「未病改善」の取組みに必要なと思うもの（複数回答）



図表14-3-2 「未病改善」の取組みに必要なと思うもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	家族、友人など、一緒に健康に良い行動ができる仲間	健康に良い食材や調理方法など、食に関する情報	スポーツセンターなど、気軽に運動ができる施設	医師など、専門家からの専門的知識に基づき現在の健康状態に関するアドバイス	病や認知症などを知らず、生活習慣	将来（10～20年後）の自分に起こりうる健康リスク（生活習慣	自分の健康状態を気軽に知ることができる施設やイベントなど	ボランティアや相談窓口	民間企業が提供する健康関連の商品サービス	その他	特になし	無回答
全体	1,277	40.8	40.6	37.8	35.3	26.5	22.8	6.6	2.8	1.8	4.9	6.6	
【地域別】													
横浜	477	43.2	37.7	41.1	36.9	24.5	21.0	7.3	3.4	1.7	5.7	6.1	
川崎	174	42.5	37.4	42.5	40.2	25.3	23.0	7.5	2.3	2.3	3.4	6.9	
相模原	90	40.0	36.7	37.8	30.0	30.0	26.7	3.3	3.3	2.2	3.3	5.6	
横須賀三浦	115	35.7	43.5	32.2	30.4	32.2	25.2	4.3	5.2	1.7	5.2	6.1	
県央	135	40.7	43.7	28.9	37.8	31.1	23.0	8.1	1.5	0.0	3.7	5.9	
湘南	219	42.0	48.4	36.5	32.9	27.9	25.6	5.5	2.3	2.7	5.9	3.2	
県西	47	31.9	51.1	44.7	38.3	23.4	21.3	6.4	0.0	2.1	2.1	2.1	
【性・年代別】													
男性	586	38.6	42.2	34.0	41.0	24.9	20.6	6.0	2.6	2.6	6.3	3.4	
女性	658	43.9	40.1	42.7	31.0	29.0	25.2	7.3	3.2	1.2	3.6	7.1	
男性18～29歳	27	55.6	40.7	44.4	22.2	14.8	14.8	7.4	0.0	0.0	11.1	0.0	
30歳代	57	49.1	49.1	36.8	36.8	26.3	22.8	3.5	1.8	7.0	5.3	3.5	
40歳代	106	45.3	35.8	37.7	36.8	28.3	24.5	7.5	3.8	0.9	3.8	1.9	
50歳代	159	39.0	41.5	37.1	39.6	27.0	17.6	5.7	2.5	3.1	6.3	1.9	
60歳代	111	29.7	41.4	23.4	46.8	25.2	25.2	5.4	4.5	3.6	7.2	3.6	
70～74歳	55	34.5	56.4	29.1	47.3	25.5	10.9	7.3	0.0	1.8	7.3	5.5	
75歳以上	51	25.5	33.3	37.3	43.1	17.6	23.5	5.9	2.0	0.0	5.9	11.8	
女性18～29歳	43	55.8	46.5	51.2	30.2	23.3	30.2	14.0	7.0	0.0	0.0	4.7	
30歳代	90	56.7	40.0	46.7	28.9	23.3	25.6	1.1	1.1	2.2	5.6	5.6	
40歳代	148	38.5	37.8	48.6	23.6	31.1	27.7	11.5	3.4	2.7	4.7	4.1	
50歳代	142	45.1	40.1	45.1	26.8	38.7	21.8	6.3	4.2	0.0	2.1	7.7	
60歳代	112	40.2	39.3	42.0	42.0	27.7	24.1	6.3	1.8	0.9	1.8	8.0	
70～74歳	54	46.3	40.7	35.2	29.6	22.2	16.7	7.4	1.9	0.0	3.7	11.1	
75歳以上	49	40.8	42.9	22.4	46.9	24.5	28.6	6.1	4.1	2.0	4.1	10.2	

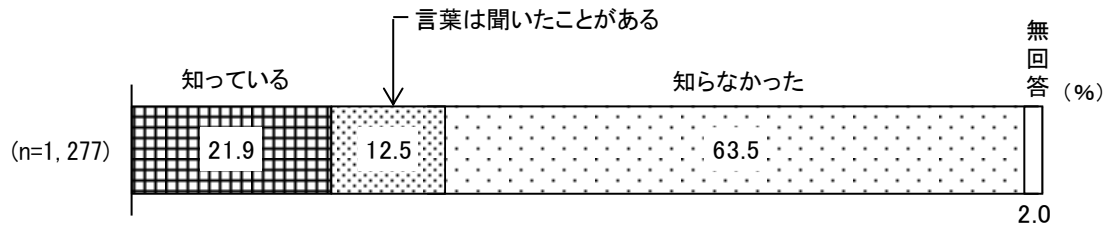
4 「フレイル」の認知度【問42】

【全体の状況】

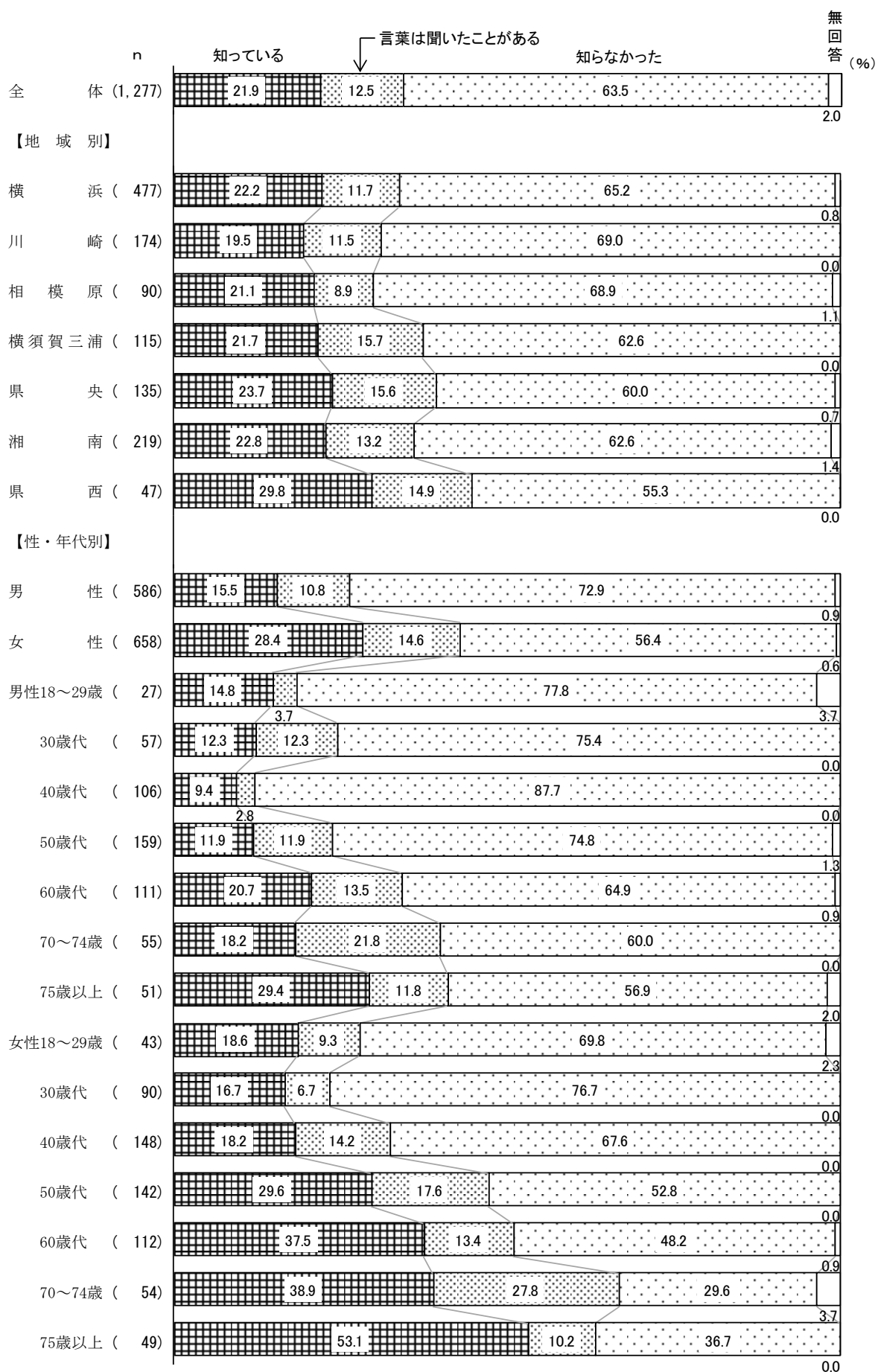
「フレイル」という言葉を知っているか尋ねたところ、「知っている」が21.9%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が12.5%であった。

一方、「知らなかった」が63.5%であった。(図表14-4-1)

図表14-4-1 「フレイル」の認知度



図表14-4-2 「フレイル」の認知度—地域別、性・年代別



第15章 思いやりのある社会【問43】

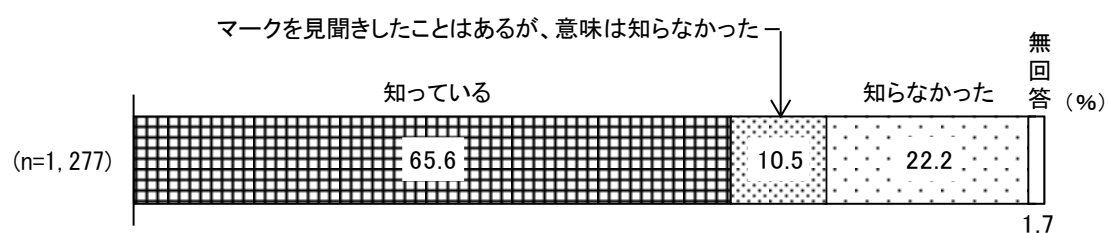
1 「ヘルプマーク」の認知度【問43】

【全体の状況】

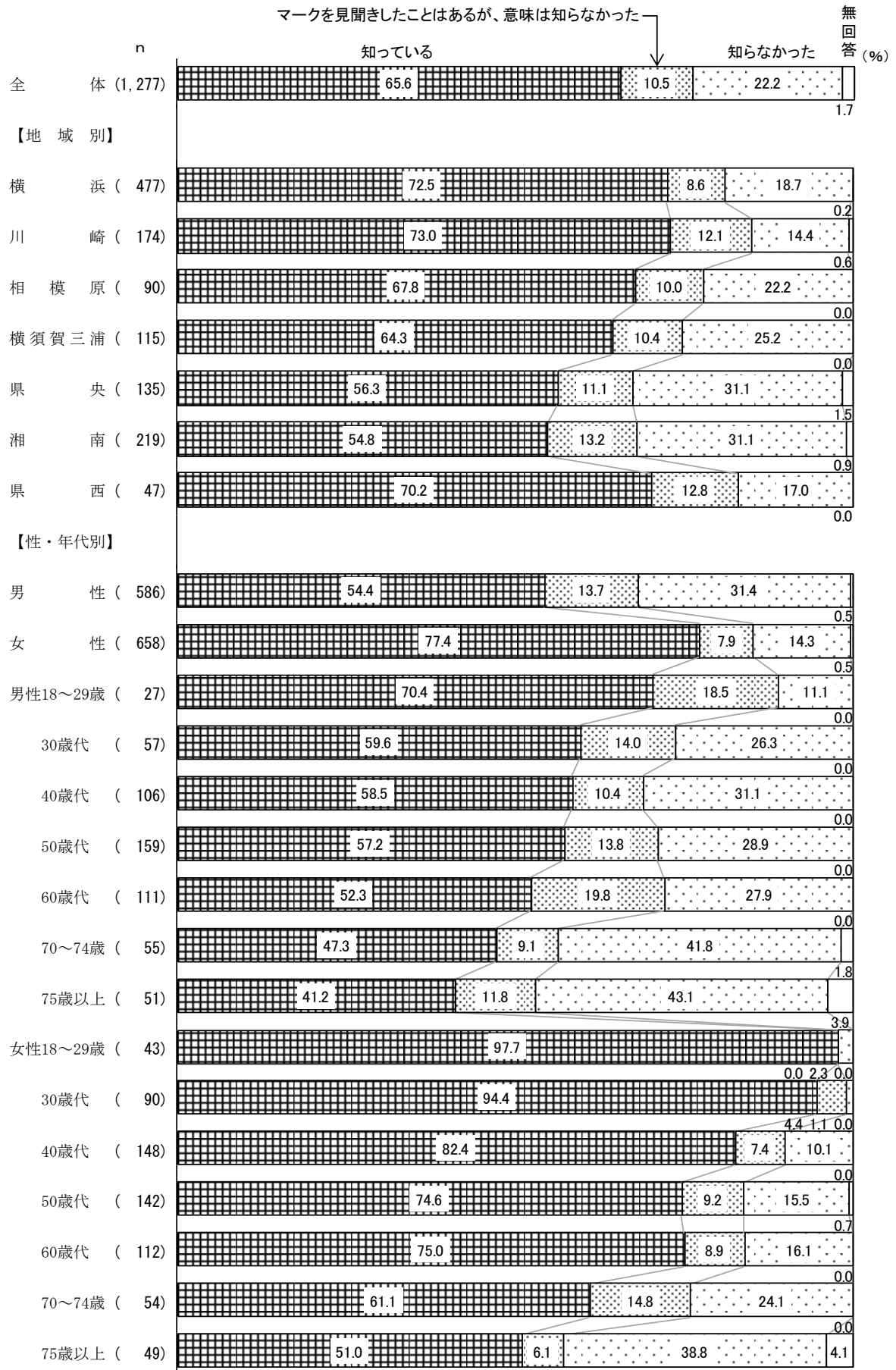
「ヘルプマーク」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が65.6%であった。また、「マークを見聞きしたことはあるが、意味は知らなかった」が10.5%であった。

一方、「知らなかった」が22.2%であった。(図表15-1-1)

図表15-1-1 「ヘルプマーク」の認知度



図表15-1-2 「ヘルプマーク」の認知度—地域別、性・年代別



第IV部 調査票と単純集計結果

令和4年度(2022年) 神奈川県『県民ニーズ調査』(第2回課題調査)

この調査は、県民の皆様のご意見やお考えをお聴きし、今後の県の施策を検討する基礎資料とするものです。日ごろのお考えを率直にお聴かせください。

【アンケートのテーマ】

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1 生物多様性 | 9 かながわの人権 |
| 2 環境問題 | 10 青少年を保護する条例 |
| 3 かながわの水源地域 | 11 子育てにおける体罰の意識 |
| 4 スポーツ | 12 がん対策 |
| 5 自転車の利用 | 13 依存症に対する意識 |
| 6 かながわの広報 | 14 「未病改善」の取組み |
| 7 地震対策の取組み | 15 思いやりのある社会 |
| 8 消防団 | |

◆ 記入上の留意事項

- この調査のご回答は、**封筒のあて名のご本人様**にお願いいたします。
- この調査は無記名式です。お名前やご住所の**記入は不要**です。
- お答えは、直接、この調査票の**あてはまる番号を○**で囲んでください。
- ご記入いただく筆記用具の種類や色の指定はありません。
- 分かる質問だけお答えいただければ結構です。

▼ ご記入いただいた調査票は、同封の**返送用封筒**に入れ、**11月21日(月)まで**にご投函ください。(切手の貼り付け、お名前やご住所の記入は不要です。)

▼ インターネットからご回答された方は、**調査票の郵送は不要**です。

【お問い合わせ先】

神奈川県 政策局 政策部 情報公開広聴課 広聴グループ

- お問い合わせフォーム(11月21日までの期間限定)

県民ニーズ調査HP

(<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)に掲載している

「令和4年度調査対象者」向けお問い合わせフォームから送信してください。

右記の二次元コードからも送信できます。

お問い合わせフォーム
 へアクセスできます。



- 電話 (045)210-1111 (内線3672~3676)

※ 受付時間：月～金 8:30～17:15 (土日祝日は閉庁)

1 生物多様性

問1 「生物多様性」※の言葉の意味を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,277) (%)

1 知っている	35.3	2 言葉は聞いたことがある	36.6	3 知らなかった	26.4
(無回答 1.6)					

※ **生物多様性**とは、様々な自然が存在し、そこに住む様々な生きものたちに個性があり、お互いに関わりを持っていることをいいます。こうした自然や生きものたちが育む水や空気、食べ物などの恵みにより、私たちの暮らしは支えられています。

問2 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることはありますか。

(○はいくつでも) (n=1,277) (%)

1 責任あるペットの飼育	33.0	6 生物多様性を保全する活動に参加する	2.5
2 生態系に配慮した農畜水産物(※1)の購入	15.8	7 家族や友人と生物多様性保全の話をする	8.0
3 生物多様性保全に取り組む企業(※2)の製品の購入	11.3	8 その他	1.2
4 身近な自然を生物多様性の視点で考える	28.7	9 特になし	33.0
5 生物多様性に関する記事や広告に目を留める	19.5	(無回答 2.2)	

※1 **生態系に配慮した農畜水産物**とは、環境保全型農業や有機畜産により生産された農畜産物、持続可能な漁業による水産物であり、例えば有機JAS認証やエコファーマーマーク、海のエコラベルがついた製品が挙げられます。

※2 **生物多様性保全に取り組む企業**とは、製品製造時に環境負荷軽減に配慮したり、清掃や植林などの保全活動を継続して実施したりしている企業のことをいいます。今や75%の企業が経営方針に生物多様性保全の概念を盛り込んでおり、自社ホームページなどで活動を公開しています。

問3 お住いの周辺地域の自然環境は、おおよそ3年前と比べてどのような変化があったと感じますか。

(○は1つ) (n=1,277) (%)

1 豊かになった	1.3	4 どちらかといえば劣化した	19.8
2 どちらかといえば豊かになった	4.9	5 劣化した	7.7
3 変化はない	56.0	6 分からない	8.9
(無回答 1.3)			

2 環境問題

問4 今後、県には環境に関するどのような取組みに対して、特に力を入れてほしいですか。

(○はいくつでも) (n=1,277) (%)

1 地球温暖化対策や脱炭素化のための取組み	59.2	6 環境教育に関する取組み	32.6
2 廃棄物対策など資源循環のための取組み	62.4	7 その他	1.3
3 自然環境や生物多様性の保全のための取組み	41.0	8 特になし	2.6
4 大気環境保全のための取組み	35.9	9 分からない	1.6
5 水質や水辺の環境保全のための取組み	55.1	(無回答 1.3)	

問5 普段、環境に関する情報をどこから入手していますか。(〇はいくつでも) (n=1,277) (%)

1 テレビ・ラジオ	76.0	5 学校の授業やイベント	2.2
2 新聞・雑誌	38.2	6 家族・友人・知人から	8.6
3 インターネット・ソーシャルメディア※	58.7	7 その他	0.9
4 行政や企業の広報誌やイベント	17.8	8 どこからも入手していない	1.8
(無回答 1.2)			

※ ソーシャルメディアとは、例えばTwitter、Facebook、Instagramなどがあります。

問6 「脱炭素(カーボンニュートラル)」※に関心がありますか。(〇は1つ) (n=1,277) (%)

1 関心がある	28.4	4 関心がない	6.1
2 どちらかといえば関心がある	41.9	5 分からない	10.7
3 どちらかといえば関心がない	11.5	(無回答 1.3)	

※ 脱炭素とは、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることをいいます。脱炭素の状態にするためには、省エネや太陽光発電の導入、森林管理などを積極的に行う必要があります。

問7 「気候変動への適応」※に関心がありますか。(〇は1つ) (n=1,277) (%)

1 関心がある	50.4	4 関心がない	3.5
2 どちらかといえば関心がある	35.5	5 分からない	3.5
3 どちらかといえば関心がない	6.0	(無回答 1.1)	

※ 気候変動への適応とは、地球温暖化を主要因とした気温上昇や大雨の増加などによる健康被害や自然災害などの影響を避けることや軽減することをいいます。地球温暖化が進むと、これらの影響は更に大きくなる恐れがあるため、気候変動への適応が重要です。

3 かながわの水源地域

問8 県の「やまなみ五湖」(※1)に関する観光やグルメなどの情報収集をする場合、どの手段を利用したいと思いますか。(〇はいくつでも) (n=1,277) (%)

1 パンフレット	32.3	5 ソーシャルメディア(※2)	32.9
2 ポスター	18.2	6 その他	2.0
3 ホームページ	52.9	7 分からない	9.4
4 インターネットメール(メールマガジン)	20.1	(無回答 1.1)	

※1 やまなみ五湖とは、県の北西部にある、相模湖、奥相模湖、津久井湖、丹沢湖及び宮ヶ瀬湖の5つのダム湖の総称のことをいいます。

※2 ソーシャルメディアとは、例えばTwitter、Facebook、Instagramなどがあります。

問9 「やまなみグッズ」※を買ってみたいと思いますか。(〇は1つ) (n=1,277) (%)

1 そう思う	11.8	4 そもそも知らなかった	51.1
2 そう思わない	11.7	5 分からない	6.7
3 どちらともいえない	17.7	(無回答 1.1)	

※ やまなみグッズとは、水源地域の素材や、自然の恵みを生かした食品、工芸品などの特産品のことをいいます。

問 10 工芸品の職人や体験教室の講師など、水源地域の魅力を発信する様々な活動をしている人と現地で交流する場合、どのようなことを体験したいですか。 (○はいくつでも) (n=1, 277) (%)

1 ダム湖などの現地案内	41.7	5 水源林の役割などの水源学習	25.3
2 農作物などの収穫体験	33.6	6 その他	0.9
3 水源林の保全体験	21.1	7 特にない	17.6
4 工芸品などの工作体験	42.0		(無回答 1.2)

4 スポーツ

問 11 体力に自信はありますか。 (○は1つ) (n=1, 277) (%)

1 ある	9.0	4 ない	20.0
2 どちらかといえばある	30.9	5 分からない	4.4
3 どちらかといえはない	34.5		(無回答 1.1)

問 12 この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツ※をした日数はどのくらいになりますか。 (○は1つ) (n=1, 277) (%)

1 週に5日以上	13.5	5 月に1～3日程度	15.6
2 週に3日程度	13.8	6 3か月に1～2日程度	6.7
3 週に2日程度	12.4	7 年に1～3日程度	10.0
4 週に1日程度	17.0	8 分からない	9.6
			(無回答 1.4)

※ 1回10分程度の運動やスポーツを合計して30分でも構いません。また、レクリエーションとして行う身体活動やウォーキングなどの軽度の運動も含まれます。

問 13 スポーツ推進に係る取組みについて、知っているものを選んでください。 (○はいくつでも) (n=1, 277) (%)

1 3033 (サンマルサンサン) 運動 (※1)	7.0	3 どれも知らなかった	83.8
2 総合型地域スポーツクラブ (※2)	9.8		(無回答 1.6)

※1 3033 (サンマルサンサン) 運動とは、運動やスポーツを1日30分、週3回、3か月間継続して行い、くらしの一部として習慣化する取組みのことをいいます。

※2 総合型地域スポーツクラブとは、地域住民が主体となって運営する多種目、多世代、多志向型のスポーツクラブのことをいいます。

問 14 「かながわパラスポーツ」※について知っていますか。 (○は1つ) (n=1, 277) (%)

1 知っている	5.8	3 知らなかった	70.2
2 言葉は聞いたことがある	22.9		(無回答 1.0)

※ かながわパラスポーツとは、すべての人が自分の運動機能を活かして同じように楽しみながらスポーツをする、観る、支えることをいいます。

5 自転車の利用

問 15 県の条例で、自転車を利用される方全てに自転車損害賠償責任保険等※の加入義務があることを知っていますか。 (○は1つ) (n=1,277) (%)

1 知っている	75.0	2 知らなかった	23.8	(無回答 1.2)
---------	------	----------	------	-----------

※ 自転車損害賠償責任保険等とは、自転車を利用中の交通事故で、相手の怪我などの被害に係る損害を補償する保険等のことをいいます。保険等には、自転車専用の保険のほか、自動車保険などの特約（個人賠償責任保険）、自転車に付帯する保険などがあります。

問 16 通勤や通学、その他日常生活で自転車を利用していますか。 (○は1つ) (n=1,277) (%)

1 利用している	29.5	2 利用していない	69.1	(無回答 1.3)
----------	------	-----------	------	-----------

【問 16 で 1 を選んだ方へ】

問 16-1 自転車損害賠償責任保険等に加入していますか。 (○は1つ) (n=377) (%)

1 加入している	78.0	3 分からない	7.4
2 加入していない	13.3	(無回答 1.3)	

問 16-2 自転車をどのような目的で利用していますか。 (○はいくつでも) (n=377) (%)

1 通勤・通学	38.2	4 スポーツ・レジャー	19.1
2 仕事	9.8	5 その他	4.2
3 買い物・食事	74.8	(無回答 0.5)	

【問 16 で 2 を選んだ方へ】

問 16-3 今後、自転車を利用したいと思いますか。 (○は1つ) (n=883) (%)

1 そう思う	18.0	3 どちらともいえない	26.6
2 そう思わない	47.2	(無回答 8.2)	

6 かながわの広報

問 17 県は、県の取組みや行事、お知らせなど県政情報を十分に伝えていると思いますか。 (○は1つ) (n=1,277) (%)

1 伝えている	7.7	4 伝えていない	9.6
2 どちらかといえば伝えている	31.3	5 分からない	27.2
3 どちらかといえば伝えていない	23.5	(無回答 0.7)	

問 18 県が県政情報を伝えている広報媒体について、知っているものを選んでください。

(○はいくつでも) (n=1, 277) (%)

1 県の広報紙「県のたより」	67.3	
2 県の公式 YouTube チャンネル「かなチャン TV」	4.9	
3 県の広報テレビ番組 (tvk「カナフル TV」)	12.8	
4 県の広報ラジオ番組 (FM ヨコハマ「KANAGAWA Muffin」)	11.5	
5 県のホームページ	35.6	
6 県のソーシャルメディア※	9.0	
7 県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	19.2	
8 新聞での紙面広報	14.3	
9 フリーペーパー	6.3	
10 どれも知らなかった	12.8	(無回答 3.3)

※ ソーシャルメディアとは、例えば Twitter、Facebook、Instagram などがあります。

問 19 県政情報をどこから入手していますか。

(○はいくつでも) (n=1, 277) (%)

1 県の広報紙「県のたより」	58.9	
2 県の公式 YouTube チャンネル「かなチャン TV」	1.4	
3 県の広報テレビ番組 (tvk「カナフル TV」)	6.3	
4 県の広報ラジオ番組 (FM ヨコハマ「KANAGAWA Muffin」)	6.2	
5 県のホームページ	23.6	
6 県のソーシャルメディア	6.7	
7 県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	12.1	
8 新聞での紙面広報	11.3	
9 フリーペーパー	4.2	
10 どこからも入手していない	20.9	(無回答 3.4)

7 地震対策の取組み

問 20 家では、大きな地震に備えて、どのような対策をとっていますか。

(○はいくつでも)

(n=1, 277) (%)

1 持出品の準備や食料などの備蓄	61.4	6 防災訓練に積極的に参加	8.5
2 住まいの耐震化	17.5	7 感震ブレーカー※などの設置	6.0
3 家具・家電などの固定	34.3	8 消火器の設置	25.1
4 避難場所や避難経路の確認	38.6	9 その他	0.2
5 家族と連絡方法の確認	31.6	10 特に対策はとっていない	12.8
(無回答 3.4)			

県では、首都直下地震や南海トラフ地震、県西部地震の発生の切迫性が指摘されるなど、大規模地震に対する備えが重要な課題となっています。

※ 感震ブレーカーとは、揺れを感知して電気を止める器具のことをいいます。

問 21 津波について、知っていたことを選んでください。(○はいくつでも) (n=1,277) (%)

1 小さな揺れでも津波の恐れがある	57.6	7 遠い所ではなく高い所に逃げる必要がある	82.5
2 津波は早ければ数分で到達する	80.6	8 津波フラッグ(※2)が出ることもある	7.6
3 地震発生後5分以内に避難する必要がある	33.4	9 放送で津波を知らせることがある	52.0
4 津波は繰り返し襲ってくる	75.0	10 津波防災地域づくり法(※3)がある	3.1
5 津波避難ビル指定の建物がある	27.2	11 どれも知らなかった	0.8
6 津波に関するマップ(※1)がある	46.3		(無回答 3.3)

※1 津波に関するマップとは、津波の浸水範囲や避難情報などが記載されている、津波浸水予測図マップや津波ハザードマップなどのことをいいます。

※2 津波フラッグとは、津波警報・注意報などが発表された際、避難を呼びかけるために海岸に出される赤と白の格子模様の旗のことをいいます。

※3 津波防災地域づくり法とは、2011年12月施行の「津波防災地域づくりに関する法律」のことをいいます。

問 22 津波に対する防災・減災の観点から、お住まいの地域で実施が望まれるものはありますか。(○はいくつでも) (n=1,277) (%)

1 「津波災害警戒区域」(※1)の指定	23.3	5 その他	1.0
2 「津波災害特別警戒区域」(※2)の指定	17.9	6 特になし	11.4
3 「推進計画」(※3)の策定	13.9	7 分からない	18.3
4 内陸在住のため、特に望むものはない	34.8		(無回答 4.8)

※1 津波災害警戒区域とは、津波発生時に住民等に危害が生じる恐れがある区域のことをいいます。

※2 津波災害特別警戒区域とは、津波災害警戒区域のうち、住民等に著しい危害が生じる恐れがある区域のことをいいます。

※3 推進計画とは、津波防災地域づくりを推進するために市町村が作成する計画のことをいいます。

8 消防団

問 23 消防団※を知っていますか。(○は1つ) (n=1,277) (%)

1 知っている	75.4	3 知らなかった	2.2
2 言葉は聞いたことがある	19.1		(無回答 3.3)

※ 消防団とは、普段は別の仕事などをしながら、消火・救助活動、防火啓発活動などを行う、その市町村に居住(または勤務・通学)している人で構成される市町村の消防機関のことをいいます。

問 24 消防団に入団したいと思いますか。(○は1つ) (n=1,277) (%)

1 入団したい	0.5	4 すでに入団している	0.4
2 条件が合えば入団してもよい	6.3	5 どちらともいえない	20.9
3 入団したくない	56.9	6 分からない	10.9
			(無回答 4.1)

問 25 消防団員の減少が全国的に問題となっています。消防団に入団する人が少ない理由は何だと思
いますか。 (○はいくつでも) (n=1,277) (%)

1 消防団活動の意義を感じないから	12.9	7 人づきあいが大変そうだから	33.9
2 申込方法が分からないから	18.4	8 家族の同意が得られないから	6.7
3 活動する時間がないから	52.8	9 職場の理解が得られないから	16.0
4 活動が大変そうだから	49.6	10 消防団活動に対する報酬や手当が少ないから	23.5
5 活動内容をよく知らないから	42.9	11 その他	1.6
6 体力に自信がないから	32.5	12 分からない	5.4
(無回答 1.1)			

9 かながわの人権

問 26 今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思いますか。 (○は1つ) (n=1,277) (%)

1 そう思う	33.0	3 どちらともいえない	41.4
2 そう思わない	21.5	(無回答 4.1)	

問 27 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題は何ですか。 (○はいくつでも)
(n=1,277) (%)

1 子どもの人権	36.6	8 貧困※などによる人権問題	37.5
2 女性の人権	38.2	9 犯罪被害者などの人権	22.6
3 障がい者の人権	37.8	10 拉致被害者の人権	15.5
4 高齢者の人権	28.4	11 性的マイノリティの人権	22.9
5 医療従事者・患者などの人権	23.3	12 インターネットにおける人権問題	40.9
6 同和問題(部落差別)	7.0	13 その他	1.8
7 外国人の人権	17.4	14 特にない	7.8
(無回答 1.3)			

※ 貧困とは、平均収入の半分以下の世帯であり、年齢に関係なく住居喪失状態に陥っている状態や、適切な支援につながらず、生活に困窮している状態のことをいいます。

問 28 人権課題を解消するために、力を入れて取り組む必要があると思うことは何ですか。
(○はいくつでも) (n=1,277) (%)

1 学校などにおける人権教育	64.8	6 差別的表現の規制・モニタリング	17.7
2 企業などにおける人権研修	38.8	7 国による法整備	44.6
3 広告やインターネットを活用した啓発活動	21.0	8 地方自治体による条例整備	32.0
4 相談体制の充実	37.4	9 その他	1.3
5 当事者を支援する取組みの充実	38.7	10 分からない	7.7
(無回答 1.1)			

10 青少年を保護する条例

問 29 県で「青少年保護育成条例」※を定めていますが、その内容を知っていますか。 (○は1つ)
(n=1, 277) (%)

1 知っている	28.7	3 知らなかった	24.0
2 条例があることは知っていたが、内容は知らなかった	46.8	(無回答)	0.5

※ 「青少年保護育成条例」とは、青少年に有害な「有害図書類」と一般図書との区分陳列や、夜11時以降の青少年の外出の制限など、様々な規定により青少年の健全な育成を図ることを目的とした条例のことをいいます。

問 30 県で「青少年喫煙飲酒防止条例」※を定めていますが、その内容を知っていますか。
(○は1つ) (n=1, 277) (%)

1 知っている	49.0	3 知らなかった	27.2
2 条例があることは知っていたが、内容は知らなかった	23.3	(無回答)	0.5

※ 「青少年喫煙飲酒防止条例」とは、購入者が20歳未満の者と疑われる場合に販売者が証明書により年齢確認をする義務を定めるなど、20歳未満の者の喫煙・飲酒の防止を目的とした条例のことをいいます。

11 子育てにおける体罰の意識

問 31 令和2年4月から体罰(※1)の禁止が法定化されました(※2)が、依然として体罰が起きています。どのようなことが課題であると考えますか。 (○は1つ) (n=1, 277) (%)

1 子育てについて相談できる人がいない	24.9	5 その他	4.1
2 体罰を容認している風潮がある	11.5	6 特になし	3.4
3 適切な子育ての方法が分からない	21.9	7 分からない	7.5
4 体罰が禁止されていることを知らない	4.9	(無回答)	21.8

※1 体罰とは、「注意しても聞かないので頬を叩く」など、身体に苦痛、不快感を与える行為のことをいいます。また、子どもに対して、冗談のつもりでも「生まれてこなければよかった」と存在を否定するなどの発言は、子どもの心を傷つける行為であり、虐待や人権侵害に当たります。

※2 令和元年6月に成立した児童福祉法等の改正法において、体罰の禁止が法定化され、令和2年4月1日から施行されました。この法律施行の背景には、保護者が「しつけ」と称して暴力・虐待を行い、子どもの命が失われる痛ましい事件が続いたことがあります。

問 32 体罰などが繰り返されると、心身にさまざまな悪影響が生じる可能性があることが、科学的にも証明されています。次の中から体罰などが子どもに与える影響について知っているものを選んでください。 (○はいくつでも) (n=1, 277) (%)

1 身体に苦痛、不快感を与える	78.5	6 感情をうまく表せない	70.1
2 親子関係を悪くする	61.2	7 落ち着いて話を聞けない	41.3
3 攻撃的になる	55.1	8 我慢ができない	33.9
4 びくびくして落ち込む	67.5	9 自信をなくす	66.2
5 心を傷つける	83.0	10 知っているものはない	2.4
		(無回答)	1.0

問 33 子どものしつけで困った時に、誰に（どこに）相談したいと思いますか。 (○は3つまで)
(n=1,277) (%)

1 家族や親戚	61.7	6 市役所や町役場、村役場	5.7
2 友人や知人	51.1	7 児童相談所	12.1
3 子どもの学校や幼稚園、保育園など	24.0	8 その他	2.2
4 子育てサークル	3.6	9 相談したくない	1.5
5 子育て支援センター	24.7	10 分からない	8.3
(無回答 6.8)			

12 がん対策

問 34 コロナ禍における「がん検診」の受診について、どのように考えていますか。 (○は1つ)
(n=1,277) (%)

1 コロナ禍であっても、受診すべきである	81.0	4 分からない	8.1
2 コロナ禍では、受診は控えるべきである	5.0		
3 そもそも受診する必要性を感じない	4.4		(無回答 1.5)

主ながん検診の種類は、胃がん（問診、胃のX線検査又は胃内視鏡検査）、大腸がん（問診、便潜血検査）、肺がん（問診、肺のX線検査及び喀痰細胞診）、乳がん（問診及びマンモグラフィ）、子宮頸がん（問診、視診、細胞診及び内診）です。

【問 34 で 1 を選んだ方へ】

問 34-1 これからがん検診を受ける場合、どこで受診しようと思いますか。 (○は1つ)
(n=1,035) (%)

1 お住まいの市町村が行っているがん検診	46.4	4 人間ドック※	22.7
2 職場で行っているがん検診	19.6	5 その他	1.3
3 家族が勤務する職場で行っているがん検診	4.7	6 分からない	2.3
(無回答 3.0)			

※ 人間ドックとは、日帰りや入院を問わず、病気の予防や早期発見のために全身の状態を詳しく検査する健康診断のことをいいます。

問 35 県民のがん検診受診率は、目標としている 50%をなかなか超えられていない状況です。がん検診を受ける人が少ない理由は何だと思えますか。 (○は3つまで) (n=1,277) (%)

1 がん検診の重要性が理解されていないから	32.4	6 検査が痛そうだから	9.4
2 申込方法や日程が分からないから	22.8	7 費用がかかるから	40.9
3 申込みが面倒だから	35.9	8 検査の結果を聞くのが怖いから	11.4
4 検診会場が不便な場所にあるから	12.4	9 検診会場でコロナに感染するのが怖いから	6.3
5 夜間や休日に受けられないから	34.2	10 分からない	5.2
(無回答 5.9)			

13 依存症に対する意識

問 36 依存症※について、あてはまると思うことを選んでください。(○はいくつでも) (n=1,277) (%)

1 誰でもなる可能性がある	85.0	7 その他	0.7
2 意志が弱いことが原因でなるわけではない	34.9	8 分からない	1.9
3 やめたくても、やめられなくなる病気である	69.1	9 当てはまるものはない	1.2
4 回復することはできるが時間がかかる	49.4		
5 自分が依存症であることを認めない	45.0		
6 依存対象が生活の最優先事項になる	31.6	(無回答	1.4)

※ 依存症とは、アルコールや薬物など、特定の物質を摂取することや、ギャンブルやゲーム、インターネットなど、特定の行動にのめり込み、心身への問題や社会生活への支障が生じることをいいます。

問 37 依存症について、相談できる場所として知っているものを選んでください。(○はいくつでも) (n=1,277) (%)

1 依存症専門医療機関・専門クリニック	64.8		
2 かかりつけ医（内科医など）	30.2		
3 行政機関（精神保健福祉センター、保健所など）	24.7		
4 回復支援施設（依存症の回復のための通所・入所施設）	29.7		
5 当事者や家族などの自助グループ	18.6		
6 弁護士・司法書士	1.6		
7 その他	0.2		
8 分からない	13.2		
9 知っているものはない	7.4	(無回答	2.1)

【問 37 で 1～7 を選んだ方へ】

問 37-1 相談できる場所を知ったきっかけを選んでください。(○はいくつでも) (n=986) (%)

1 ポスター・チラシなど	25.5	5 家族・知人から	13.4
2 県・市町村の広報誌（県のとよりなど）	23.7	6 職場・学校	10.4
3 医療機関・行政機関などのホームページ	28.1	7 その他	18.0
4 SNS	16.2	(無回答	7.7)

【全員の方がお答えください】

問 38 依存症の回復に必要なと思うものは何ですか。(○はいくつでも) (n=1,277) (%)

1 医療機関などでの治療	75.6	6 家族の説得	16.5
2 専門相談機関への相談	62.9	7 家族の金銭面での肩代わり	6.7
3 家族や職場など周囲の人の理解	61.2	8 その他	1.3
4 自助グループのミーティング (当事者など自身の体験などを話し合う)	30.8	9 分からない	2.1
5 本人の強い意志	51.8	10 特にない	0.5
		(無回答	2.1)

14 「未病改善」の取組み

問 39 「未病 (ME-BYO)」※の言葉の意味を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,277) (%)

1 知っている	26.4	3 知らなかった	44.1
2 言葉は聞いたことがある	27.1		(無回答 2.4)

※ **未病**とは、健康と病気を「二分論」の概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化
するものと捉え、すべての変化の過程を表す概念のことをいいます。

問 40 過去1年間で「未病改善」※の取組み(バランスの良い食事、運動、人との交流など)を以前
と比べて行うようになったと思いますか。 (○は1つ) (n=1,277) (%)

1 もともと行っており、今も行っている	25.2
2 以前ほどではないが、少しずつ行っている	17.3
3 以前は行っていたが、まったく行わなくなった	2.6
4 以前は行っていなかったが、行うようになった	4.4
5 以前は行っていなかったが、少しずつ行うようになった	11.3
6 以前から行っておらず、今も行っていない	35.3
	(無回答 3.9)

※ **未病改善**とは、心身の状態の変化の中で、特定の疾患の予防にとどまらず、心身をより健康な状態に近づけて
いくことをいいます。県では「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。

「食」： 健康的な食生活へ改善すること。食事によく食べこぼすようになるなどの、オーラルフレイル(ささい
な口の機能の衰え)への対策も重要です。

「運動」： 日常生活にスポーツや運動を取り入れること。質の良い睡眠も重要です。

「社会参加」： ボランティアや趣味の活動などで他者と交流し、社会とのつながりを持つこと。

問 41 「未病改善」の取組み(バランスの良い食事、運動、人との交流など)をするにあたって必要だ
と思うものは何ですか。 (○は3つまで) (n=1,277) (%)

1 医師など、専門家からの専門的知見に基づく現在の健康状態に関するアドバイス	35.3
2 健康に良い食材や調理方法など、食に関する情報	40.6
3 ボランティア募集など社会参加できる情報や相談窓口	6.6
4 スポーツセンターなど、気軽に運動ができる施設	37.8
5 家族、友人など、一緒に健康に良い行動ができる仲間	40.8
6 自分の健康状態を気軽に知ることができる施設やイベントなど	22.8
7 民間企業が提供する健康関連の商品サービス	2.8
8 将来(10~20年後)の自分に起こりうる健康リスク(生活習慣病や認知症など)を知ること	26.5
9 その他	1.8
10 特になし	4.9
	(無回答 6.6)

問 42 「フレイル」※という言葉を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,277) (%)

1 知っている	21.9	3 知らなかった	63.5
2 言葉は聞いたことがある	12.5		(無回答 2.0)

※ フレイルとは、高齢になって心身の活力（筋力、認知機能、社会とのつながりなど）が低下した状態のことをいいます。

15 思いやりのある社会

問 43 「ヘルプマーク」を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,277) (%)

1 知っている	65.6		
2 マークを見聞きしたことはあるが、意味は知らなかった	10.5		
3 知らなかった	22.2		(無回答 1.7)



ヘルプマークとは、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方が援助を得やすくなるよう、東京都が考案したマークのことをいいます。神奈川県でもその目的に賛同し、普及・啓発を進めています。

マークの実際の背景色は赤色です。詳細は、下記HPをご覧ください。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/yv4/cnt/f536306>

…*…

集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。(個人を特定するものではありません。)

F 1 お住まいの地域はどちらですか。 (n=1,277) (%)

1 横浜（横浜市）	37.4		
2 川崎（川崎市）	13.6		
3 相模原（相模原市）	7.0		
4 横須賀三浦（横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町）	9.0		
5 県央（厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村）	10.6		
6 湘南（平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町）	17.1		
7 県西（小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町）	3.7		
			(無回答 1.6)

F 2 あなたの性別をお聞かせください。 (n=1,277) (%)

1 男性	45.9	2 女性	51.5	(無回答 2.6)
------	------	------	------	-----------

F 3 あなたの年齢は、おいくつですか。(2022年11月1日現在) (n=1,277) (%)

1	18～19歳	0.3	5	35～39歳	6.1	9	55～59歳	10.2	13	75～79歳	5.3
2	20～24歳	2.2	6	40～44歳	8.8	10	60～64歳	9.2	14	80歳以上	3.1
3	25～29歳	3.0	7	45～49歳	11.4	11	65～69歳	8.6			
4	30～34歳	5.7	8	50～54歳	13.8	12	70～74歳	8.8		(無回答)	3.5

F 4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。あてはまるものをすべて選んでください。(同居、別居は問いません。) (n=1,277) (%)

1	小学校入学前	8.4	5	短大、専門学校等在学中	0.9	9	その他	2.4
2	小学校在学中	9.0	6	大学、大学院等在学中	7.1	10	子どもはいない	34.3
3	中学校在学中	7.8	7	学校教育終了[未婚]	20.0			
4	高校在学中	7.0	8	学校教育終了[既婚]	22.1		(無回答)	4.4

F 5 現在のお宅の家族形態は、次のどれにあたりますか。(n=1,277) (%)

1	一人暮らし(単身世帯)	16.0	4	祖父母と親と子の世帯(3世代世帯)	4.2
2	夫婦のみ(1世代世帯)	28.4	5	その他の世帯	4.4
3	親と子の世帯(2世代世帯)	43.1		(無回答)	4.0

F 6 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。1～9の中から1つ選んでください。
また、1～5を選んだ方は、右のア～ケの中から1つ選んでください。

(n=1,277) (%)

(n=819) (%)

1	自営業主	6.3	ア～ウから 1つ選んで ください。	ア	農林水産業	0.1
2	家族従業者 (家業手伝い)	0.6		イ	商工サービス業(各種商店、飲食店、工事店などの経営)	5.0
3	勤め (フルタイム)	43.0	エ～ケから 1つ選んで ください。	ウ	自由業(開業医、弁護士、茶華道師匠、芸術家など)	5.6
4	勤め (パートタイム)	14.1		エ	経営・管理職(会社等の部長級、官公庁の課長級以上)	8.4
5	内職	0.1		オ	専門・技術職(研究者、技術者、勤務医、看護師など)	23.6
6	主婦・主夫(勤めていない)	14.6		カ	事務職(事務系会社員・公務員、警察官、駅員など)	23.2
7	学生	1.3		キ	教育職(教諭、保育士など)	4.5
8	無職	13.5		ク	技能・労務職(工場の生産工程従事者、運転士など)	9.6
9	その他	1.0		ケ	販売・サービス職(商店、サービス業などの従業員)	17.7
					(無回答)	2.2
					(無回答)	5.5

質問は以上です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返送用封筒で、11月21日（月）までにご投函ください。（切手は不要です。）
なお、インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

今回の調査でお伺いしたテーマについて、ご意見やご提案がありましたら、お書きください。

ご意見やご提案を希望するテーマの番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1 生物多様性 | 9 かながわの人権 |
| 2 環境問題 | 10 青少年を保護する条例 |
| 3 かながわの水源地域 | 11 子育てにおける体罰の意識 |
| 4 スポーツ | 12 がん対策 |
| 5 自転車の利用 | 13 依存症に対する意識 |
| 6 かながわの広報 | 14 「未病改善」の取組み |
| 7 地震対策の取組み | 15 思いやりのある社会 |
| 8 消防団 | |

下記にその内容をご記載ください。

218人（17.1%）から自由意見が寄せられました。

